



公立大学法人

福島県立医科大学

# 医療人育成・支援センター年報

2018-2019年度

## 目 次

1. 挨拶 .....	医療人育成・支援センター長 大谷 晃司	1
2. スタッフ紹介 .....		3
3. 各部門の取組		
1) 医学教育部門 .....	部門長 亀岡（色摩）弥生	9
・活動カレンダー		
・Faculty Development (FD) / 福島医大模擬患者 (SP) の会 /		
出前講座 / 学校見学 / B S Lプライマリーコースの臨床実習プログラム /		
オーディエンス・レスポンス・システム～ターニングポイントの活用 /		
スキルラボ / OSCE / コミュニケーション論 / 地域実習 1 /		
早期ポリクリニック / TBL (臨床実習入門) / 英語による医療面接 /		
多職種連携授業 / 医療入門 1 / 「Moodle を用いた臨床実習評価		
2) 臨床医学教育研修部門 .....	部門長 大谷 晃司	52
・活動カレンダー		
・5年生との未来を語る会、4年生との未来を語る会 / 研修医説明会 /		
ネットワークの活動 / 福島・良き医師を育むプロジェクト /		
指導医講習会 / 臨床研修医に対する支援・教育 / 福島県地域医療を		
考える懇談会 / 修学資金生・自治医科大学学生との合同セミナー /		
ステップ・アップ・セミナー		
3) 看護学教育研修部門 .....	部門長 和田 久美子	86
・活動カレンダー		
・看護学部生を対象とした就職ガイダンス / 看護職を対象とした教育研修		
4) 災害医療総合学習センター .....	センター長 大津留 晶	93
・活動カレンダー		
・学生教育 / 医療・保健従事者への教育 / 地域支援 / 主な業績		
との連携		
4. 研究業績 .....		104

## 1. 挨 拶

---



## 医療人育成・支援センター長挨拶

2018、2019年度の医療人育成・支援センターの年報発刊にあたって

2008年4月に医療人育成・支援センターができて10年がすぎました。この10年間で、本学における医療人育成・支援センターの認知度は著しく上がり、学部教育や卒後の教育になくてはならない組織になったと自負しております。本年報を見てみますと、それぞれの部門が様々な取組を行ってきたことがわかります。

発足以来の10年間を基盤作りとすれば、2018年度から始まった次の10年間は、今までやってきた内容を振り返り、改善をしていくことをルーチンとしていく時期だと考えます。また、今後のセンターの進むべき道を模索するべきだと思います。特に後者に関しては、本学や福島県に新しい教育の流れを導き、それが定着するよう進めることと、我々がやってきたことを学内外の方々が担っていくことが肝要と考えています。

様々な皆様のご協力のもと、本センターが活動できていることに改めて感謝したいと思います。

2020年12月吉日

医療人育成・支援センター センター長  
大谷晃司

## 2. スタッフ紹介

---



# スタッフ紹介

2018年度

## センター長

教授 大谷 晃司

## ○医学教育部門

部門長 教授 亀岡 弥生

教員 助教 青木 俊太郎

助手 諸井 陽子

(兼) 助手 安井 清孝

助手 千葉 靖子

## ○臨床医学教育研修部門

(兼) 部門長 教授 大谷 晃司

(兼) 副部門長 教授 濱口 杉大

(兼) 副部門長 教授 木村 隆

講師 坂本 信雄

教員 助教 日高 亜紀子

助教 唐 尊一

助手 末永 博紀

助教 高野 真澄

## ○看護学教育研修部門

(兼) 部門長 教授 和田 久美子

教員 (兼) 准教授 菅野 久美

## ○災害医療総合学習センター

(兼) センター長 教授 大津留 晶

教員 (兼) 講師 熊谷 敦史

(兼) 助手 安井 清孝

(兼) 助手 千葉 靖子

## ○事務局

(兼) 教育研修支援課長 加藤 宏明

(兼) 主幹兼副課長 (総務) 佐藤 隆博

(兼) 主幹兼副課長 (業務) 五十嵐 睦

(兼) 主任主査兼係長	児 島	学
(兼) 主任主査兼係長	氏 家	涉
(兼) 主任主査兼係長	箭 内	桃 子
(兼) 主任主査兼係長	吉 田	克 己
(兼) 主 事	吉 田	尚 人
(兼) 主 事	中 野	裕 美
(兼) 主 事	安 達	祐 太 郎
(兼) 主 事	武 藤	優 也
(兼) 主 事	石 井	晃 平
(兼) 主 事 (准)	中 村	玲 菜
(兼) 主 事 (准)	佐 藤	千 裕
(兼) 主 事 (准)	高 木	和 子
(兼) 主 事 (准)	菅 野	祐 樹
(兼) 主 事 (准)	紺 野	明 美
(兼) 主 事 (准)	齋 藤	洋 介
(兼) 主 事 (准)	佐 藤	晴 美
(兼) 主 事 (准)	圓 谷	光 紀
(兼) 主 事 (短)	鈴 木	貴 子
(兼) 主 事 (短)	柏 倉	咲 七 枝

※2018年6月1日現在

## 2019年度

### センター長

教授 大谷 晃司

### ○医学教育部門

部門長 教授 亀岡 弥生

教員 助教 青木 俊太郎

助手 諸井 陽子

(兼) 助手 安井 清孝

講座等研究員 千葉 靖子

### ○臨床医学教育研修部門

(兼) 部門長 教授 大谷 晃司

(兼) 副部門長 教授 濱口 杉大

(兼) 副部門長 教授 木村 隆

講師 坂本 信雄

教員 助教 日高 亜紀子

助教 唐 尊一

助手 安田 恵

助手 マハム・スタンヨン

(兼) 助手 末永 博紀

(兼) 助教 高野 真澄

### ○看護学教育研修部門

(兼) 部門長 教授 和田 久美子

教員 (兼) 准教授 菅野 久美

### ○災害医療総合学習センター

(兼) センター長 教授 大津 留晶

教員 (兼) 講師 熊谷 敦史

### ○事務局

(兼) 教育研修支援課長 加藤 宏明

(兼) 主幹兼副課長 (総務) 佐藤 隆博

(兼) 主幹兼副課長 (業務) 菅野 孝雄

(兼) 主任主査兼係長 児島 学

(兼)主任主査兼係長	菅井 和弘
(兼)係長	山本 千夏
(兼)係長	根本 朝彦
(兼)主事	吉田 尚人
(兼)主事	中野 裕美
(兼)主事	磯上 聡一郎
(兼)主事	安達 祐太郎
(兼)主事	武藤 優也
(兼)主事	青木 悠里
(兼)主事(准)	中村 玲菜
(兼)主事(准)	佐藤 千裕
(兼)主事(准)	高木 和子
(兼)主事(准)	菅野 祐樹
(兼)主事(准)	鈴木 貴子
(兼)主事(准)	齋藤 洋介
(兼)主事(短)	高井 早生
(兼)主事(准)	圓谷 光紀
(兼)主事(短)	橋谷田 修子
(兼)主事(短)	柏倉 咲七枝

※2019年6月1日現在

### 3. 各部門の取組

---



## 1) 医学教育部門

---



## ご 挨拶

医学教育部門長 亀岡（色摩）弥生

2018年度と2019年度は、「アウトカム基盤型教育」の考え方に基づいて教育のPDCAサイクルが回りだした時期と言えます。

2016年度から実施している6年生OSCE (advanced OSCE)により明らかになった臨床教育の弱点克服のために、様々な手を打ってきました。例えば、臨床推論力向上を目指して、講義だけで構成されていた症候論の授業に、提示された症例の診断をグループで進め、推論プロセスを講師と議論して振り返る team-based learning (TBL)を導入しました。臨床実習BSLが72週に延長された2018年度には、医学教育モデル・コア・カリキュラムに定める修得すべき臨床手技と37主徴の臨床推論の教育を、漏れなくBSL担当科に割り振りました。そして、全科のBSLの評価項目と評価基準を新たに設定してmoodle上で運用することにより、学生一人一人自分に対する教員のコメントと評価、自身の自己評価を、並べて見ることができるようになりました。更に、学生が予習復習しやすいように、本学のBSLの哲学をまとめたシラバス総論、各科のシラバス、時間割、臨床手技の解説が掲載され、BSLに関する情報をmoodle上に網羅しました。

また、コンピテンシーに掲げながらも行われてこなかった看護学部との多職種連携授業や英語による医療面接の授業新しい教育も導入しました。多職種連携授業は、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科、臨床検査学科を含む新学部開設に向けての布石ともなります。英語による医療面接のスキルは、オリンピックの年に限らず、今後グローバル化が進めば市中病院や診療所で働いていても必要になる場面は増えていくでしょう。

これらの新たな取り組みを短期間に実践できたのは、2017年4月に、4号館3階に新しく医学教育部門と医学教育研修部門の部屋が開設されて二部門が協力しやすい体制になったこと、二部門のメンバーがそれぞれの得意分野で活躍していること、メンバー間で忌憚ない意見交換ができたことによると思います。

しかし、新しい取り組みの実践がゴールではありません。それらの結果を分析し、改良を加え、学生がモチベーションを高く保って実力をつけて行けるような教育を目指します。2020年度になると、いよいよ本学は医学教育の分野別認証評価を受け、6年生OSCEが全国共用試験 (post-CC OSCE) として実施されます。挑戦は続きますが、私共も進化していきたいと思えます。

## 2018年度

### 2018年

- 3月6日 第1回模擬患者会 講話「腰痛について」
- 4月20日 学校見学 磐城高等学校
- 5月8日 医学教育ワークショップ 『Advanced OSCE テストラン』
- 5月15日 医学教育ワークショップ 『Advanced OSCE テストラン』
- 5月23日 医学教育ワークショップ 『Advanced OSCE テストラン』  
学校見学 磐城高等学校
- 6月12日 学校見学 福島成蹊中学校
- 6月16日 Advanced OSCE (医学部6年生)
- 6月28日 医学教育ワークショップ  
『米国における卒然卒後臨床教育の実際～ハーバード大学での研修医・指導医としての経験をふまえて～』  
講師：コロンビア大学メディカルセンター 島田 悠一 先生
- 7月～8月 医学教育ワークショップ 『共用試験 OSCE 学内評価者講習』
- 7月10日 学校見学 郡山第二中学校
- 7月11日 学校見学 福島大学附属中学校
- 7月31日 学校見学 磐城第一高等学校
- 9月4日 共用試験 OSCE (医学部4年生)
- 9月5日 学校見学 茨城県立日立第一高等学校・附属中学校
- 9月11日 学校見学 会津学鳳中学校
- 9月18日 第2回模擬患者会 フィードバック練習会
- 9月26日 医学教育ワークショップ 『客観試験問題作成のノウハウ』
- 10月3日 学校見学 須賀川桐陽高等学校
- 11月13日 第3回模擬患者会 ムラージュ体験とシナリオ作成、BSL、シナリオ練習会
- 11月26日 医学教育ワークショップ  
『エリートだらけの中で輝くために～己を知り、己を磨く～』  
講師：読売ジャイアンツ 外野守備走塁コーチ 鈴木 尚広 氏
- 12月5日 医学教育ワークショップ 『統合授業を立案しよう』
- 12月17日 コミュニケーション論試験 (医学部1年生)
- 12月18日 医学教育ワークショップ  
『酒蔵をまとめて 6年連続日本一に導いた人材育成術』  
講師：福島県ハイテクプラザ会津若松技術センター 食品・醸造科長 鈴木 賢二 氏

## 2019年度

### 2019年

- 3月12日 第1回模擬患者会 講話「海外（ソロモン）の医療」
- 4月22日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 大学独自課題の作成①』
- 5月21日 第2回模擬患者会 講話「画像検査について」
- 5月24日 医学教育ワークショップ  
『獲得したい学生を見分ける入試面接：MMI(multipule mini interview)の試み』  
講師：横浜市立大学医学部医学教育学 主任教授 稲森 正彦 先生
- 5月27日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 大学独自課題の作成②』
- 6月10日 学校見学 福島成蹊中学校
- 6月18日 医学教育ワークショップ  
『POST - CC OSCE 医療面接・基本的臨床手技評価者すり合わせ①』
- 6月19日 医学教育ワークショップ  
『POST - CC OSCE 医療面接・基本的臨床手技評価者すり合わせ②』
- 6月26日 学校見学 郡山第二中学校
- 7月10日 学校見学 福島大学附属中学校  
医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 救急すり合わせ』
- 7月22日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 指定課題評価すり合わせ①』
- 7月23日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 指定課題評価すり合わせ②』
- 8月 8日 学校見学 磐城高等学校
- 8月20日 学校見学 ふたば未来学園高等学校・中学校
- 9月 3日 共用試験 OSCE（医学部4年生）
- 9月10日 学校見学 会津学鳳中学校
- 9月17日 第3回模擬患者会 情報交換会
- 9月20日 学校見学 桜の聖母学院高等学校
- 9月25日 多職種連携授業（医学部4年生、看護学部4年生）  
午前の部：「急性心筋梗塞患者で入院した60歳代患者への対応」  
午後の部：「死にゆく患者さんに何ができますか」
- 9月30日 英語による医療面接 Session 1 Course introduction, course lectures
- 10月 2日 英語による医療面接 Session 2 mini interview
- 10月 8日 英語による医療面接 Session 3 mini interview  
Session 4 Concept mapping and case discussion
- 10月 9日 学校見学 宮城県立白石高等学校  
医学教育ワークショップ 『適切な客観問題を作成する』
- 10月15日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：f課題』  
『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：C課題①』
- 10月16日 医学教育ワークショップ 『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：e課題①』  
『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：d課題①』

10月17日	医学教育ワークショップ	『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：C 課題②』 『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：e 課題②』
10月21日	医学教育ワークショップ	『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：d 課題②』
10月24日	学校見学 安積高等学校	
10月24日	医学教育ワークショップ	『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：B 課題①』
10月25日	医学教育ワークショップ	『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：A 課題』 『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：e 課題③』 『POST - CC OSCE 評価基準すり合わせ：B 課題②』
11月 1日 ～ 2日	Post-CC OSCE (医学部 6 年生)	
11月12日	新規模擬患者養成講座①	
11月26日	新規模擬患者養成講座②	
12月 2日	コミュニケーション論試験 (医学部 1 年生)	
12月17日	新規模擬患者養成講座③	
2020年		
1月27日	医学教育ワークショップ	『“困った学生” の経験と対処 ～アンプロの芽を摘むために～』 講師：杏林大学医学部医学教育学教室 准教授 矢島知治 先生
3月19日	医学教育ワークショップ	『POST - CC OSCE 大学独自課題ブラッシュアップ』

## Faculty Development (FD)

医療人育成・支援センターでは、学生教育に関する題材をテーマに教育研修ワークショップを開催しています。2018年度と2019年度には下記のテーマで開催しました。

### 2018年12月15日(土)

テーマ：統合授業を企画しよう

ゲスト：東京慈恵会医科大学 教育センター 教授 中村真理子 先生  
「アクティブラーニングと評価」

WS①：学習目標、統合授業のテーマ、対象の設定

WS②：学生が主体的に考える授業計画、評価方法（授業をどう組み立て、どう学生を評価するか）

### 2019年5月24日(金)

テーマ：獲得したい学生を見分ける入試面接：MMI(multipule mini interview)の試み

ゲスト：横浜市立大学医学部医学教育学 主任教授 稲森正彦 先生  
「MMIとは」「MMIの経験から」

WS①：筆記試験で測れない「獲得したい学生の条件」と「入学させたくない学生の条件」を考える

WS②：WS①であげた条件を見極めるためのMMIの課題を作成する

### 2020年1月27日(月)

テーマ：“困った学生”の経験と対処 ～アンプロの芽を摘むために～

ゲスト：杏林大学医学部医学教育学教室 准教授 矢島知治 先生  
「医学部が学生に行うべき教育について」

WS①：困った学生の事例と原因について考察する

WS②：WS①であげた項目に対して具体的な対応策を考える

## 福島医大模擬患者（SP）の会

福島県立医科大学模擬患者（SP）の会は2009年に発足し、医療面接実習、4・5年生のBSL、各種試験等で活躍してきました。模擬患者会では様々なシナリオの練習やミニレクチャーを行い、多くの模擬患者さんが学生の授業や試験で活躍して頂いています。

### 2018年度模擬患者会

#### 1. 模擬患者会

	月 日	時 間	内 容
第1回	3月6日(火)	13:00～15:00	講話:腰痛について 年度計画
第2回	9月18日(火)	13:00～15:00	フィードバック練習会
第3回	11月13日(火)	13:00～15:00	ムラージュ体験とシナリオ作成 BSLシナリオ練習会



模擬患者会



シナリオ練習

#### 2. 医療面接実習と学生自己学習（医学部4年生）

6月 医療面接実習シナリオ練習（2回）

7月 医療面接実習

学生自己学習（学生1/3 × 3日）

#### 3. 共用試験 OSCE（医学部4年生）

7月～8月 共用試験 OSCE シナリオ練習（3回）

9月 共用試験 OSCE

#### 4. Advanced OSCE

5月 Advanced OSCE シナリオ練習（3回）

6月 Advanced OSCE

## 5. コミュニケーション論試験

- 11月 コミュニケーション論シナリオ練習（3回）  
12月 コミュニケーション論試験

## 6. 模擬患者会瓦版発行

年2回程度、模擬患者会の情報交流のために、瓦版を発行しています。

### 2019年度模擬患者会

#### 1. 模擬患者会

	月日	時間	内容
第1回	3月12日(火)	13:00~15:00	講話:海外(ソロモン)の医療 年度計画
第2回	5月21日(火)	13:00~15:00	講話:画像検査について SPハンドブックの紹介
第3回	9月17日(火)	13:00~15:00	情報交換会



#### 2. 医療面接実習と学生自己学習（医学部4年生）

- 6月 医療面接実習シナリオ練習（2回）  
7月 医療面接実習  
学生自己学習（学生1/3 × 3日）

#### 3. 共用試験 OSCE（医学部4年生）

- 7月~8月 共用試験 OSCE シナリオ練習（3回）  
9月 共用試験 OSCE

#### 4. POST CC OSCE

- 10月 POST CC OSCE シナリオ練習（3回）  
11月 POST CC OSCE

5. コミュニケーション論試験

- 11月           コミュニケーション論シナリオ練習（3回）
- 12月           コミュニケーション論試験

6. 新規模患者募集

福島県立医科大学では、学生数の増加と模擬患者に関わる授業科目の増加から、新規（第7期）模擬患者の募集および養成を開始しました。LIVING 福島に広告を出し、約10名の模擬患者さんが集まって下さいました。全3回の養成講座を終え、BSLの見学、授業の参加を経て、認定模擬患者として各種試験や授業に参加してもらいます。

福島医大模擬患者の会 **FAMCOM** (Fukushima Associate of Medical Communication)

## 模擬患者さん募集

「模擬患者」とは、患者役として医学生の医療面接の実習や実技試験に協力して下さる市民の方々のことです。福島医大では、平成21年に「模擬患者の会」が発足し、現在約40名の方が活動しています。患者さんにしっかり向き合え、明日の医療を担える医師を養成するための学生教育に、模擬患者としてご協力いただける方のご参加を、心よりお待ちしております。

**応募条件**

- ① 年齢：66歳以下の方
- ② 福島市近郊にお住まいの方
- ③ 身内に福島県立医科大学の在学生在がいない方
- ④ 模擬患者養成講座(裏面)に参加できる方
- ⑤ 募集人数：25名程度

7. 模擬患者会瓦版の発行

年2回程度、模擬患者会の情報交流のために、瓦版を発行しています。

**福島県立医科大学模擬患者会**

かわら版 令和二年新春

発行所  
医療人育成・  
支援センター  
令和2年  
1月6日  
(月曜日)

模擬患者の皆さま、新規養成講座参加者の皆さま、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

年末年始は雪もなく、いくぶん過ごしやすくなりましたね。これからインフルエンザが増えてきます。お身体をご自愛し、体調を崩さぬようご注意ください。

今年度は6年生のOSCEが本格的に実施され、身体診察という新しい場面を求められるようになりました。年を追うごとに模擬患者さんに活躍して頂く場面が増えていきます。そこで新規模擬患者さんを募集し、十一月から養成講座を開始しました。

かわら版新年号は、スタッフからの新年のご挨拶と、新規養成講座の最初の三回の基礎コースを終えた皆さんの自己紹介です。

◆ スタッフから新年のご挨拶

**亀岡弥生（かめおかやよい）**  
新年あけましておめでとうございます。年々、一年が短くなっていくように感じられますが、健康に気を付けて、充実した二年を過ごしたいですね。今年も宜しくお願い申し上げます。

**坂本信雄（さかもとのぶお）**  
新年あけましておめでとうございます。平素より学生教育にご尽力いただきありがとうございます。医学教育では、皆さまにご協力いただく機会・内容が益々増えることが予想されます。何卒よろしくお願い致します。個人的には、五月に内科クリニックを消化器内科医である妻とともに旧四号沿い（郷野目）に開きます。循環器内科の経験を活かして生活習慣病の予防や指導も行います。皆さまには健康には十分にご留意いただいた上で、もしもお役に立てることがあればご相談下さい！

**安田恵（やすだめぐみ）**  
新年明けましておめでとうございます。今年の抱負は①健康第一！②筋トレをきちんと継続する！（いつも三日坊主なので…）③何事も全力投球！今年も皆様にたくさん良いことがありますように。

**末水博紀（すえながひろき）**  
今年も初夏〜夏にかけて大きな試験が二つ控えており、仕事の面で自分

## 出前講座

高等学校からの要望に応じて、大学教員が高等学校に出向き、将来、医学や医療に従事することに興味を持っている高校生を対象に、医学、看護学、理学療法学、作業療法学、診療放射線科学及び臨床検査学に関する講義を行っている。医学や医療に関する多彩な話題を提供する出前講座は、医療人を志す高校生の医学や医療への興味関心を更に高め、本学各学部への進学意識や学習意欲を向上させる良い契機となっている。

「出前講座」は高等学校からの申し込みを受け付け、医療人育成・支援センターと教育研修支援課入試係及び新医療系学部設置準備室が調整して開講している。

2018年度は23校、2019年度は延べ24校に教員を派遣した。

### 【実施状況】

#### 2018年度

	派遣先	タイトル／講師名
1	福島県立須賀川桐陽高等学校	「福島県立医科大学看護学部の特徴と子どもの看護(早産児の看護)」 【講師 鈴木学爾】
2	福島県立田村高等学校	「チーム医療～私の場合」 【講師 脇屋友美子】
3	福島県立磐城高等学校	「看護系大学で学ぶ意義」 【講師 堀内輝子】
4	福島県立安積黎明高等学校	「これからの医療に必要なこと?～循環器内科医の視点から～」 【講師 坂本信雄】
5	福島県立安積黎明高等学校	「『看護』を考える」 【講師 古溝陽子】
6	福島県立磐城桜が丘高等学校	「腎臓のしくみとはたらき」 【講師 太田昌一郎】
7	福島県立磐城桜が丘高等学校	「リハビリテーションの目的から理学療法の意味を知る」 【講師 横塚美恵子】
8	福島県立福島東高等学校	「人間の成長発達について考えてみよう」 【講師 大川貴子】
9	福島県立磐城高等学校	「細菌ってどんな生き物？」 【講師 錫谷達夫】
10	福島県立相馬高等学校	「2011年の震災及び原発事故後の健康リスクについて」 【講師 村上道夫】
11	福島県立郡山東高等学校	「感染制御における微生物検査の重要性」 【講師 豊川真弘】
12	福島県立会津学鳳高等学校	「医療人を志すみなさんへお伝えしたいこと」 【講師 齋藤拓朗】

13	福島県立安積高等学校	「自分史から伝える、職業としての医師(外科医)のすゝめ」 【講師 丸橋 繁】
14	福島県立会津高等学校	「ロボット支援手術による医療革命」 【講師 小島祥敬】
15	福島県立郡山高等学校	「大学で学ぶ看護学－保健師の道もあります－」 【講師 阿久津和子】
16	福島県立会津高等学校	「神経線維の配線図とその形成過程の解明をめざして」 【講師 八木沼洋行】
17	福島県立いわき光洋高等学校	「作業療法って何？」 【講師 五百川和明】
18	福島県立いわき光洋高等学校	「いのちをまもり、暮らしを支える看護」 【講師 菅野久美】
19	福島県立葵高等学校	「『がん』はどうやって見つける？診断する？」 【講師 吉田朋美】
20	福島県立橘高等学校	「白血病と骨髄移植」 【講師 小川一英】
21	福島県立橘高等学校	「看護を大学で学ぶということ」 【講師 丸山育子】
22	福島県立会津学鳳高等学校	「内視鏡を用いた診断と治療」 【講師 片倉響子】
23	福島県立会津学鳳高等学校	「日本の医療の現状と課題及び会津地方の地域医療」 【講師 鈴木啓二】

## 2019 年度

	派遣先	タイトル／講師名
1	福島県立福島東高等学校	「福島県立医科大学の説明」 【講師 川島理恵】
2	福島県立須賀川桐陽高等学校	「福島県立医科大学で看護学をまなぼう！！」 【講師 佐藤利憲】
3	福島県立須賀川桐陽高等学校	「保健科学部(仮称)の紹介と模擬講義「感染制御における微生物検査の重要性」 【講師 豊川真弘】
4	福島県立田村高等学校	「大学で看護学を学ぼう！」 【講師 秦 暁子】
5	福島県立磐城高等学校	「看護を目指す皆様へ～精神看護から見える看護の楽しさ～」 【講師 吾妻陽子】
6	福島県立安積黎明高等学校	「病態生理と子どもの身体的特徴から考える子どもの発熱時の看護」 【講師 鈴木学爾】

7	福島県立安積黎明高等学校	「リハビリテーションの意味から生活期の理学療法を知る」 【講師 横塚美恵子】
8	福島県立磐城桜が丘高等学校	「病態生理と子どもの身体的特徴から考える子どもの発熱時の看護」 【講師 鈴木学爾】
9	福島県立磐城桜が丘高等学校	「作業科学入門ー生活と人生をかたちづくる作業のみかたー」 【講師 川又寛徳】
10	福島県立白河高等学校	「医療技術者について」 【講師 久保 均】
11	福島県立磐城高等学校	「からだところろを画像で診る」 【講師 伊藤 浩】
12	福島県立安積高等学校	「外科医として生きる」 【講師 大竹 徹】
13	福島県立安積高等学校	「尿と排尿について」 【講師 太田昌一郎】
14	福島県立郡山東高等学校	「保健科学部(仮称)の紹介と模擬講義「急性白血病と骨髄移植」 【講師 小川一英】
15	福島県立会津学鳳高等学校	「医療人を志すみなさんへお伝えしたいこと」 【講師 齋藤拓朗】
16	福島県立橋高等学校	「大学で看護学を学ぼう！～保健師の道もあります～」 【講師 古戸順子】
17	福島県立橋高等学校	「作業の医学的視点」 【講師 五百川和明】
18	福島県立いわき光洋高等学校	「診療放射線技師の業務紹介」 【講師 加藤貴弘】
19	福島県立いわき光洋高等学校	「臨床検査の仕事ーサイエンスマインドを持とうー」 【講師 北爪しのぶ】
20	福島県立いわき光洋高等学校	「We are midwives!!～助産師ってなあに?～」 【講師 森美由紀】
21	福島県立会津高等学校	「ロボット支援手術による医療革命」 【講師 小島祥敬】
22	福島県立会津高等学校	「理学療法の歴史、今、そして未来」 【講師 伊橋光二】
23	福島県立会津学鳳高等学校	「消化器内視鏡で、ここまでできる！」 【講師 引地拓人】
24	福島県立会津学鳳高等学校	「地域医療 医療者に必要なことって何だろう」 【講師 菅家 智史】

## 学校見学

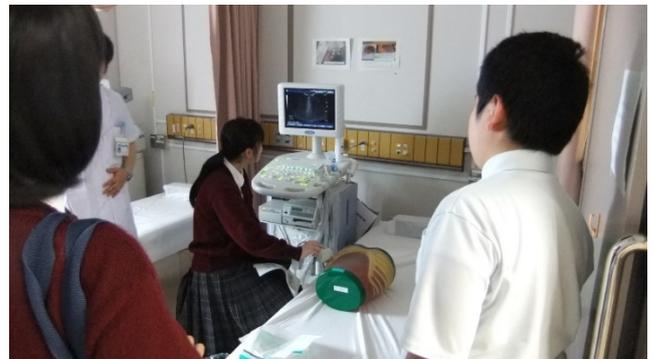
福島県立医科大学への理解を深め、医療系大学への進学意欲につなげるため、中学校や高等学校等の要望により大学見学を受け入れている。スキルラボ、ドクターヘリ等の施設見学に加え、体験実習や模擬講義も学内教員の協力を得て実施している。

2018年度は9校、2019年度は9校の大学見学を受け入れた。

### 【実施状況】

#### 2018年度

	学校名	見学者
1	福島県立磐城高等学校 【模擬講義講師 中里和彦、本多たかし】	3年生
2	福島県立磐城高等学校 【模擬講義講師 中里和彦、本多たかし】	2年生
3	福島成蹊中学校 【模擬講義講師 小川一英】	3年生
4	郡山市立郡山第二中学校 【模擬講義講師 大谷晃司】	3年生
5	福島大学附属中学校 【模擬講義講師 大谷晃司、太田昌一郎、菅野久美】	2年生
6	磐城第一高等学校	1・2年生
7	茨城県立日立第一高等学校・附属中学校 【模擬講義講師 矢吹省司】	高校1年生 中学3年生
8	福島県立会津学鳳中学校 【模擬講義講師 大谷晃司】	2年生
9	福島県立須賀川桐陽高等学校	PTA



2019 年度

	学校名	見学者
1	福島成蹊中学校 【模擬講義講師 マハム・スタンヨン】	3年生
2	郡山市立郡山第二中学校 【模擬講義講師 マハム・スタンヨン】	3年生
3	福島大学附属中学校 【模擬講義講師 大谷晃司】	2年生
4	福島県立磐城高等学校 【模擬講義講師 箱崎貴大】	1～3年生
5	福島県立ふたば未来学園 高等学校・中学校	PTA
6	福島県立会津学鳳中学校 【模擬講義講師 大谷晃司】	2年生
7	桜の聖母学院高等学校 【模擬講義講師 伊橋光二】	1年生
8	宮城県立白石高等学校	PTA
9	福島県立安積高等学校 【模擬講義講師 大谷晃司】	探究部

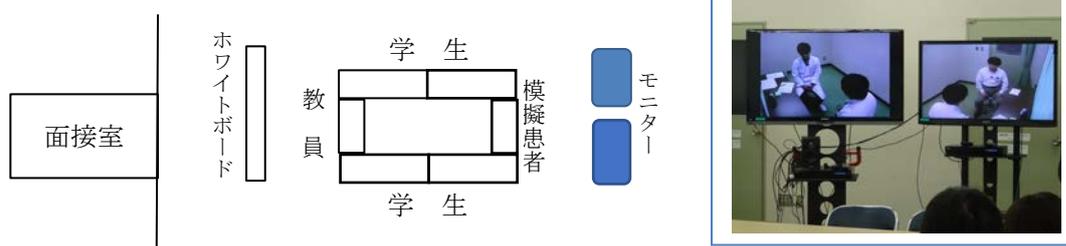
学校見学の様子



## BSLプライマリーコースの医療面接実習

2011年度より医学部5年生の臨床実習(BSLプライマリーコース)において、模擬患者(SP)との医療面接を学習するプログラムが開始されています。新規外来患者との医療面接を行う中で、診断に必要な情報を取得するための「臨床推論」と、慢性疾患患者の生活上の行動変容を促す「生活指導」、患者さんに悪い知らせを伝える「告知」などの応用的な医療面接のスキルを身につけることを目的としています。市民の皆さんに模擬患者になってもらい、学生と医療面接を行います。

### スキルラボ・アドバンス内配置



### 医療面接の内容

1班6名から最大8名を対象に実施します。最初の1～2名に対して臨床推論のプログラムを実施し、後の5～6名を従来の医療面接シナリオで行うように変更しました。臨床推論シナリオは頭痛、胸痛、腹痛、全身倦怠感で行いました。2018～19年度の医療面接実習は以下の通りです。

シナリオ	学生	時間	概要
臨床推論シナリオ	2名	1時間 15分	頭痛や胸痛などのシナリオを用いて8分で初診患者の問診を行う。患者役は教員が行う。問診終了後に、教員主導で学生全員で鑑別診断から確定診断への流れについて考える。
生活指導・告知シナリオ	5～6名	2時間 40分	生活指導および告知のシナリオを用いて10分で面接を行う。患者役は模擬患者が行う。医療面接終了後に模擬患者を含めて振り返りを行う。



臨床推論シナリオ



SPさんとの振り返り

## オーディエンス・レスポンス・システム ～TurningPoint®の活用～

講義型の授業は同時に多人数に対して知識を供与できるが、学生がどの程度、授業内容を理解しているかを教員は把握しがたい。また、教員は学生のニーズや興味を捉えているかどうかはわからず、教員から学生への一方的な知識の押し付けになってしまう可能性もある。

医療人育成・支援センターでは、2010年より学生一人一人の意見を回収できるオーディエンス・レスポンス・システム（ARS）を導入し、医学部および看護学部の授業、臨床研修医向けのセミナー、附属病院内の講演会等での活用をサポートしている。

### 1. システムの概要

本学ではARSとしてTurningPoint®（KEEPAD JAPAN株式会社製。http://www. keepad.com/jp/index.php）を利用している。専用ソフトで作成した質問のスライドに、名刺サイズのクリッカー（レスポンスカード）で回答すると、結果が瞬時に集計されグラフに表示される。授業に参加している教員と学生がその場で結果を共有することができ、全体の意見を踏まえた討論を実施し、学生の理解度に合わせた授業を展開することが可能になっている。



貸出用ARS一式  
レスポンスカード 120枚  
USBレシーバー 1台



レスポンスカード  
（回答送信器）



USBレシーバー  
（回答受信器）

※レスポンスカードは最大360枚まで対応可能です

### 2. 利用実績

利用年度	利用内訳（件数）				利用件数
	医学部授業	看護学部授業	講習会・セミナー	その他	
～2017年度	40	7	61	22	130
2018年度	8	0	3	0	11
2019年度	12	0	5	11	28
合計	60	7	69	33	169

### 3. 利用方法・貸出・予約について

機器の予約、利用方法は医療人育成・支援センター スキルラボ管理室(内線 3387)までお問合せください。スライドの作成等、ご不明な点は個別に対応しています。詳細は医療人育成・支援センターのホームページ([http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning\\_point.html](http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning_point.html))に掲載しておりますのでご参照ください。

## クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）

本学のスキルラボはシミュレーション学習施設として 2009（平成 21）年 4 月にオープンし、9 年目の 2017 年度には利用者のアクセスと学習内容を考慮して、スキルラボ・きぼう棟を開所した。従来からのアドバンス、ベーシック、手術室を含めた 4 部構成として運用しており、医学生をはじめ、看護学生、教員、臨床研修医、附属病院スタッフなどが幅広い目的で利用している。2019 年 10 月には、IoT 技術を利用した入退管理システムを開発し、スキルラボ・きぼう棟にて試験的に運用を開始した。シミュレータや設備の充実を図りながら、多様なニーズに合わせたトレーニングができるよう利用者の視点で工夫を重ねている。

### 【1. 施設概要】

スキルラボ・きぼう棟（きぼう棟 4 階西）245 m<sup>2</sup>（2017 年 4 月オープン）

病棟をそのまま利用し、手技毎に部屋を設定し、シミュレータ・機器を常時設置している。採血や導尿などの基本手技から腹腔鏡下手術などの高度な診療技能をトレーニングするシミュレータを整備し、医学生や臨床研修医を中心に利用されている。

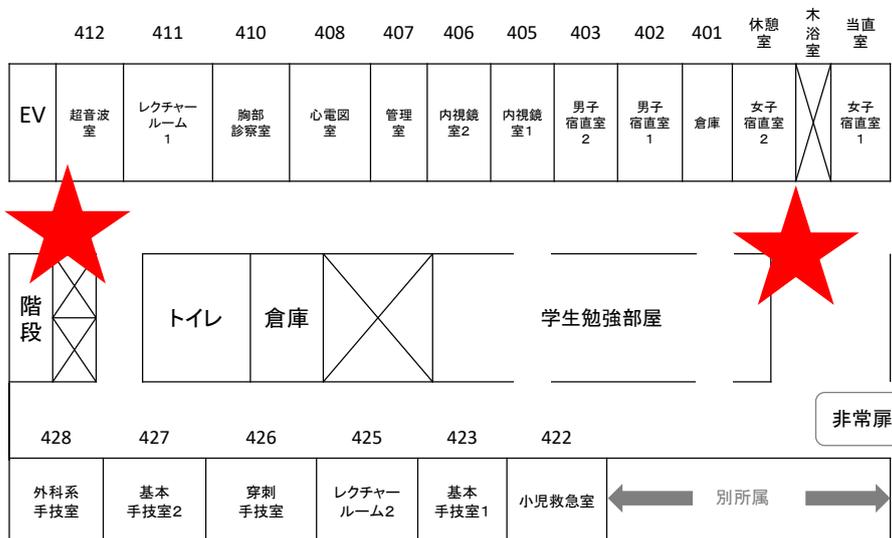
2019 年 10 月に、IoT（Internet of Thing の略。センサー機器、電子デバイスなどの様々なモノ「物」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みである）技術を利用した入退管理システム（★）を開発し導入した。

### 【★システム構成】

1. カードサイズのコンピューター「Raspberry Pi（ラズベリーパイ）3 Model B+」、2 台
2. タッチパネル対応のモニター「Dell P2418HT 23.8 インチ」、2 台
3. 非接触 IC カードリーダー「Sony RC-S370」、2 台
4. カウンターテーブル、2 台

### 【★設置場所】

- ・東西の入り口、計 2 か所



設置風景（西側入り口）

## 【★利用方法】

入室の前に、自分の目的と当てはまる項目をタッチして、自分の IC カードで簡単に入室登録を行う。IC カードをかざしたら「入室を登録しました」と「自分の名前などの情報」が表示し、確認することができる（事前にカードを登録した場合）。

### スキルラボ・アドバンス（4号館5階）310 m<sup>2</sup>

広いオープンスペースを保有しており救急蘇生トレーニングや模擬患者養成講座に活用されているほか、医療面接・診察録画フィードバックシステムを活用して医療コミュニケーション学習に活用されている。

### スキルラボ・ベーシック（8号館2階）481 m<sup>2</sup>

基本的な診察手技やベッドサイドでの患者の診察・処置・ケアが大人数で学習できるようにレイアウトされた学習スペース。看護学生や看護師がフィジカルアセスメントや採血手技などを学習できるようシミュレータを配置している。

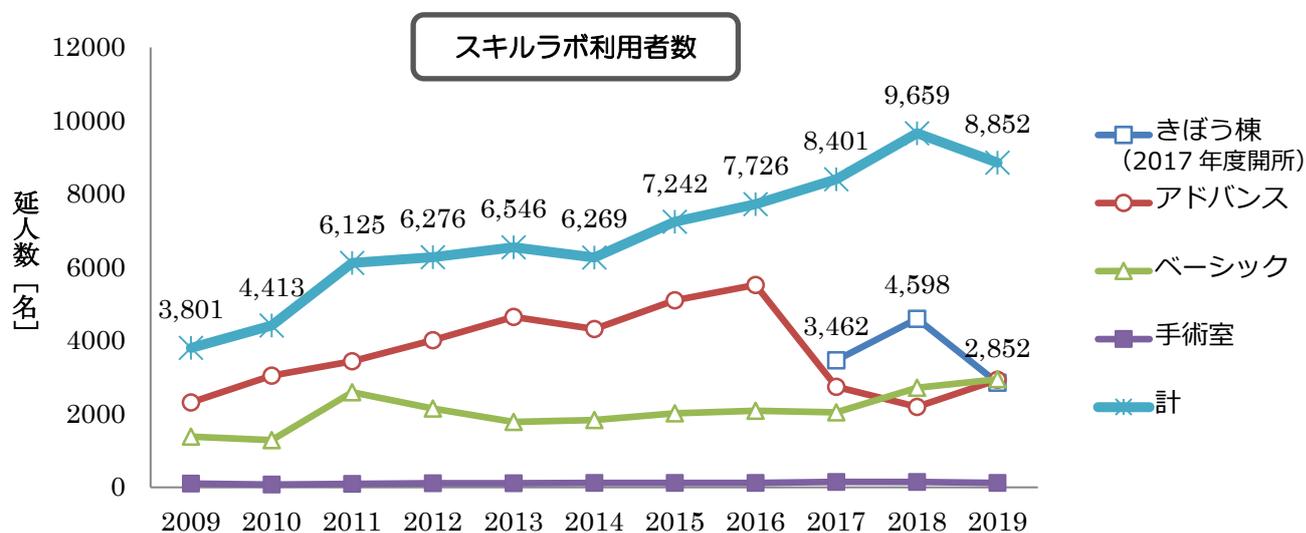
### スキルラボ・手術室（附属病院3階）56 m<sup>2</sup>

全身麻酔に伴う呼吸・循環の変化、急変対応が高性能シミュレータで学習できる。

## 【2. 利用実績】

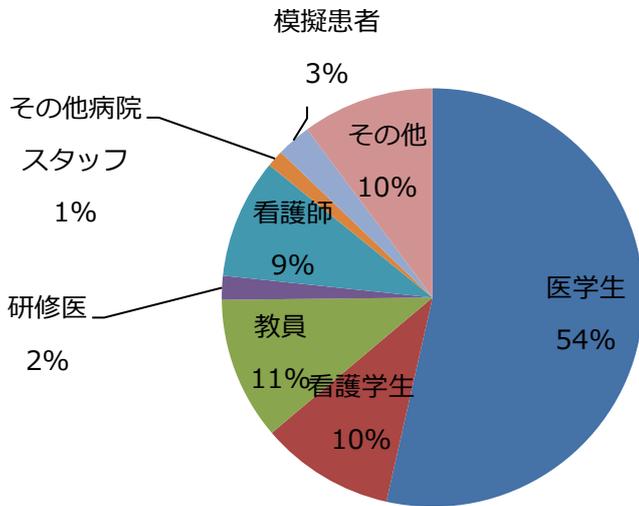
オープン後3年目（2011年度）以降は、年間6,000余名の利用が続いており、きぼう棟を開所した2017年度の年間延べ利用者数は8,000名を超えた。

2017年に開所した「スキルラボ・きぼう棟」は、前年度までスキルラボ・アドバンスにて活用されていた多くのシミュレータを移動して各室に設置し、医学部4～6年生への各診療科BSLで多く活用されている。



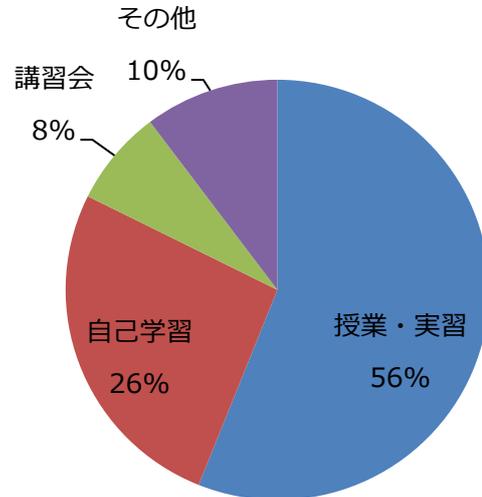
### 利用者内訳

11 年 (2009~2019 年度)  
延 75,310 名の内訳



### 利用目的内訳

11 年 (2009~2019 年度)  
延 6,808 件の内訳



< 利用例 > 下線は 2019 年度より新規利用

#### 【医学部】

##### (1) 臨床実習 B S L (4、5、6 年)

- ・循環器内科学講座
  - … 心音・心雑音聴診、心エコー、心臓カテーテル手技、  
12 誘導、  
心電図、レクチャー (心疾患、循環器の薬)
- ・消化器内科学講座
  - … 腹部エコー、消化管内視鏡、直腸診
- ・内科合同
  - … 静脈採血、末梢ライン確保、筋肉注射
- ・脳神経内科学講座
  - … 腰椎穿刺、神経診察
- ・呼吸器内科学講座
  - … 呼吸音聴診、気管支内視鏡検査
- ・外科①
  - … ガウンテクニック、腹腔鏡下手術、腹部診察
- ・呼吸器外科
  - … 胸腔穿刺
- ・整形外科
  - … 外科手術実習
- ・産科婦人科
  - … 分娩、経腹エコー
- ・小児科学講座
  - … 小児静脈ライン確保、乳児救急蘇生、新生児気管挿管
- ・泌尿器科
  - … 導尿、前立腺指診、腹腔鏡下手術
- ・耳鼻咽喉科
  - … 気管切開
- ・心身医療科
  - … 腰椎穿刺
- ・麻酔科
  - … 麻酔、呼吸管理
- ・救急科
  - … 心エコー、FAST
- ・甲状腺内分泌学講座
  - … 腹腔鏡下手術
- ・小児外科
  - … 小児静脈ライン確保、縫合、腹腔鏡下手術

- ・医療人育成・支援センター …… 医療面接
- (2) 臨床実習入門 (4年生) …… 各種診察手技頭頸部、乳房、直腸診、腹部、神経系、胸部、バイタルサイン、四肢と脊柱、心電図装着、静脈採血)
- (3) OSCE
  - ・医学部4年 …… 臨床実習前 OSCE
  - ・医学部6年 …… Post-CC OSCE
  - ・教職員 …… 評価者事前すり合わせ
- (4) 人体機能学概論 (1年) ……12誘導心電図、心エコー
- (5) オープンキャンパス

### 【附属病院】

- (1) 研修医オリエンテーション
- (2) 看護部 …… 新人研修、看護助手研修、POTTプロジェクト研究会、小児急性期看護 (BLS)、胸腔穿刺、等
- (3) 看護師特定行為研修センター …… 各種技術研修、OSCE

### 【看護学部】

- (1) 看護学部授業
  - 基礎看護学部門 (2年) …… 看護実践を支える看護技術とアセスメントⅢ
  - 家族看護学部門 (3年) …… 健康障害をもつ子供の看護
  - 療養支援看護学部門 (3年) …… 急性期にある人の看護
  - 地域・在宅看護学部門 (3年) …… 在宅療養を支える看護
- (2) オープンキャンパス

### 【その他】

- (1) スキルラボ体験・見学 …… 中学生、高校生、他大学医学部生、企業、自治体
- (2) 各種トレーニングコース …… AHA BLS インストラクターコース/ヘルスケアプロバイダーコース、BLS、ICLS、小児の二次救命処置、PEARS、ACLS、JPTEC、JMECC、内科救急対応、心肺蘇生実習、等
- (3) 福島県医師臨床研修指導医講習会
- (4) 模擬患者養成講習会
- (5) 学生主催セミナー …… 腹部エコー
- (6) 自己学習
  - ・医学部 (4、5、6年) …… 身体診察、気管支内視鏡、腹腔鏡下手術、縫合、エコー、FAST、心電図、呼吸音聴診、ルンバール、採血、等
  - ・研修医 …… 気管支内視鏡、腹部エコー
  - ・医師・研修医 …… 気管切開、気管挿管、腹部エコー、気管支内視鏡

## 【長期貸出】

- 呼吸器内科学講座 … 呼吸音聴診シミュレータ Mr.Lung 1台
- 災害医療総合学習センター … シムマン (エッセンシャル) 1台  
シンチレーション式サーベイメーター (ZnS) 1台  
シンチレーションサーベイメーター (NaI) 5台  
GM サーベイメーター 5台
- 耳鼻咽喉科学講座 … 耳の診察シミュレータ EAR 1台
- 眼科学講座 … 小川氏眼球模型 2台
- 研修医室 … 縫合手技トレーニング腕部セット 2セット

医学生の心電図実習



高校生の大学見学(スキルラボ体験)



中学生の大学見学(職業体験)



看護部の新人研修



## 【3. 利用できるシミュレータ】

### (1) 基本診察・検査

品名	メーカー
フィジカルアセスメントモデル 'Physiko'	京都科学
胸部診察シミュレータ 'イチローPLUS'	京都科学
心臓病診察シミュレータ 'イチロー'	京都科学
心臓病診察シミュレータ 'イチローII'	京都科学
呼吸音聴診シミュレータ 'ラング'	京都科学
ステソサウンドスピーカー '聴くゾウ'	日本ライトサービス
直腸診シミュレータ	京都科学
前立腺触診シミュレータ	京都科学
乳癌触診モデル 装着式	京都科学
乳癌触診モデル	京都科学
婦人科内診シミュレータ	京都科学
携帯用耳鏡・検眼鏡	
眼底診察シミュレータ 'EYE'	京都科学
小川氏眼球模型	
耳の診察シミュレータ 'EAR'	京都科学
気管支シミュレータ	京都科学
コードレス聴診教育システム 'HI-STETHO'	泰斗工研
水銀血圧計	ケンツメディコ
自動血圧計	オムロン
血圧測定シミュレータ 'あつ姫'	京都科学
超音波診断装置 (胸部・腹部・表在)	フクダ電子、PHILIPS、GE
超音波画像診断装置 'iLOOK25' (モバイルスタンドタイプ)	ソノサイト
超音波診断ファントム腹部モデル 'ECHOZY'	京都科学
超音波診断ファントム 上腹部病変付モデル 'ABDFAN'	京都科学
外傷・救急用超音波トレーニングファントム 'FAST/ER FAN'	京都科学
心エコーバーチャルシミュレータ 'VIMEDIX'	ガデリウス
心電計	日本光電社、フクダ電子
握力計	松宮医科精器製作所

(2) 注射・採血

品名	メーカー
装着式 上腕筋肉注射シミュレータ	京都科学
皮内注射シミュレータ	京都科学
手・手首関節注射モデル	日本ライトサービス
膝関節注射モデル	日本ライトサービス
肩関節注射モデル	日本ライトサービス

肘関節注射モデル	日本ライトサービス
採血・静注シミュレータ‘シンジョー’	京都科学
装着式採血静注練習キット‘かんたんくん’	京都科学
動脈採血シミュレータ	京都科学
手背の静脈注射シミュレータ	京都科学
小児の手背静脈注射シミュレータ	京都科学
点滴静注シミュレータ‘Vライン’	京都科学

(3) 処置・治療

品名	メーカー
女性導尿・浣腸トレーニングモデル	京都科学
男性導尿・清拭モデル	京都科学
腹腔鏡下手術トレーニング用シミュレータ‘LAP Mentor II’	シンビオニクス
消化管内視鏡手技トレーニングシミュレータ‘GI Mentor’	シンビオニクス
消化器内視鏡トレーニングシミュレータ‘EndoVR’	ガデリウス
気管支内視鏡シミュレータ‘アキュタッチ’	ガデリウス
CVC 穿刺挿入シミュレータ	京都科学
中心静脈栄養チューブ管理トレーナー	京都科学
経管栄養シミュレータ	京都科学
末梢挿入中心静脈カテーテル‘PICC シミュレータ’	京都科学
サカモト気管切開トレーナー	坂本モデル
気管カニューレ管理モデル	高研
腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ‘ルンバールくんII’	京都科学
胸腔穿刺・ドレナージシミュレータ	日本ライトサービス
皮膚小外科キット	日本ライトサービス
皮膚小外科キット 指導者版	日本ライトサービス
陥入爪実習キット	日本ライトサービス
陥入爪キット 指導者版	日本ライトサービス
スーチャーチューター	日本ライトサービス
スーチャーチューター 指導者版	日本ライトサービス
縫合手技トレーニング フルセット	京都科学
縫合手技トレーニング 腕部セット	京都科学
腕型縫合シミュレータ	京都科学
局所麻酔実習キット	日本ライトサービス
局所麻酔実習キット 指導者版	日本ライトサービス
分娩シミュレータ‘ノエル’	アクティブメディカル

#### (4) 救命救急

品名	メーカー
気道管理、外傷処理 ALS トレーニングシミュレータ ‘シムマン’	レールダル
ワイヤレス ALS トレーニングシミュレータ ‘シムマンエッセンシャル’	レールダル
高機能患者シミュレータ ‘Apollo’	ガデリウス
小児救命処置シミュレータ ‘メガコードキッド&バイタルシム’	レールダル
乳児医療トレーニングシミュレータ ‘シムベビー’	レールダル
レサシアン with QCPR	レールダル
レサシアン半身スキルガイドモデル付	レールダル
エアウェイトレーナー ‘AIRSIM アドバンス’	日本ライトサービス
リトルアン	レールダル
ミニアン Plus	レールダル
新生児蘇生マネキン ‘Neonatal Resuscitation Baby’	レールダル
新生児気道管理トレーナー	レールダル
トレーニング除細動器	PHILIPS
AED トレーナー	PHILIPS
救急カート	
シリコンレサシテータ	レールダル

#### (5) その他

品名	メーカー
医療面接・診察撮影録画フィードバックシステム	コセキ
妊婦体験スペシャルスーツセット 胎児9ヵ月付	京都科学
高齢者体験装具 ‘おいたろう’	京都科学
輸液ポンプ	テルモ
シリンジポンプ	テルモ
点滴スタンド	
軽量ストレッチャー	
スタンドライト	
コピーボード	
液晶プロジェクター	
マイクアンプセット	

福島県立医科大学クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）ホームページ

<http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/lab.html>

# OSCE

## I. 臨床実習後 OSCE

臨床実習後 OSCE “Advanced OSCE” を、平成 28 年 7 月 2 日（土）に本学で初めて卒業要件として実施しました。令和 2 年（2020 年）には臨床実習後 OSCE が全国共用試験となるにあたって、令和元年にはその全国一斉トライアルが行われました。

共用試験臨床実習後 OSCE では、卒後臨床初期研修の開始時に必要とされる臨床能力のうち、以下の内容が臨床現場に即して定められた時間内に適切に実施できるかを評価します。

- ① 医療面接、身体診察
- ② 患者さんの状態への配慮、並びに心理的・社会的背景への配慮
- ③ 医療安全・感染対策の遵守
- ④ 得られた情報に基づく病態の解釈と頻度の高い、あるいは重要な疾患の想起（臨床推論）
- ⑤ 上級医への症例プレゼンテーション

### 【Advanced OSCE(平成 30 年度)】

対 象：医学部 6 年生全員（平成 30 年度 143 名）

受験課題：症例指向性臨床技能試験（14 分） 3 題のうち 2 題

	学生の半数	学生の半数
症例指向性臨床技能試験（14 分）	A・B	A・C

課題構成：症例指向性臨床技能試験

課題 1 医療面接

課題 2 鑑別診断（疾患想起、身体所見、検査など）

課題 3 総合問題（評価者へ報告、患者への説明など）

評価者からのフィードバック 2 分

↑  
14 分  
↓

評 価 者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員

場 所：スキルラボ・きぼう棟+8 号館 4 階

### 【PostCC OSCE（令和元年度）】

対 象：医学部 6 年生全員（令和元年度 126 名）

受験課題：症例指向性臨床技能試験（16 分） 3 題＋臨床技能試験（5 分） 3 題

課題構成：症例指向性臨床技能試験（16 分）

課題 1 医療面接・身体診察（12 分）

課題 2 情報整理・指導医への報告（4 分）

臨床実技試験（5 分）

実技試験（BSL で修得した検査手技、検査所見の報告など） 5 分

評 価 者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員

場 所：スキルラボ・きぼう棟+8号館4階

## II. 共用試験臨床実習前 OSCE

臨床実習前 OSCE が正式実施となり、10 年以上経過しました。臨床実習前における基本的臨床能力について、共用試験 OSCE が導入される前よりも導入後の方が高くなったとの調査報告もあります。一方、今後は OSCE 導入の真の目的であった、診療参加型臨床実習の導入や充実については今後検証する必要があると考えられます。

# コミュニケーション論

1年生は10～12月にコミュニケーション論の授業があります。内容は、心理学的コミュニケーション論と、医療コミュニケーション論の二つの観点からコミュニケーションについて学びます。

## 1. 心理学的コミュニケーション論

2019年度から、新たな試みとして、患者さんと接する上での基本的コミュニケーションを取得することを目的とした授業を展開しています。特に、傾聴・共感的コミュニケーションをとることができるように、非言語的コミュニケーション、質問、言い換え、要約、感情の反映といったコミュニケーションを学びます。

### ①授業形式

座学、カウンセリング場面の動画視聴と課題抽出、グループディスカッション、iPadでの非言語的コミュニケーションの撮影と視聴、体験ワーク



カウンセリング場面の視聴動画

### ②授業内容

コミュニケーションの概要、非言語的コミュニケーション、質問、要約・言い換え、是認、感情の反映、まとめ

### 授業計画

<b>オリエンテーション</b>	
第1回 なぜコミュニケーションを学ぶのか	} 9/30 II-III時限
第2回 コミュニケーションの概要	
<b>コミュニケーションの基本：傾聴と共感</b>	
第3回 非言語的コミュニケーション	} 10/7 II-III時限
第4回 質問	
第5回 聴き返し・要約	} 10/28 II-III時限
第6回 是認・感情の反映	
第7回 まとめ	
第8回 …応用編に続く	} 11/11 II-III時限

## 2. 医療コミュニケーション論

### ①授業準備

- ・各疾患についての資料の準備
- ・事前学習確認テスト（IRAT）およびグループ確認テスト（GRAT）の作成
- ・答え合わせ用ターニングポイント資料作成
- ・問診演習用の患者シナリオを3題作成

### ②1学年を24班（1班6名）に分けて問診についてTBL方式でグループワーク

- ・頭痛・胸痛の基礎知識
- ・症状から病気を類推するための情報収集

### ③問診の練習

- ・ 問診のための情報収集についてのグループワーク
- ・ グループ内で医師役と患者役に分かれて医療面接の練習



TBL 方式のグループワーク



医療面接の練習

### 3. コミュニケーション論試験

コミュニケーション論の総決算として、模擬患者さんに協力してもらい、共用 OSCE を模した試験を実施しました。学生は白衣を着た正装で、制限時間 5 分間で医療情報を聴取する試験に臨みます。

## 地域実習 1

医学部 1 年生は 9 月に地域実習 1 として介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重度心身障害者施設での実習を行っています。一人の学生は 3 つの施設に訪れます。この実習の目的は、早い時期に様々な福祉施設の活動と役割を理解し、医療人として相応しい心構えと態度を身に着けることと、「老いを支える」「障害と共に生きる」ということを理解し、健康であるとはどういうことなのか、考えを深めることにあります。

### 1. ガイダンス

2019 年は以下の項目でガイダンスを行った。

- ① グループワークで対象や状況に応じた配慮、礼節について考える。
- ② 認知症を持つ高齢者についての視聴覚教材 (DVD) 視聴



### 2. 実習終了後の発表会

24 班に分け、グループ内で各学生が感じた素朴な疑問について持ち寄り、班のなかで議論して発表テーマを決めて発表資料を作成します。発表会当日は、24 班を 4 つのブロックに分け、それぞれ 6 班で発表会を行います。

- ① 班メンバーそれぞれの素朴な疑問について書き出し、班の中で議論する
- ② 発表テーマとして一つを選択する
- ③ 選んだテーマについていくつかの異なる考え方を示して疑問を投げかける形にする
- ④ 発表用の資料を作成する
  - ・ 疑問に感じた状況
  - ・ 社会的背景 (制度等) について調べたことを入れる
- ⑤ 発表を行ったら、聴取していた班で内容について議論し、それについて発表する
- ⑥ 発表班は最後に全員が感想を述べる

## 早期ポリクリニック

早期ポリクリニック（早期ポリクリ）は、1年生の1学期に病院の様々な部署を見学する二日間の実習で、医療人になるという自覚の形成、基本的マナーの習得に加えて、医療が様々な職種の人たちによって支えられていることを知ることを目的としています。テレビドラマの舞台となる外来、病棟、手術室、救急センター以外にも医師が担う仕事があります。そして全ての医療業務は医療専門職以外の人達が休みなく稼働させるシステム無しには成り立ちません。早期ポリクリでは、患者として病院を訪れる際には目にしない病理部や救命救急センター等の中央診療施設と、物品供給センター、焼却炉などのバックヤードを班ごとに1日かけて回り、もう1日は病棟で看護業務と医師の業務を見学します。バックヤード見学は2015年から早期ポリクリに組み込まれました。中央診療施設+バックヤード見学後と病棟体験後に、実習で見たり体験したりしたことから、プロフェッショナルとはどういうことかを各自で考察し、レポートを提出します。

### 1. 中央診療施設及びバックヤード見学

班毎に、下記の12施設すべてをローテーションして見学する。

各施設の見学時間：25分 学生：10人～11人/班 × 12班

#### 2018年度見学施設

中央診療施設	救急救命センター	放射線災害医療センター	病理部
	放射線部	患者サポートセンター	手術部/材料部
	検査部	リハビリテーションセンター	輸血・移植免疫部
バックヤード	病歴室	中央監視室・ボイラー室	物品供給センター

#### 2019年度見学施設

中央診療施設	救急救命センター	放射線災害医療センター	病理部
	放射線部	患者サポートセンター	手術部/材料部
	検査部	リハビリテーションセンター	焼却炉
バックヤード	病歴室	中央監視室・ボイラー室	物品供給センター

### 2. 病棟体験

4～5名の班に分かれ、配属された病棟で1日の体験実習を行う。

下記は体験スケジュールの例

9:00～10:00	オリエンテーション	病棟でのマナー、守秘義務等について
10:00～12:00	看護業務見学・体験	バイタルサイン、清拭、昼食の介助等
13:00～15:00	医師業務見学	病棟回診、処置、カルテ記入、検査見学等
15:00～16:00	振り返り	医師とのフリーディスカッション

### 3. 学生の声「プロフェッショナルとはどういうことか」(2019年度レポートより抜粋)

#### 1) 中央診療施設及びバックヤード見学からの考察

- 仕事の種類に関わらず、自分の職務に責任を持ち、仕事をこなしていること
- 一人一人が組織の一員として働くことを意識している方
- 仕事をこなすには、その仕事が上手く効率よくできるように支えているプロフェッショナルもいることを知り、支え合いながら業務をこなす
- 他人がみていない所でも熱心に自分の仕事を全うする人
- 医師は医師以外の仕事をしている人に支えられていることを自覚し、それに感謝することが医師のプロフェッショナルであると思った
- 自らの仕事に責任をもって取り組んでいる人であり、周りから信頼されている人であり、知識や技術の高い人
- 特定の分野について高い専門性を持つと同時に、それを、他の人と共有することができる人。
- 皆で共通の目的を持ち、それを実現するために、各自に課された仕事に全力で取り組むこと
- 高度な知識、及び技術を持つだけでなく、患者様を大優先に考え、患者様ことを自分自身のことのように考えられる人
- 一つの大きな機関の一部として、自分の持ち場で一所懸命に働くこと

#### 2) 病棟体験実習からの考察

- 病気を診るのではなく、人を診ることができること
- 高い技術を持ちながら、患者のことを第一に考えて行動する
- 一人一人の患者さんと向き合い、その人にとっての最善を考えられること。組織全体が円滑に回っていけるよう、組織の歯車の一つとして仕事をこなせること
- 自らの専門分野を極め、なおかつ周囲とうまく連携し、物事を進めていく人
- 情熱を持ちつつも周りとの関係性の構築が大切だと思った。周りとの関係性を持ち、周りの人にも良い影響を与えられる人
- 高い技術を持ち、冷静に判断を出せる人のことで、加えて、その職務、事柄に情熱をもって真摯に行動できる人
- 正しい知識と温かい心を持ち、覚悟を決めた方のこと
- 専門的な技術や知識を持っていることで、安心感を与え、さらに臨機応変に対応できるような姿
- どのような状況でも冷静に判断し、すぐにベストな行動ができる事、また医療の現場においては、患者さんや一緒に働く人に対して家族に接するような思いやりを持つこと

## TBL（臨床実習入門）

TBLとはTeam Based Learningの略で、グループで協同して問題を解くことにより、学生がお互いに教え合い、学び合うことを狙いとしたアクティブ・ラーニングです。また、単に学習を促すだけでなく、授業に向き合う姿勢を加味した加点減点システムやピア評価により、お互いに切磋琢磨することを狙いとしたシステムです。福島県立医科大学ではOSCE前の4年生の症候論でTBLを取り入れています。2018年と2019年に出题された症候は以下になります。

unit	1	2	3	4	5	6	7	8
2018	頭痛	咳	めまい	リンパ節腫脹	腰背部痛	胸痛	腹痛	発熱
2019	胸痛	リンパ節腫脹	腰痛	腹痛	嘔気・嘔吐	意識障害	発熱	尿量・排尿異状

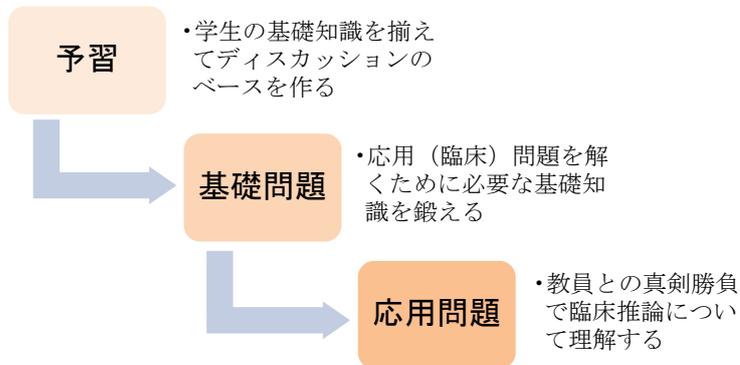
TBLの授業は予習・基礎問題・応用問題と別れています。予習は症候に対する学生間の基礎知識を均すために必須の項目です。学生が予習をしてきていることを前提に基礎問題を行います。基礎問題ではまず個人テスト(IRAT)を行い、続いて個人テストと同様の問題をチームで解くグループテスト(GRAT)を行います。GRATでは予習で得た基礎知識を駆使して学生同士でディスカッションをします。GRATが終了すると、問題作成者である医師が解説を行います。一問一問、学生の知識を確認しながら進めます。

その次に応用問題を実施します。応用問題は症例ベースで、具体的な症状を持った患者に対応するという形で進行します。始めの訴えから、問診の掘り下げ、身体診察、鑑別診断、検査、確定診断というステップを踏み、それぞれの段階で問題を解きながら臨床推論を進めます。お互いに知恵を出し合って切磋琢磨することが目標になります。

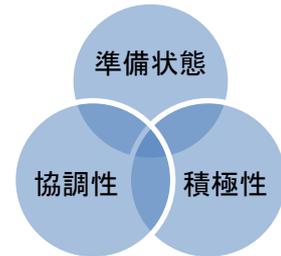


学生はひとつの unit が終わる毎に相互チェック（ピア評価）を行います。同じグループのそれぞれの学生について、学習の準備状態、積極性、協調性について評価しコメントを加えます。自分のチームへの貢献度を客観的に知ることができ、チームワークの重要性について学びます。

#### ◆各 unit の流れと相互チェック



下記項目をお互いに評価し合い、人間力のアップを目指す。



# 英語による医療面接

## The Medical Interview in English Course

### 1. Description

The Medical Interview in English Course is a new, bespoke course for September 2019. It has been designed in response to the rising demand for clinical medical English instruction as increasing globalisation has caused the foreign population to rise to 2.5million (2% of the population) and foreign tourism to Japan results in an additional 32million visitors per year.

The course builds on the excellent foundation in English instruction provided in the first and second year, and aims to engage students in applying greater clinical acumen to their interactions in English. Given that students are not taught medicine in English during their training, they struggle to integrate the phrases and dialogue learnt during their early medical school years, to real-life clinical encounters with non-Japanese patients during training and as doctors. This course therefore acts as an essential bridge, integrating the principles of history taking in English with clinical context; strengthening students' medical interview and diagnostic skills in English, whilst applying their Japanese medical knowledge in an English context.

### 2. Purpose

The Medical Interview in English course aims to:

- Give students a framework for a successful medical interview with a non-Japanese patient, focusing on improving interactions with Western patients
- Provide students with techniques to successfully navigate the cultural divide and form a therapeutic relationship with non-Japanese patients during the medical interview
- Enhance student medical vocabulary, improve flexibility and confidence with using English in clinical contexts
- Give students an opportunity to develop their clinical acumen in English, through applying medical principles in English to clinical situations.

The course has 3 unique features:

- It provides an evidence-based overview of socio-cultural challenges when interacting with foreign patients and how these challenges can impact the medical interview
- The course is written from a clinical perspective and delivered by a native English speaking clinician
- The timing of the course to designed coincide and complement Japanese clinical instruction, easing the student cognitive load as many principles taught in the course can be applied to their Japanese clinical studies.

### Course structure:

The course is made up of 4 sessions, comprising interactive lectures using ARS, audience response system (clicker) technology and a group mini-interviews in English with a native English-speaking simulated patient. Additionally audio and written resources have been created for students which are available online via FMU Passport. During the final session students individually create a concept map to depict their learning from the course, from which they receive individual feedback.

The course is currently formative with no formal examination. Satisfactory attendance is required to pass. Therefore, in order to evaluate the course, students were asked to complete a self-rating score on their English speaking, reading, writing and medical interview confidence levels before and after the course in addition to completing a feedback questionnaire.

Figure 1 (below): An outline of the course structure

Theme	Date	Time	Location	Mode of teaching
Session 1- Course introduction, course lectures	30/9/2019	13:00-15:10 (130mins)	第 4 講義室	Lectures
Session 2 – mini interview  (4 groups)	2/10/2019	13:00-15:10 (130mins)	スキルラボ・アド バンス (4 号館 5 階)	Small group
Session 3 – mini interview  (4 groups)	8/10/2019	09:50-12:00 (130mins)	S309 (8 号館 3 階)	Small Group
Session 4 – Concept mapping and case discussion	8/10/2019	13:00-15:10 (130mins)	第 4 講義室	Lecture

### An overview of the course sessions

#### Session 1: Lectures

This session is made up of a series of interactive lectures on the following topics:

- Socio-cultural frameworks
- Foreign patients in Japan

- Introduction to the medical interview in English
- How to structure your consultation in English
- Rapport building in English
- Linguistic styles for necessary for a successful consultation
- How to sound more natural in English in the medical interview
- Specific techniques for sensitive topics during the medical interview

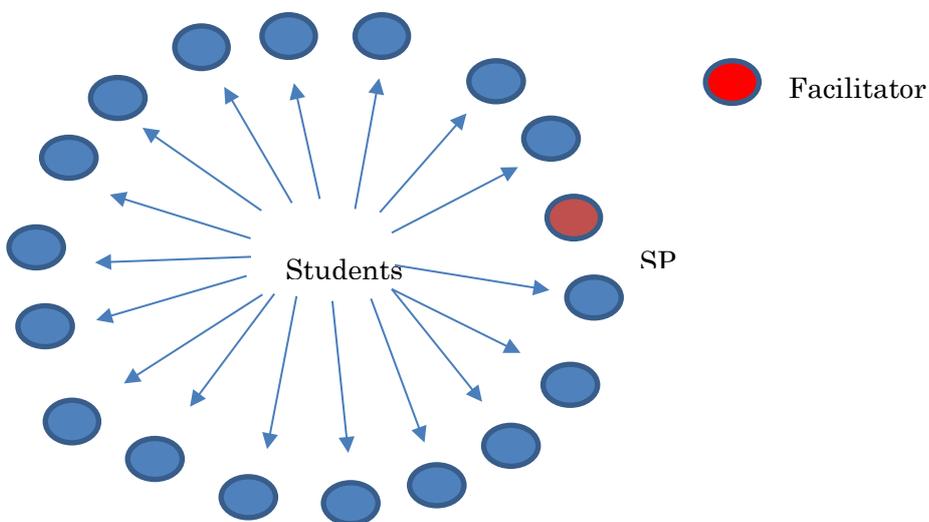
The session contains regular tasks consisting of questions answered via audience response devices/clickers.

### Sessions 2 and 3: Mini-Interview

Students work in pre-defined groups. Each group is assigned a 30minute slot with a facilitator and simulated patient (SP). Students proceed to conduct the medical interview with the simulated patient in English as a group. The role of the facilitator is to pause the interview for the group to reflect on the nature of the question asked, the direction the interview is going and to discuss the clinical rational behind the questions and decisions.

The session allows students to apply the principles of medical interview clerking that they have learnt in session 1, and use their Japanese medical knowledge to help guide the questioning in the scenario with the focus on a clinically sound interview.

Figure 2 (below): Diagram of the layout for sessions 2 and 3



### Session 4: Case discussion and concept maps

At the start of this session students have an introduction into concept maps and then construct their own concept map about what they have learnt from the course. This is submitted as their assessment for the course.

The remaining hour consists of a case discussion of the mini-interview scenario. Students are expected to contribute to forming a differential diagnosis and a discussion on management.

### 3. Implementation date

The course ran as a pilot between 9/30/2019-8/10/2019 and will be expanded for 2020.

### 4. Performance

Results of student confidence scores

Students self-rated their confidence levels in English speaking, reading, writing and in the medical interview on a scale of 1 (least confident)-10 (most confident). 97% of students had full attendance (126/131), and the number of completed paired results is 123. We explored both extremes of ability, examining the number of students rating their scores as 5 or above, and those rating their scores as 1.

Overall,

- 94% of student self-rating scores improved in one area after the course (116/123)
- 80% of students improved in two or more areas (99/123)

Figure 3: The scores for speaking and medical interviewing are shown below (reading and writing showed similar improvements).

Student self-rating score	Pre-course	Post-course
% students rating their speaking at 5 and above (higher bracket)	15%	63%
% students rating their medical interviewing at 5 and above (higher bracket)	5%	36%
% students rating their speaking at 1 (lowest bracket)	23%	2%
% students rating their medical interviewing at 1 (lowest bracket)	42%	10%

As shown above, the numbers of students rating their confidence in speaking as 5 above increased from 15% to 63% and those rating their confidence in medical interviewing rose from 5% to 36%. Excitingly, the numbers of those with the lowest confidence in speaking English dropped from 23% to 2%, with the numbers of those rating their confidence in medical

interviewing as 1 showing a similar trend by decreasing from 42% to 10%.

### Concept map production

All students present at the final session (128/131) produced concept maps in English, depicting what they had learnt during the course. Many maps show impressive attention to detail with good understanding and application of course material. The maps were then used to give students feedback on their performance, giving them individual feedback on their understanding of course principles and where improvement can be made.

## 5. Participants

The participants were 131 4<sup>th</sup> year medical students

## 6. Staff

The course has been designed and taught by:

Dr Maham Stanyon

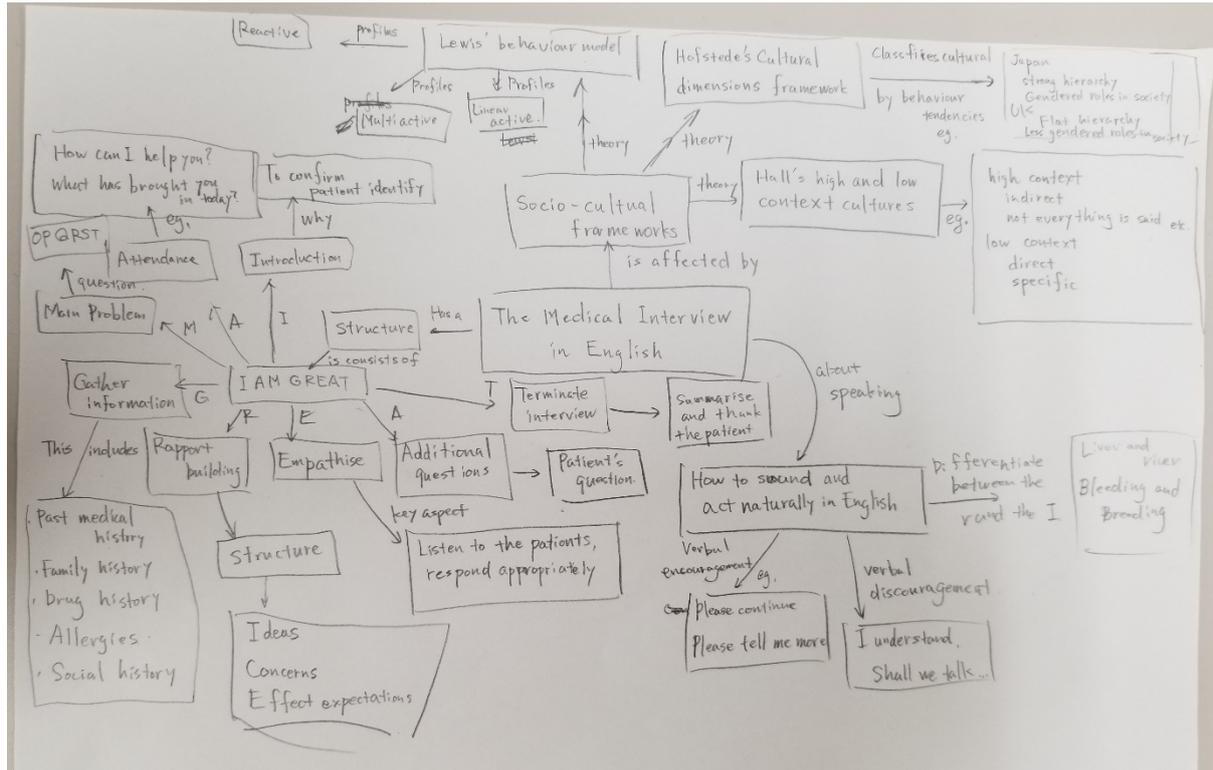
Assistant Professor

Centre for Medical Education and Career Development

Fukushima Medical University

## 7. Photographs

Figure 4 (below): An example of one of the student produced concept maps.



## 多職種連携授業

多職種連携授業は2019年度から開始した新しい授業です。医学部4年生（全員）および看護学部4年生（希望者）に、臨床での事例を通じて、医療チームの一員としてお互いの役割を理解し、どのように患者に関わるべきか具体的にグループワークを通して一人ひとりが考えることを目標としています。授業は午前と午後に分かれており、医学部生はどちらかに参加することが必須です。

### ●午前の部：

日時：2019年9月25日(水) 8:40～12:00

場所：化学・微生物・免疫学実習室（12号室3階）

対象：医学部4年生 68名および看護学部4年生（12名）

タイトル：「急性心筋梗塞患者で入院した60歳代患者への対応」

- 内容：1. アイスブレイク、班の中での自己紹介、役割分担（10分）  
2. 事例紹介（15分）  
3. Mission-①（個人課題）（30分）  
4. Mission-②（グループワーク）（40分）  
5. 発表・質疑応答（40分）  
6. まとめ（15分）

医療人育成・支援センターでは、具体的な事例作成と当日の運営全般を担当しました。また、新学部設立後を見据えて、新学部および看護学部の教員にファシリテーションとして参加していただきました。

### ●午後の部：

日時：2019年9月25日(水) 13:00～16:20

場所：化学・微生物・免疫学実習室（12号室3階）

対象：医学部4年生 63名および看護学部4年生（15名）

タイトル：「死を前にした人にあなたは何かができますか」

内容：講師に、めぐみ在宅クリニックの小澤武俊先生を招いて、大きな苦しみを抱える人を前にした時、苦しみに寄り添うとはどういうことなのか、そのために私達はどのように言葉をつないでいくのが良いのか、隣の人とペアになって演習を重ねながら考えました。

## 医療入門 1（臨床実習入門）

医療入門 1 では、臨床実習の参加に先立ち、臨床技能の習得を確実にを行うために構成されています。医療人育成・支援センターでは、心電図記録実習、採血実習、医療面接実習を担当し、医学生が臨床実習に参加する前に、基礎的な技能を習得することに寄与しています。

### 心電図記録実習

心電図記録実習では、循環器内科、臨床検査部の先生方と協力して、学生を 10 人程の小グループに分けて心電図の装着を指導しています。なお、実習前には、指導教員を一同に集めて、指導内容、指導方法のすり合わせを行い、教員間で齟齬が無いように注意しています。

### 採血実習

採血実習では 1 回につき 12 名の学生を 1 時間で指導します。12 名を 4 グループに分け、医師役、患者役、チェック係を順番で行います。患者役は腕に血管モデルを装着し、疑似的に採血をされることで、採血の技術だけでなく声かけ等も観察することが可能です。それぞれの役割を 2 回ずつ練習します。

### 医療面接実習と SP 演習

医療面接実習では、OSCE の前段階として、学生が現時点での医療面接の力を確認することを目的としています。学生が模擬患者さんと 10 分間の面接を行い、その様子を教員が評価します。医療面接終了後には、学生および教員からフィードバックが行われます。医療面接実習は、胸痛や頭痛など、全部で 9 つの症候に関するシナリオを用いて行われます。医療面接実習を踏まえ、SP 演習では、さらに小グループに分かれて医療面接を行い、SP さんからのフィードバックを受けます。

## Moodle を用いた臨床実習評価

国際認証受審に向けた医学教育改革の一環として、2018 年度から本学 BSL が従来の 50 週から 72 週へ延長したが、それに併せて学生の総括的評価と形成的評価について見直すこととなった。そして、医療人育成・支援センターの唐尊一先生を中心に、オンライン学習管理システムである Moodle を用いて実習後の学生の自己評価および教員の学生評価を実施する体制を構築した。具体的には、以下の様である。

### 【学生】

- 1) 実習終了時または後に個人 ID/PW を用いて Moodle にログインする。
- 2) 当該科の到達目標に対する到達度を自己評価して入力する。
- 3) コメント欄（自由記載）に、当該科実習に関する内容を記載する。

### 【教員】

- 1) 実習終了後に各科に付与された ID/PW を用いて Moodle にログインする
- 2) 対象学生の「総合目標（到達目標の 1 つ）」をルーブリックの 4 段階で評価して入力する。  
※総括的評価として独自評価（症例レポート等）を用いる科では、その点数も入力する。  
※教員が「総合目標」評価（および独自評価の点数）を入力すると、学生の総括的評価（成績判定のための点数）が自動計算され、教育研修支援課で確認可能となる。
- 3) コメント欄（自由記載）に、実習全体を通してのフィードバックコメントを入力する。
- 4) 入力（記載）者および評価責任者名を入力する。

なお、この Moodle を用いた評価システムの特徴は、教員と学生が上記を入力すると、お互いの評価とコメントを確認できることである。それにより学生は、自己評価と教員評価との乖離を確認できると同時に、教員から実習全体のフィードバック（形成的評価）を受けられることができる。一方で教員は、学生の到達度とコメントを、当該科の実習プログラムの充実に役立てられる。

また、Moodle はインストールやアップグレードが容易でプラグイン数も多く、また多人数への対応が容易なことなどから、様々な情報の集約化に有用とされる。そこで BSL では、Moodle にスケジュールや班分表、諸注意、全科シラバスや自己評価表のほか、学術誌 Lancet の出版社である Elsevier®が提供するオンライン臨床手技動画ベース「Procedures Consult」とのリンクを作成し、さらに各科が作成した基本的手技の解説マニュアル（臨床手技学習コンテンツ）を「臨床実習手帳」から再載した。また、利便性を考慮して学外からのアクセスやスマートフォンでの利用も可とした。

さらに、この BSL 双方評価システムについては、学生及び教員のアンケートを実施して、微修正を行いながら運営しているところである（※アンケートも Moodle で実施している）。

## 2) 臨床医学教育研修部門

---



## 臨床医学教育研修部門の取組

臨床医学教育研修部門

大谷 晃司

平成 30, 31 年度の臨床医学教育研修部門の活動報告の詳細は、別項の通りです。臨床医学教育研修部門の活動の柱の一つである福島・良き医師をはぐくむプロジェクトと福島県臨床研修病院ネットワーク事業は、平成 28 年度以降、「福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金」を原資として活動をさせていただいています。本事業は、福島県内への医師招聘活動の中で確固たる地位を築いており、県でも事業継続にご理解、ご支援いただいています。

平成 29 年度から 2 泊 3 日の全員必修になった 3 年生の地位実習Ⅱは、県や各自治体等のご協力の下、平成 30 年度も行うことができました。

この 2 年間の活動の最も大きな変化は、平成 30 年 10 月からの 4 年生の BSL (bed side learning) 開始 (いわゆる 72 週問題、あるいは新 BSL) です。平成 29 年度から BSL 連絡会議を毎月開催し、BSL72 週時代の地ならしを開始していましたが、現在も引き続き毎月開催し、BSL の問題点等を各科で共有できるようにしています。

以上のように、臨床医学教育研修部門の活動は、卒後臨床研修教育の立場から、学部教育へと活動の範囲の拡大は続いています。

## 2018年度

2018年

- 4月2日 研修医オリエンテーション（～13日）
- 4月6日 福島県立医科大学医学部5年生との未来を語る会開催
- 4月7日 新臨床研修医合同オリエンテーション開催（～8日）  
（ホテルリステル猪苗代）
- 4月9日 グローバル医師育成海外研修（～15日）
- 4月18日 指導医セミナー開催（わたり病院）
- 4月19日 指導医セミナー開催（竹田総合病院）
- 4月23日 卒後臨床研修管理委員会
- 4月25日 外傷初期診療セミナー（年10回開催）
- 5月11日 緊急医師確保修学資金説明会（医大）
- 5月12日 専門研修プログラム説明会
- 5月12日 第35回福島アドバンスド・コース（FACE：Fukushima Advanced Course by Experts）開催（～13日）  
メイン講師：大船中央病院 須藤 博先生
- 5月23日 平成30年度第1回臨床研修病院ネットワーク連絡会議
- 5月27日 eレジフェア（東京）へ出展
- 5月28日 卒後臨床研修管理委員会
- 6月8日 マッチング説明会（福島医大）：教育研修支援課との共催
- 6月10日 レジキャリフェア（東京）へ出展
- 6月13日 指導医セミナー開催（福島赤十字病院）
- 6月15日 平成30年度一般社団法人福島県立医科大学光が丘協議会定時評議員会  
（ザ・セレクトン福島）
- 6月15日 地域実習2 オリエンテーション1回目
- 6月17日 レジナビフェア（東京）後期研修へ出展
- 6月23日 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京 2018 開催  
基本領域専門研修プログラム説明会、医学部後援会講演  
へき地・地域医療修学資金個別面談  
（東京国際フォーラム）
- 6月25日 卒後臨床研修管理委員会
- 7月1日 レジナビフェア（大阪）へ出展
- 7月8日 地域実習2 オリエンテーション2回目
- 7月14日 研修医サマーセミナー
- 7月15日 レジナビフェア（東京）へ出展
- 7月23日 卒後臨床研修管理委員会  
地域自習Ⅱの引率：公立藤田病院コース（～25日）

7月24日	地域自習Ⅱの引率：公立小野町総合病院コース1（～26日）
7月25日	地域自習Ⅱの引率：白河コース（～27日）
	地域自習Ⅱの引率：いわきコース1（～27日）
7月31日	地域自習Ⅱの引率：須賀川・鏡石・天栄・玉川コース（～8月2日）
8月4日	第36回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～5日） メイン講師：福島医大病院 濱口 杉大先生
8月7日	地域自習Ⅱの引率：相双コース（～9日）
8月8日	地域自習Ⅱの引率：いわきコース2（～10日） 地域自習Ⅱの引率：県南コース（～10日）
8月21日	地域自習Ⅱの引率：公立小野町総合病院コース2（～23日）
8月22日	地域自習Ⅱの引率：会津／南会津コース（～24日）
8月28日	平成30年度第2回臨床研修ネットワーク会議、
8月29日	地域自習Ⅱの引率：いわきコース3（～31日）
9月7日	グローバル医師育成海外研修選考委員会（福島医大）
9月22日	診断推論セミナー開催（～23日） 講師：名古屋第二赤十字病院 副院長 野口 善令先生
9月25日	地域自習Ⅱの引率：いわきコース4（～27日）
9月27日	卒後臨床研修管理委員会（拡大）
10月5日	福島県立医科大学医学部4年生との未来を語る会開催
10月20日	福島県主催指導医養成講習会（～21日）（福島県立医科大学） レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催 （とうほう・みんなの文化センター）
10月22日	卒後臨床研修管理委員会
10月23日	指導医セミナー開催（福島労災病院）
10月27日	レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」開催 （白河厚生総合病院）
10月28日	レジナビフェア（仙台）へ出展
11月5日	グローバル医師育成海外研修事前説明会（東北大学病院）
11月10日	第37回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～11日）
11月16日	福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島 2018 開催 （ウエディングエルティ）
11月26日	卒後臨床研修管理委員会
11月29日	卒後臨床研修評価受審
12月7日	次年度採用研修医年次計画作成説明会（福島 SPAL NEXT ホール）
12月10日	グローバル医師育成海外研修（～14日）
2019年	
1月12日	福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会（～13日）
1月28日	卒後臨床研修管理委員会

2月1日	グローバル医師育成海外研修選考委員会（福島医大）
2月2日	レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催 （コラッセふくしま）
2月9日	第38回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～10日） メイン講師：諏訪中央病院 山中 克郎先生
2月12日	平成30年度第3回臨床研修ネットワーク会議（杉妻会館） 臨床研修病院ネットワークセミナーの開催（杉妻会館）
2月13日	平成30年度卒後臨床研修プログラム検討会議
2月15日	福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 福島へ出展
2月25日	卒後臨床研修管理委員会
2月26日	新専門医制度説明会
3月3日	レジナビフェア（福岡）へ出展
3月10日	レジナビフェア（東京）へ出展
3月11日	卒後臨床研修管理委員会（拡大）

## 2019年度

### 2019年

4月1日	研修医オリエンテーション（～12日）
4月6日	新臨床研修医合同オリエンテーション開催（～7日） （ホテルリステル猪苗代）
4月22日	卒後臨床研修管理委員会
4月25日	外傷初期診療セミナー（年6回開催）
5月6日	グローバル医師育成海外研修（～30日）
5月11日	マイナビフェス（仙台）へ出展
5月18日	基本領域専門研修プログラム説明会開催
5月24日	地域実習2 オリエンテーション1回目
5月26日	eレジフェア東日本（東京）へ出展
5月31日	平成31年度第1回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議 卒後臨床研修管理委員会（拡大） 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島 （ウェディング・エルティ）
6月7日	令和元年度一般社団法人福島県立医科大学光が丘協議会定時評議員会 （ザ・セレクトン福島）
6月8日	第39回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～9日） メイン講師：北海道勤医協札幌病院 佐藤 健太先生

6月14日	マッチング説明会（福島医大）：教育研修支援課との共催
6月21日	地域実習2 オリエンテーション2回目 医学部後援会講演：後援会、教育研修支援課との共催
6月23日	レジナビフェア（東京）へ出展
6月24日	卒後臨床研修管理委員会
6月29日	福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京 2019 開催
6月29日	基本領域専門研修プログラム説明会、医学部後援会講演 へき地・地域医療修学資金個別面談 （ステーションコンファレンス東京）
7月6日	内科系新専門医説明会（ユニックスビル）
7月7日	レジナビフェア（大阪）へ出展
7月22日	卒後臨床研修管理委員会
7月27日	研修医サマーセミナー
7月29日	地域自習Ⅱの引率：須賀川・鏡石・天栄・玉川コース（～31日）
7月31日	地域自習Ⅱの引率：公立小野町総合病院コース1（～8月2日）
7月31日	地域自習Ⅱの引率：白河コース（～8月2日）
8月5日	地域自習Ⅱの引率：公立藤田病院コース（～7日）
8月7日	地域自習Ⅱの引率：いわき市コース1（～9日） 地域自習Ⅱの引率：相双コース（～9日）
8月17日	第40回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～18日） メイン講師：聖マリアンナ医科大学 松本 純一先生 済生会横浜市東部病院 妹尾 聡美先生
8月20日	令和元年度第2回福島県臨床研修病院ネットワーク会議（福島医大）
8月21日	地域自習Ⅱの引率：いわき市コース2（～23日） 地域自習Ⅱの引率：県南コース（～23日）
8月26日	地域自習Ⅱの引率：会津／南会津コース（～28日）
8月28日	地域自習Ⅱの引率：公立小野町総合病院コース2（～30日）
9月6日	グローバル医師育成海外研修選考委員会（福島医大）
9月21日	第9回診断推論セミナー開催（～22日） 講師：名古屋第二赤十字病院 副院長 野口 善令先生
9月25日	地域自習Ⅱの引率：いわき市コース3（～27日）
9月27日	卒後臨床研修管理委員会（拡大）
9月28日	レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催 （とうほうみんなの文化センター（県文化センター））
10月5日	レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」開催 （いわき市医療センター いわき市）
10月6日	レジナビフェア（仙台）へ出展
10月11日	福島県立医科大学医学部4年生との未来を語る会開催

	(ウェディング・エルティ)
10月26日	第41回福島アドバンスド・コース (FACE) 開催 (～27日) メイン講師：群星沖縄臨床研修センター 徳田 安春先生 福島県主催指導医養成講習会 (～27日) (福島県立医科大学)
10月28日	卒後臨床研修管理委員会
10月30日	グローバル医師育成海外研修事前説明会 (東北大学病院)
11月19日	指導医セミナー開催 (南相馬市立病院)
11月20日	指導医セミナー開催 (福島赤十字病院)
11月25日	卒後臨床研修管理委員会
11月26日	指導医セミナー開催 (いわき市医療センター)
12月5日	指導医セミナー開催 (竹田総合病院)
12月7日	グローバル医師育成海外研修 (～15日)
12月20日	次年度採用研修医年次計画説明会 (福島 SPAL NEXT ホール)
12月25日	指導医セミナー開催 (総合南東北病院)
2020年	
1月8日	指導医セミナー開催 (星総合病院)
1月11日	福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会 (～12日)
1月15日	指導医セミナー開催 (白河厚生総合病院)
1月21日	指導医セミナー開催 (会津中央病院)
1月23日	指導医セミナー開催 (公立岩瀬病院)
1月27日	卒後臨床研修管理委員会
2月4日	令和元年度卒後臨床研修プログラム検討会議
2月6日	令和元年度第3回福島県臨床研修病院ネットワーク会議 (福島医大) グローバル医師育成海外研修選考委員会 (福島医大)
2月7日	福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 福島
2月8日	第42回福島アドバンスド・コース (FACE) 開催 (～9日)
2月12日	指導医セミナー開催 (わたり病院)
2月15日	レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催 (コラッセふくしま)
2月17日	卒後臨床研修管理委員会 指導医セミナー開催 (会津医療センター)
2月19日	指導医セミナー開催 (大原総合病院)
2月20日	指導医セミナー開催 (寿泉堂総合病院)
2月27日	指導医セミナー開催 (公立相馬総合病院)
3月1日	レジナビフェア (福岡) 中止
3月12日	卒後臨床研修管理委員会 (拡大)
3月22日	レジナビフェア (東京) 中止

## 5年生との未来を語る会、4年生との未来を語る会

事業内容と目的：臨床実習が始まる5年生に対して、スムーズに実習に入ることが出来るように、臨床系教員との交流を図るため実施。

平成31年度は、4年生を対象に、各講座や研修部門の責任者や担当者のほか、若手医師や臨床研修医との交流会の場を設け、本学附属病院の研修内容の特徴や優位性、職場の雰囲気などを伝え、多くの卒業生に本学附属病院の研修医として登録してもらうことを目的に実施した。

開催年月日	場所	参加者	
		学生（学年人数）	教員
H30.4.6	ウエディングエルティ	116(123)	77
R1.10.11	ウエディングエルティ	107(132)	66

第1部と第2部に分かれて構成されている。第1部のプログラムは、以下のとおり。

- ・「BSLとはなんだろう」
- ・研修医と指導医によるパネルディスカッション

開催にあたっての資金は、医学部後援会から一部ご支援を頂いている。

学生に対するアンケート結果は概して良好。

参加者の声（R1 アンケートより抜粋）

- ・BSLのアドバイスや将来のことをたくさん聞けて良かった。
- ・とても有意義な時間が過ごせました。
- ・様々な先生とお話できて楽しかった。

	未来を語る会を来年も開催すべきかどうか？		
	開催した方がよい	どちらでもよい	開催しなくてもよい
H30	66	5	2
R1	93	11	0



## 研修医説明会

### 1. 臨床研修医募集に関する説明会

業者が主催する説明会（レジナビ等）への参加と、福島県が主催する説明会への参加に大きく区別される。特に平成23年度からは、東日本大震災を受けて、単に臨床研修医募集を目的とするだけでなく、福島の実状を理解してもらおうという意味も含め、大阪や福岡で開催されるレジナビにも参加している。

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加 病院	参加 者数	うち 医大
2018/5/27	eレジフェア 2018 in 東京	ネットワーク	東京ドームシティ (東京都)	4	41	13
2018/6/10	レジキャリアフェア 2018 東京	ネットワーク	ベルサール新宿 セン トラルパーク	1	31	31
2018/6/23	福島県臨床研修病院合同 ガイダンス in 東京	福島県 ネットワーク	東京国際フォーラム (東京都)	13	8	3
2018/7/1	レジナビフェア 2018 in 大阪	ネットワーク	インテックス大阪 (大阪市)	1	12	12
2018/7/15	レジナビフェア 2018 in 東京	福島県 ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	14	100	14
2018/10/28	レジナビフェア 2018 In 仙台	ネットワーク	仙台国際センター (仙台市)	9		26
2018/11/16	福島県臨床研修病院合同 ガイダンス	福島県 ネットワーク	ウエディングエルティ (福島市)	18	70	
2019/3/3	レジナビフェア 2019 in 福岡	ネットワーク	福岡マリンメッセ (福岡市)	1	30	30
2019/3/10	レジナビフェア スプリング 2019in 東京	ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	8	111	11
2019/5/26	eレジフェア 2019 in 東京	ネットワーク	東京ドームシティ (東京都)	4	80	21
2019/5/31	福島県臨床研修病院合同 ガイダンス in 福島	福島県 ネットワーク	ウエディングエルティ (福島市)	18	95	
2019/6/29	福島県臨床研修病院合同 ガイダンス in 東京	福島県 ネットワーク	ステーションコンファレンス (東京都)	17	12	1

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加 病院	参加 者数	うち医 大
2019/7/7	レジナビフェア 2019 in 大阪	ネットワーク	インテックス大阪 (大阪市)	1	54	54
2019/10/6	レジナビフェア 2019 in 仙台	福島県 ネットワーク	仙台国際センター (仙台市)	11	93	16
2020/3/1 中止	レジナビフェア 2020 in 福岡	ネットワーク	福岡マリンメッセ (福岡市)			
2020/3/22 中止	レジナビフェア ス プリング 2020in 東京	ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)			

ネットワーク：福島県臨床研修病院ネットワーク

## 2. 専攻医（いわゆる後期研修医）募集に関する説明会

専攻医については、各診療科（各基本領域プログラム）が主体となり、医局説明会等を開催し、募集活動をおこなっている。

令和2年度の採用者は、過去最多だった平成30年度の81名には及ばなかったが、前年度より増加して77名であった。

医療人育成・支援センターでは、各基本領域プログラムにおける採用活動と連携し、学内外での説明会や民間主催説明会（レジナビ）へ参加するなど、広く応募を呼びかけている。

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加 者数
2018/6/17	レジナビフェア 2018 東京 ～専門研修プログラム～	福島県立医科大学光 が丘協議会	東京ビッグサイト (東京都)	3
2018/5/12	新専門医制度 専門研修プログラム説明会	福島県立医科大学付 属病院、 医療人育成・支援セン ター	福島県立医科大学 8号館S301	31
2018/6/23			東京国際フォーラム (東京都)	6
2019/5/18	新専門医制度 専門研修プログラム説明会	福島県立医科大学附 属病院 医療人育成・支援セン ター	福島県立医科大学 8号館S301	8
2019/6/29			ステーションコンファレンス (東京都)	13

## 福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県は医師不足が深刻な状況を踏まえ、平成 22 年 11 月に「地域医療再生計画」を策定し、各種施策を展開している。その一環として、県は本学に対する補助事業として「福島県臨床研修病院ネットワーク」を平成 23 年度から立ち上げ、当医療人育成・支援センターが事務局として運営している。活動は多岐にわたっている。

### 1. 臨床研修医招聘事業

#### 1) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京

首都圏の医学生に対する臨床研修病院の説明会として、毎年 6 月に開催している。2012 年からは、福島県とタイアップして、県の修学資金生に対する面談も合わせて行っている。参加学生数等は、以下のとおり。

年度	参加医学生	県内臨床研修病院参加数
2018	17 名	15 病院
2019	12 名	17 病院

#### 2) レジナビフェア等への参加

各地で開催される医学生対象の臨床研修病院合同説明会に積極的に参加している。詳細は、別項の研修医説明会参照。

#### 3) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島の開催

県内研修病院の周知を目的として、福島医大 5 年生を対象に開催している。

県内全ての研修病院によるプレゼンテーションをはじめ、ネットワークの活動等の紹介も行う第 1 部と、立食パーティー形式の第 2 部の構成を基本としている。

年度	開催月日	場所	参加学生数	5 年生在籍数	参加率(%)
2018	11.16	エルティ	70 名	127 名	55
2019	5.31	エルティ	95 名	125 名	76



4) 福島県臨床研修病院合同ガイダンス

平成 21 年度まで春期休業中に福島県主催で行われていた福島県内の 臨床研修病院 合同ガイダンスを平成 22 年度から、ネットワーク共催という形で開催している。

5) 福島県立医科大学内個別説明会等の開催

県内各臨床研修病院の福島医大学生への認知度を上げるため、各病院が昼休みや放課 後に説明会を行っている。

6) ふくしま“絆”医学生臨床実習支援事業

平成 24 年度より、福島医大学生以外の医学生が県内臨床研修病院で学外臨床実習を行 う場合、一人あたり 5 万円の助成を行っている。

年度	助成件数	大学数	病院数
2018	11 名	4 大学	3 病院
2019	18 名	6 大学	6 病院

## 2. 臨床研修医育成事業

### 1) 臨床研修医合同オリエンテーション

平成24年度より、4月の第1週の土日に、県内で臨床研修を開始する全ての研修医を集めた合同オリエンテーションを開催している。初日は、福島県臨床研修病院ネットワークや県内で開催しているFACEといった勉強会の紹介、ネットワークが県内の臨床研修医全てに提供しているEBM情報ツールであるDynaMedの使い方の紹介等である。

また、副知事等をお招きした懇親会を行っている。

翌日は、福島県ACLS協会の全面支援のもと、BSLを開催している。

### 2) 福島アドバンスド・コース (Fukushima Advanced Course by Experts : FACE)、診断推論セミナーの開催

温泉付きの1泊2日の勉強会として、全国的に有名となったFACEや診断推論セミナーを開催している。

### 3) セルフ鍛錬研修の提供

県内の臨床研修の質の向上と均てん化を図るため、インターネットを活用した自主研修教材の提供を行っている。県内の研修医すべてに教材を提供するという試みは、全国初である。以前、県内の研修病院の調査で、二次情報ツールとしてのUP TO DATEやDynaMedを研修医教育に導入している病院は半数に過ぎないという事実から、EBM情報ツールであるDynaMedを導入した。

#### 4) ACLS

県内の臨床研修の質の向上と均一化をはかる一貫として、NPO 法人福島県 ACLS 協会の全面的な支援のもと、平成24年度から、BLS を合同オリエンテーションで実施することで受講の機会を提供している。県内臨床研修医の ACLS 受講実績は、以下の通りである。

#### ACLS 取得状況

No.		在籍者数		受講者数		受講率	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
1	医科大学附属病院	17	27	16	27	94.1%	100.0%
2	大原総合病院	7	7	7	7	100.0%	100.0%
3	わたり病院	1	-	1	-	100.0%	-
4	福島赤十字病院	8	6	8	6	100.0%	100.0%
5	公立藤田総合病院	4	5	4	5	100.0%	100.0%
6	太田西ノ内病院	4	14	0	10	0.0%	71.4%
7	星総合病院	7	5	7	5	100.0%	100.0%
8	総合南東北病院	15	16	15	16	100.0%	100.0%
9	寿泉堂総合病院	6	6	6	6	100.0%	100.0%
10	公立岩瀬病院	4	1	4	1	100.0%	100.0%
11	白河厚生総合病院	6	5	0	5	0.0%	100.0%
12	竹田総合病院	10	9	10	9	100.0%	100.0%
13	会津医療センター	3	5	3	5	100.0%	100.0%
14	会津中央病院	3	4	3	4	100.0%	100.0%
15	いわき市医療センター	11	8	11	8	100.0%	100.0%
16	福島労災病院	1	1	0	0	0.0%	0.0%
17	公立相馬総合病院	3	1	3	0	100.0%	0.0%
18	南相馬市立総合病院	3	3	0	3	0.0%	100.0%
合計		113	123	98	117	86.7%	95.1%

\*令和2年3月時点

#### 5) レジデントスキルアップセミナー

平成24年度から開催している合同オリエンテーション及びFACEや診断推論セミナーは、研修医の交流の場を設けて、他者と比較することにより、自分の研修の進み具合を確認して、研修のモチベーションを高めてもらうという意味合いがある。

しかし、必ずしも県内臨床研修医が多く集まるわけではない。

また、臨床研修医からは、合同オリエンテーションだけでなく、研修医が集まる場を提供して欲しいという要望もあり、本事業を平成24年度から実施している。以下のとおり平成30年度は 回、令和元年度は4回開催した。

平成30年10月20日 心エコーセミナー  
参加臨床研修医36名  
(とうほう・みんなの文化センターにて開催)

平成30年10月27日 福島県地域医療症例検討会  
発表者：9名(8臨床研修病院)  
(白河厚生総合病院にて開催)

平成31年2月2日 腹部エコーセミナー  
参加臨床研修医35名  
(コラッセふくしまにて開催)

令和元年9月27日 心エコーセミナー  
参加臨床研修医 35名  
(とうほう・みんなの文化センターにて開催)

令和元年10月5日 福島県地域医療症例検討会  
発表者：12名(9臨床研修病院)  
(いわき市医療センターにて開催)

令和2年2月15日 腹部エコーセミナー  
参加臨床研修医 33名  
(コラッセふくしまにて開催)

## 6) 短期海外研修

米国日本人医師会による協力のもと、平成26年度から年2回希望者を派遣している。

平成30年4月9日～13日 県内研修医3名

平成30年12月10日～14日 県内研修医3名

令和元年5月6日～10日 県内研修医3名

令和元年12月9日～13日 県内研修医3名



## 3. 研修指導強化事業

### 1) 指導医講習会

ネットワークは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の臨床研修指導医講習会を共催・支援している。

詳細は、別項参照。

### 2) 指導医セミナー

平成16年度から実施されている医師臨床研修制度では、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。この講習会は、1度受講すれば更新の必要はない。

#### 4. 広報事業

以下のような事業を行っている。

1) ホームページの開設、臨床研修医メーリングリストの作成

2) 福島県臨床研修病院ガイドブックの作成

3) ネットワーク通信の発行

月に1回、ネットワーク通信として県外医学生等に対し郵送し、ネットワークの各種事業や県内臨床研修病院の病院見学や各種イベントの広報や紹介を行っている。

4) 臨床研修病院のPRコーナーの設置など

福島医大内に県内臨床研修病院のPRコーナーを設け、パンフレットを置いている。また、各病院のイベント等の紹介を学内の医療人育成・支援センター掲示板を使い、適時掲示している。

## 5. 成果—臨床研修医採用状況

臨床研修制度開始以来の県内・医大の臨床研修医マッチングと採用実績は、以下の通りである。平成31年採用年度のマッチング数では、史上最高の120名が県内臨床研修病院にマッチしている。

福島県臨床研修病院ネットワークの活動が、各病院の努力と相まって、本県の医療状況の改善に役立つことが期待されている。

年度（和暦）		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
福島県 臨床研修医 採用数		72	72	69	56	77	91	83	98	94	123	125
最終 採用 者数	福島 医大卒	41	42	44	26	48	53	48	53	57	79	84
	福島医大 以外卒	31	30	25	30	29	38	35	45	37	44	41
	県内出身	34	39	30	27	49	52	41	48	55	58	64
	県外出身	38	33	39	29	28	40	42	51	39	65	61
福島県 マッチング総数		72	72	79	60	76	92	88	96	97	110	120
(うち県内出身)		33	30	23	28	45	39	44	46	55	56	66
福島 医大	6年生数	79	79	84	75	80	90	102	101	110	144	126
	県内 出身	33	30	23	28	45	39	43	43	48	60	48

6. 参考；福島医大学生の県内研修病院認知度調査  
 (平成29年4月 福島医大5年生)

県内研修病院名	よく知っている	名前は 聞いたことがある	知らない
大原総合病院	41	92	0
わたり病院	41	90	2
福島赤十字病院	34	98	1
公立藤田総合病院	11	108	14
太田西ノ内病院	24	107	2
星総合病院	28	103	2
総合南東北病院	27	105	1
寿泉堂総合病院	26	107	0
公立岩瀬病院	9	91	33
白河厚生総合病院	19	105	9
竹田総合病院	18	113	2
会津医療センター	29	103	1
会津中央病院	12	93	28
磐城共立病院	22	106	5
福島労災病院	9	91	32
公立相馬総合病院	9	107	17
南相馬市立総合病院	7	107	19

## 福島・良き医師を育むプロジェクト

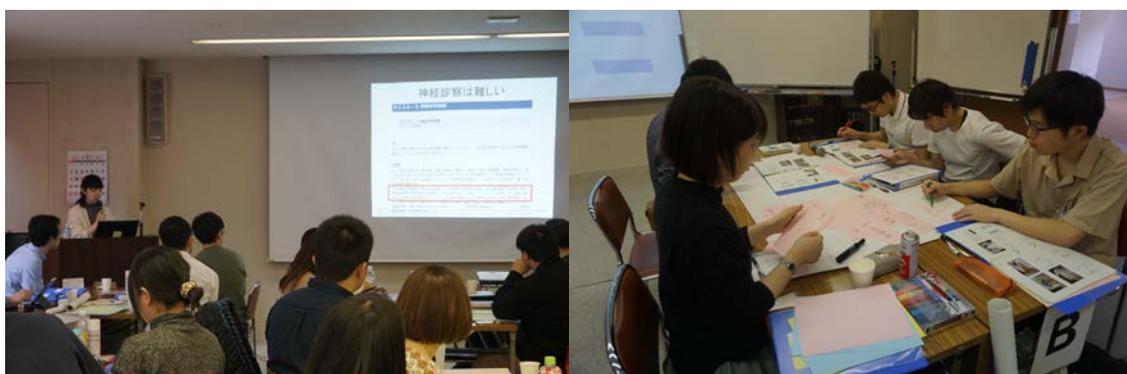
福島県では個々の病院で研修している研修医同士が交流しながら勉強する機会がないという認識の元、平成21年より、福島アドバンスドコース（FACE: Fukushima Advanced Course by Experts）と診断推論セミナーを開催している。交流を通じて、研修医同士が自分の研修内容や実績を他院の研修医と比較し、今後の研修の励みとするとともに、指導医も交流することが出来れば、県内の研修の質の向上につながるのではないかという意図で開催を続けている。当初は、県内の研修医を対象に企画していたのですが、回を重ねるたびに県外の研修医や県内外の医学部生が集まり、切磋琢磨の場のみならず、福島県の臨床研修の魅力を伝える場にもなっている。

財団法人太田総合病院の全面的な支援をいただき、源泉温泉付きの磐梯熱海の緑風苑で開催しており、温泉付きの勉強会として、全国的にも有名な勉強会となっている。

### 1. 福島アドバンスドコース

回数	開催年月日	メイン講師
第35回	平成30年5月12日～13日	大船中央病院院長 須藤 博先生
第36回	平成30年8月4日～5日	福島県立医科大学附属病院 総合内科 濱口 杉大先生
第37回	平成30年11月10日～11日	白河厚生総合病院 矢野 徹宏先生 ほか
第38回	平成31年2月9日～10日	諏訪中央病院 山中 克郎先生
第39回	令和元年6月8日～9日	北海道勤医協札幌病院 佐藤 健太先生
第40回	令和元年8月17日～18日	聖マリアンナ医科大学 松本純一先生 済生会横浜市東部病院先生 妹尾聡美先生
第41回	令和元年10月26日～27日	群星臨床研修センター長 徳田 安春先生
第42回	令和2年2月8日～9日	沖縄県立中部病院 成田 雅先生 ほか

回数	学生		臨床研修医		後期研修医	医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外			
第35回	4	0	30	1	0	4	39
第36回	5	0	8	3	3	4	23
第37回	8	1	18	7	1	3	38
第38回	4	0	16	5	2	2	29
第39回	5	1	20	2	0	2	30
第40回	3	0	23	1	1	3	31
第41回	4	4	22	0	0	3	33
第42回	3	0	25	1	3	4	36



## 2. 診断推論セミナー

	開催年月日	メイン講師
第10回	平成30年9月22日～23日	名古屋第二赤十字病院副院長
第11回	令和元年9月21日～22日	野口 善令先生

回数	学生		臨床研修医		後期研修医	医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外			
第10回	2	1	11	1	0	1	16
第11回	3	0	14	0	0	2	19



## 指導医講習会

平成 16 年度から実施されている医師臨床研修制度において、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされています。医療人育成・支援センターは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の新臨床研修指導医養成研修会の実施を実質的に担っています。平成 30 年度、令和元年度の開催実績は、以下の通りです。

### 1. 福島県医師臨床研修指導医養成講習会

平成 30 年 10 月 20・21 日 会場：福島医大

受講人数 23 名（うち医大 9 名）

ディレクター：戸田 光昭（福島県保健福祉部長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（老岐市民病院総病院長）、  
羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター）、  
渡辺 直彦（町立三春病院院長）、  
村川 雅洋（麻酔科学講座）、  
石川 和信（医療人育成・支援センター）  
大谷 晃司（医療人育成・支援センター）

事務局：安達 豪希、湯田 保、佐藤 洋介、伊藤 悠、阿部 孝之、石井 あかり、  
石井 美紀

令和元年 10 月 26・27 日 会場：福島医大

受講人数 37 名（うち医大 16 名）

ディレクター：戸田 光昭（福島県保健福祉部部長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県老岐病院 院長）  
羽金 和彦（宇都宮市保健所 保健医療監）  
渡辺 直彦（公立小野町地方総合病院 院長）  
村川 雅洋（麻酔科学講座主任）  
大谷 晃司（医療人育成・支援センター）  
濱口 杉大（総合内科）  
木村 隆（外科研修支援担当）

ターニングポイント担当：諸井 陽子

事務局：高野 武彦、熊谷 光彦、佐久間 止揚、花積 めぐみ、岡部 安志、伊藤 悠、  
佐藤 彩花、武藤 優也、青木 悠里

## 2. 臨床研修指導医講習会

平成31年1月12・13日 会場：福島医大

受講者数40名（うち医大23名）

ディレクター：斎藤 清（福島医大病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院 院長）、  
羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター統括診療部長）、  
渡辺 直彦（公立小野町地方総合病院院長）  
村川 雅之（麻酔科学講座）  
大谷 晃司（医療人育成・支援センター長）  
木村 隆 （外科研修支援担当）  
濱口 杉大（総合内科）

ターニングポイント担当：諸井 陽子

事務局：五十嵐 睦、吉田 克己、中野 裕美、武藤 優也、石井 晃平、  
十文字 高志、伊藤 悠、平栗 嵩久

令和2年1月11・12日 会場：福島医大

受講者数40名（うち医大24名）

ディレクター：鈴木 弘行（福島医大病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院 院長）、  
羽金 和彦（宇都宮市保健所 保健医療監）、  
渡辺 直彦（公立小野町地方総合病院 院長）  
村川 雅之（麻酔科学講座主任）  
大谷 晃司（医療人育成・支援センター長）  
木村 隆 （外科研修支援担当）  
濱口 杉大（総合内科）

ターニングポイント担当：諸井 陽子

事務局：菅野 孝雄、根本 朝彦、中野 裕美、武藤 優也、青木 悠里、  
佐久間 止揚、岡部 安志、伊藤 悠、平栗 嵩久



3. 県内研修病院での指導医の割合の現状

	臨床経験 7 年目以上の 指導する立場の医師数	指導医講習会 受講者数	受講率 (%)	臨床研修 病院数
青森県	744	581	78.1	14
岩手県	769	602	78.3	13
宮城県	1,569	1,055	67.2	19
秋田県	773	571	73.9	14
山形県	651	421	64.7	9
<b>福島県</b>	<b>1,118</b>	<b>858</b>	<b>76.7</b>	<b>18</b>
東北 6 県	5,624	4,088	72.7	87

(平成 30 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率(%)			
	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年
青森県	71.6	73.3	78.2	78.1
岩手県	72.0	76.6	79.2	78.3
宮城県	54.9	58.7	64.6	67.2
秋田県	69.0	72.0	73.7	73.9
山形県	52.5	57.0	61.4	64.7
<b>福島県</b>	<b>74.0</b>	<b>75.3</b>	<b>77.8</b>	<b>76.7</b>
東北 6 県	65.1	68.4	72.0	72.7

(東北厚生局調べ)

大学 病院	臨床経験 7 年目以上の 指導する立場の医 師数	指導医講習会 受講者数	受講率 (%)
弘前大	219	167	76.3
岩手医大	324	224	69.1
東北大	430	281	65.3
秋田大	237	149	62.9
山形大	175	95	54.3
<b>福島医大</b>	<b>352</b>	<b>287</b>	<b>81.5</b>
東北 6 大学	1,737	1,203	69.3

(平成 30 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率(%)	
	H22年	H30年
<b>福島県立医科大学附属病院</b>	<b>71.5</b>	<b>81.5</b>
大原総合病院	42.1	88.9
太田西ノ内病院	57.0	75.0
星総合病院	53.1	74.5
竹田総合病院	47.3	63.8
いわき市医療センター(旧共立病院)	16.2	60.7
総合南東北病院	34.2	58.8
公立岩瀬病院	57.1	85.0
福島労災病院	13.0	69.2
医療生協わたり病院	68.4	73.7
寿泉堂総合病院	89.3	82.4
白河厚生総合病院	69.2	82.0
公立藤田総合病院	87.5	88.5
会津中央病院	30.0	80.0
会津医療センター附属病院	77.8	85.1
福島赤十字病院	45.7	86.8
公立相馬総合病院	-	81.3
南相馬市立総合病院	-	93.3
福島県平均	53.7	76.7

(東北厚生局調べ)

県別に見れば、福島県の指導医講習会の受講率は年々増加している。特に、平成30年4月1日における受講率は、大学附属病院として東北でトップである。これには、年2回の指導医講習会を開催していることが大きく影響を与えていると考えられる。県内の研修病院の質の向上のためには、多施設の指導医と交流しながら研修医教育の在り方を考えることができる本講習会はきわめて有意義であり、受講率の低い病院の受講率を上げることが、喫緊の課題である。

## 臨床研修医に対する支援・教育（メンター制度を除く）

臨床医学教育研修部門の主たる業務の一つが、福島医大附属病院臨床研修医に対する支援や教育である。本項では、メンター制度を除いた本学研修医に対する様々な支援や教育活動について述べる。

### 1. ステップアップセミナー

毎週火曜日 18:00 から 1 時間程度、主として OJT でできない知識や技能の総まとめを目的として行っている。主に臨床研修医に内容の選定を委ねることとし、ステップアップセミナー受講率 70% を臨床研修プログラム修了の必須条件としている。

### 2. ACLS

福島医大附属病院では、平成 23 年度より、福島県 ACLS 協会の全面的な支援の元、福島県臨床研修病院ネットワークの事業として、福島県内の臨床研修医は、臨床研修終了までに ACLS を取得することを目標として、県内各地で開催される ACLS 講習会の研修医優先枠を設定して頂いている。平成 24 年度からは、臨床研修開始時の合同オリエンテーションで BSL を終了し、向こう 1 年以内での ACLS 受講を積極的に薦めている。平成 28 年度の福島医大附属病院臨床研修医の ACLS 受講者率は、以下の通り。

	在籍者数 (A)	受講修了者数 (B)	受講率 (%)
1 年次	17	16	94.1%
2 年次	27	27	100.0%

### 3. 研修資金補助

研修資金補助を目的として、平成 23 年度より助成制度を開始した。学会や研修会参加費及び交通費等を年間 20 万円まで助成し、臨床研修に関する費用であれば比較的自由に使うことができるようにしている。

	利用額 (円)			利用者率 (%)	総予算の利用額率 (%)
	最低	最高	平均		
2018 年度	107,698	200,000	187,428	37/37=100.0%	693.5/740 万=93.7%
2019 年度	57,153	200,000	191,697	41/41=100.0%	786.0/820 万=95.8%

## 臨床研修医に対する支援：メンター制度

### 【メンター制度とは】

初期臨床研修医（以下、研修医）は、特定の診療科に属することなく、ローテーションで研修を行っているため、研修中に問題や悩みが生じた場合に、研修期間を通し一貫して相談できるシステムがない。メンター制度は、この欠点を補うためのものであり、研修の進め方、研修後の進路、あるいは健康面（身体的・精神的）を含むさまざまな問題に対して、研修医が相談できる環境を整え、研修医が安心して、充実した研修を行えることを目的としたシステムである。

研修医に対する充実したサポートは、研修医の脱落防止や満足度向上につながり、結果として、研修医の確保が期待される。

### 【福島医大附属病院のメンター制度の特徴】

研修医1名に対して、シニアメンターとメンターがそれぞれ1名ずつ担当する。シニアメンターは、臨床や研究経験が豊富であり、教育実績のある教員が担当し、主に研修医のキャリアサポートを行う。一方のメンターは、各診療科から推薦された教員が担当し、研修後のキャリアサポートに加えて、研修中に生じる疑問や不安、EPOC実施入力を含む研修到達度の確認など研修に関する幅広いサポートを行うほか、研修医の日常生活や健康状態といった研修生活全般に対するサポートも担う。シニアメンターは研修開始前に、研修医の希望によって自由に選択することができる。また、シニアメンターもメンターも、研修途中での変更が可能である。

メンター制度の一環として、研修環境に対する希望や疑問、および研修医の健康状態の把握を目的として、年に1回、アンケートを実施している。アンケート結果は、各シニアメンターやメンターへ報告され、メンタリングへ活用されるほか、研修環境を向上させるための参考資料としても活かされる。

### 【メンタリングについて】

研修医は、シニアメンターとメンターに対して、希望する際にはいつでも相談を受けられることになっている。また、特に研修医からの相談希望がない場合でも、シニアメンターとは年に1回、メンターとは年に2回、定期的にメンタリングを実施しており、研修医の研修状況や健康状態などについて確認し、2年間の研修が滞りなく進められるようにサポートしている。

### 【今後の課題と展望】

メンターは、研修医と年齢が近く、何でも気軽に相談できる存在として、研修医をサポートすることが期待されている。しかしながら、メンターが常駐する部屋は整備されておらず、物理的にメンターと研修医が接点をもつ機会は限られている。そのため、通常のメンタリング以外においても、研修医と連絡を取ることが必要である。また、通常、メンターと比較して、研修医と接点が多く、研修医の研修状況や生活状況等を把握しているのは、事務職員であることが多いため、事務職員とメンターとの情報交換を定期的に行うことも研修医のサポートには不可欠であり、そのためのシステム作りも今後の課題である。

メンター制度の年間スケジュール

時期	内 容
4月上旬	研修医オリエンテーション（メンター制度について）
6月中旬～	メンターとのメンタリング（第1回）
10月中旬～	シニアメンターとのメンタリング
2月上旬～	メンターとのメンタリング（第2回）
2月中旬～	アンケート実施

## 福島県地域医療を考える懇談会

福島医大の定員増に合わせて、福島県の修学資金受給者が大幅に増加している。学年が上がるにつれ、修学資金受給者は、修学資金受給の義務を実際にはどのように果たしていくのか、自分の将来の専門性やキャリアアップと義務を果たすことの整合性はどうか等、様々な疑問を持つようになる。福島県の地域医療支援センターは、適宜、奨学金受給者との面談を行い、修学資金制度の説明を個別に行いながら、上記の疑問に答えるべく努力をしている。福島県は、将来の修学資金受給の義務を果たす対象となる県内の公的病院を修学資金受給者に周知し、また、実際の修学資金受給者がどのように義務を果たしているかの実情を知ってもらうために、平成24年度（平成25年2月開催）より、福島県地域医療を考える懇談会を開催している。医療人育成・支援センターの臨床医学教育研修部門は、この懇談会の開始当初から、協力している。具体的には、福島県の医療の状況と修学資金受給の義務と自分の将来の専門性やキャリアアップについての講演を行っている。

参加対象 福島医大4年生、5年生の修学資金受給者等

参加病院 福島医大、大原総合、わたり、福島赤十字、公立藤田、太田西ノ内、星総合、総合南東北、寿泉堂、公立岩瀬、白河厚生、竹田総合、会津医療センター、会津中央、総合磐城共立、福島労災、公立相馬、南相馬市立

内容 福島の医療の現状について 講演（福島医大 大谷晃司）

地域医療の現場を経験して 講演（修学資金受給者 H30 本田瑠璃子医師、

R元 渡邊孝一郎医師）

平成31年2月8日 参加 4年生：34名 5年生：29名、その他：1名

令和2年2月2日 参加 4年生：33名 5年生：27名



## 平成30年度ステップ・アップ・セミナー

	月日	曜日	内容等	所属	講師	開催場所
第1回	4月3日	(火)	電子カルテの活用方法	センター	2 年次研修医	オーダリング研修室
第2回	4月10日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第3回	4月17日	(火)	獣血検診医師派遣研修プログラム	血液センター	外部講師	1号館1階カンファ1
第4回	4月25日	(水)	救急外来の対応について 1号館1階カンファランス1	センター 救急科	2 年次研修医 伊関先生他	7号館2階大会議室
第5回	5月1日	(火)	知っておきたい皮膚疾患の知識	皮膚科	大塚先生	1号館1階カンファ1
第6回	5月9日	(水)	救急部門勉強会 (二次救命処置)	センター、救急科	塚田先生他	1号館1階カンファ1
第7回	5月17日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生	4号館4階会議室 ※18:15開始
第8回	5月17日	(木)	C V ポート挿入研修 (1 年目のみ)	看護部	※いずれかに参加	
	5月18日	(金)				
第9回	5月22日	(火)	よく出会う呼吸器疾患の診断と治療	呼吸器内科	佐藤 俊先生	1号館1階カンファ1
第10回	5月29日	(火)	(研修医ミーティング)			附属病院北外来棟2階カンファ2
第11回	5月30日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第12回	6月5日	(火)	小児救急について	小児科	浅野先生	1号館1階カンファ1
第13回	6月13日	(水)	救急部門勉強会 (二次救命処置+α)	センター、救急科	塚田先生他	1号館1階カンファ1
第14回	6月21日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生	4号館4階会議室
第15回	6月26日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第16回	6月27日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第17回	7月3日	(火)	感染症セミナー	感染制御部	仲村先生	1号館1階カンファ1
第18回	7月11日	(水)	救急部門勉強会 (ACS、徐脈、頻脈)	センター、救急科	塚田先生他	1号館1階カンファ1
第19回	7月19日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生	附属病院北外来棟2階カンファ2
第20回	7月24日	(火)	UP TO DATEの使い方	学術情報センター	前田先生	8号館3階情報処理演習室
第21回	7月25日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第22回	7月31日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第23回	8月21日	(火)	救急外来で役立つ産婦人科疾患 (仮)	ふくしま子ども・女性医療支援センター	鈴木先生	1号館1階カンファ1
第24回	8月28日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第25回	8月29日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第26回	9月4日	(火)	糖尿病セミナー	糖尿病・内分泌代謝内科	待井先生	1号館1階カンファ1
第27回	9月12日	(水)	救急部門勉強会 (内科急変 I -ABDの異常)	センター、救急科	塚田先生他	1号館1階カンファ1
第28回	9月20日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生	災害医学・医療産業棟 会議室2
第29回	9月25日	(火)	漢方について	漢方内科	小宮先生	1号館1階カンファ1
第30回	9月26日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第31回	10月2日	(火)	医療安全概論	医療安全管理部	大内先生	1号館1階カンファ1
第32回	10月10日	(水)	救急部門勉強会 (内科急変 II -ショック)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス (1号館1階カンファ1)
第33回	10月18日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	北外来棟2階カンファ2
第34回	10月24日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第35回	10月30日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第36回	11月6日	(火)	『こんな疾患はいらっしゃいませんか？ ～逆流性食道炎、心房細動、認知症編～』	第一三共株式会社	第一三共株式会社	北外来棟2階カンファ2
第37回	11月14日	(水)	救急部門勉強会 (外傷初期対応)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス (1号館1階カンファ1)
第38回	11月22日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	災害医学・医療産業棟 会議室2
第39回	11月27日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第40回	11月28日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第41回	12月4日	(火)	高齢者に対するせん妄と不眠症と睡眠薬	心身医療科	矢部先生	1号館1階カンファ1
第42回	12月12日	(水)	救急部門勉強会 (外傷初期対応)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス (1号館1階カンファ1)
第43回	12月21日	(金)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	災害医学・医療産業棟 会議室2
第44回	12月25日	(火)	(研修医ミーティング)			北外来棟2階カンファ2
第45回	12月26日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第46回	1月9日	(水)	救急部門勉強会 (二次救命処置)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス (1号館1階カンファ1)
第47回	1月17日	(木)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	災害医学・医療産業棟 会議室2
第48回	1月22日	(火)	シーネ巻き	センター	大谷先生	1号館1階カンファ1
第49回	1月23日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第50回	1月29日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第51回	2月5日	(火)	腎臓高血圧内科セミナー	腎臓高血圧内科	風間先生	5号館2階第7講義室
第52回	2月13日	(水)	救急部門勉強会 (二次救命処置+α)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス
第53回	3月4日	(月)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	災害医学・医療産業棟 会議室2
第54回	2月26日	(火)	研修医ミーティング・新専門医制度説明会	センター	木村先生、事務局	1号館1階カンファ1
第55回	2月27日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第56回	3月5日	(火)	心電図について	センター	坂本先生	1号館1階カンファ1
第57回	3月13日	(水)	救急部門勉強会 (競技)	センター、救急科	塚田先生他	4号館5階スキルラボ・アドバンス (1号館1階カンファ1)

令和元年度ステップ・アップ・セミナー						
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
日	月	曜日	内容等	所属	講師	開催場所
第1回	4月2日	(火)	電子カルテの活用方法(1年次・たすき2年次)	センター	2年次研修医	オーダリング研修室
第2回	4月10日	(水)	(研修医ミーティング(1年次のみ))			災害医学・医療産業棟7階会議室2
第3回	4月16日	(火)	献血検診医師派遣研修プログラム	血液センター	外部講師	1号館1階カンファ1
第4回	4月24日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第5回	5月14日	(火)	総合内科勉強会/研修医ミーティング	総合内科/センター	濱口先生他/事務局	1号館1階カンファ1
第6回	5月20日 5月21日	(火) (水)	C Vポート挿入研修(1年次・たすき2年次)	看護部	※いづれかに参加	スキルラボ・ベーシック
第7回	5月22日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第8回	5月28日	(火)	感染症へのアプローチ	感染制御医学講座	仲村先生	1号館1階カンファ1
第9回	6月4日	(火)	知っておきたい皮膚疾患の知識	皮膚科	大塚先生	1号館1階カンファ1 ※18:15開始
第10回	6月11日	(火)	UP TO DATEの使い方	学術情報センター	Wolters Kluwer	情報処理演習室
第11回	6月18日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第13回	6月19日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第12回	6月25日	(火)	真菌感染症研究会	感染制御医学講座	仲村先生	北外来棟2階カンファ2
第14回	7月2日	(火)	小児救急について	小児科	浅野先生	1号館1階カンファ1
第15回	7月9日	(火)	救急外来でのめまい対応	耳鼻科	菊地大介先生	1号館1階カンファ1
第16回	7月16日	(火)	(研修医ミーティング)			4号館4階会議室
第17回	7月24日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第18回	7月27日	(土)	サマーセミナー			杉妻会館
第19回	7月30日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	1号館1階カンファ1
第20回	8月20日	(火)	(研修医ミーティング)			北外来棟2階カンファ2
第21回	8月28日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第22回	9月3日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	災害医学・医療産業棟7階会議室2
第23回	9月10日	(火)	(研修医ミーティング)			災害医学・医療産業棟7階会議室2
第24回	9月11日	(水)	「fMRI拡散強調画像時代の脳の症候学」	脳神経内科	亀田総合病院 福武敬夫先生	4号館4階会議室
第25回	9月17日	(火)	漢方について	漢方内科	小宮先生	4号館2階第5講義室
第26回	9月19日	(木)	CPC検討会	リウマチ膠原病内科		第二臨床講義室(11号館2階)
第27回	9月25日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第28回	9月26日	(木)	CPC検討会	呼吸器内科		8号館3階 S302講義室
第29回	10月8日	(火)	「心電図の読み方～S T変化を中心に～」	センター	坂本信雄先生	1号館1階カンファ1
第30回	10月10日	(木)	CPC検討会	消化器内科		第一臨床講義室(11号館1階)
第31回	10月15日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第32回	10月23日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第33回	10月24日	(木)	CPC検討会	呼吸器内科		5号館2階第8講義室
第34回	10月29日	(火)	第6回臓器移植勉強会	移植医療部	日本医科大学救急医療学講座 横田知行先生	7号館2階大会議室(光が丘会館)
第35回	11月5日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	1号館1階カンファ1
第36回	11月12日	(火)	(研修医ミーティング)			4号館4階第1ゼミナール室
第37回	11月19日	(火)	腎臓高血圧内科セミナー	腎臓高血圧内科学講座	風間順一郎先生	4号館4階会議室
第38回	11月20日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第39回	12月3日	(火)	「インスリンの使い方」	糖尿病内分泌代謝内科学講座	待井典剛先生	1号館1階カンファ1
第40回	12月10日	(火)	脳神経内科セミナー	脳神経内科学講座	金井敦明先生	1号館1階カンファ1
第41回	12月17日	(火)	「せん妄と不眠症と睡眠薬」	心身医療科	矢部博興先生	1号館1階カンファ1
第42回	12月19日	(木)	CPC検討会	血液内科		6号館2階第4講義室
第43回	12月25日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第44回	1月7日	(火)	「頭痛の見方」	脳神経外科学講座	佐藤拓先生	1号館1階カンファ1
第45回	1月14日	(火)	(研修医ミーティング)			4号館4階第1ゼミナール室
第46回	1月16日	(木)	CPC検討会	救急科		5号館2階第8講義室
第47回	1月28日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	1号館1階カンファ1
第48回	1月29日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第49回	2月4日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第50回	2月7日	(金)	第7回臓器移植勉強会	移植医療部		7号館2階大会議室
第51回	2月13日	(木)	CPC検討会	脳神経内科		5号館2階第7講義室
第52回	2月18日	(火)	放射線科セミナー	放射線医学講座	山國遼先生	災害医学・医療産業棟7階会議室2
第53回	2月25日	(火)	リハビリテーションセミナー	リハビリテーション医学講座	大井直往先生	北外来棟2階カンファ2
第54回	2月26日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ
第55回	3月3日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口先生他	1号館1階カンファ1
第56回	3月10日	(火)	(研修医ミーティング)			1号館1階カンファ1
第57回	3月25日	(水)	救急症例検討会	救急科	伊関先生他	救急カンファ

### 3) 看護学教育研修部門

---



## ご 挨拶

看護学教育研修部門長 和田 久美子

少子高齢化の進展、医療技術の進歩、医療提供の場の多様化などにより、医療を取り巻く環境は大きく変化してきています。また、医療に対する意識は、安全および安心を重要視し、質の向上が重要視される方向に大きく変化してきています。そして、個人の価値観も多様化し、Quality of Life という認識も広く知られるようになってきました。また、少子化により、看護学生の確保への影響、看護学生の資質の確保という課題もあります。このような環境の中、看護職への期待も高くなっています。患者の生活の質の向上のために専門性の高い看護判断と看護技術の提供ができる看護職が必要とされています。

これまで看護学教育研修部門では、県内医療機関、福島県にご協力いただき、看護学部生を対象とした就職ガイダンスを実施してきました。福島県の地域医療を担う看護職の確保支援として実施しております。学生自身が将来を見据えた進路を考える良い機会となるように支援しております。今後も地域の医療に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

また、2018年度には本学附属病院との共催で専門看護師・認定看護師セミナーを実施しております。地域の病院などの看護師のニーズを把握し、当院の専門看護師・認定看護師がどのように協働できるかを考え、様々な患者の地域での生活を支える方法について参加者と一緒に話し合う機会を設けました。セミナーをとおして、本学附属病院と地域の病院との連携の重要性を再認識いたしました。

医療を取り巻く環境の変化に対応でき、地域の看護の貢献できる質の高い看護職の育成を支援して行きたいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。

2018 年度

2018 年

11 月 17 日

「慢性疾患を抱える患者への在宅と病院のシームレスなケア」  
(公立大学法人福島県立医科大学附属病院看護部 専門看護師・認定  
看護師委員会主催 (当センター共催))

2019 年

1 月 28 日

看護学部 3 年生を対象とした就職ガイダンスの開催  
参加機関：県内の主要な医療機関等民間病院等 17 機関、3 県立病  
院、相双地区 3 町村  
本学附属病院、会津医療センター附属病院  
保健師 (県庁)

2019 年度

2020 年

1 月 27 日

看護学部 3 年生を対象とした就職ガイダンスの開催  
参加機関：県内の主要な医療機関等民間病院等 17 機関、4 県立病  
院、相双地区 2 町  
本学附属病院、会津医療センター附属病院  
保健師 (県庁)

3 月 14 日

医療職者のためのアピアランスケア講習会  
(医療人育成・支援センター看護学教育研修部門主催)

新型コロナウイルス感染症対策のため延期

## 看護学部生を対象とした就職ガイダンス

看護学教育研修部門では、看護学部生を対象とした就職ガイダンスを実施しています。

2016年度は、本学附属病院・会津医療センター附属病院、県内の主要な医療機関○機関等が参加した就職ガイダンスを開催するなど、学生が自分の将来像に考える機会となる事業を実施しました。

各種就職ガイダンスは、単に就職を目的とするだけでなく、看護学部3年次の学生全員を対象に県内医療機関の現状を知るための機会と位置付けており、医療機関職員から直接話を伺う機会としています。

2018年度

月日	内容	出席者等
1月28日	就職ガイダンス ・ 県内の主要な医療機関等 民間病院等17機関、ほか 3県立病院、相双地区3町 村 ・ 本学附属病院、会津医療セ ンター附属病院 ・ 保健師（県庁）	本学看護学部 3年次生



2019 年度

月日	内容	出席者等
1 月 27 日	就職ガイダンス ・ 県内の主要な医療機関等 民間病院等 17 機関、ほか 4 県立病院、相双地区 2 町 ・ 本学附属病院、会津医療セ ンター附属病院 ・ 保健師（県庁）	本学看護学部 3 年次生



## 看護職を対象とした教育研修

2018 年度

### 専門看護師・認定看護師会セミナー

テーマ「慢性疾患を抱える患者への在宅と病院のシームレスなケア」

高齢心不全患者に対して他職種を巻き込み、訪問看護師と心不全認定看護師が協働して在宅での生活を支えている事例を通し、具体的な連携の方法や今後の課題について検討しました。また、後半の交流会では、地域の病院などの看護師のニーズを把握し、当院の専門看護師・認定看護師がどのように協働できるかを考え、様々な患者の地域での生活を支える方法について参加者と一緒に話し合う機会を設けました。

セミナーの内容

#### 第1部 パネルディスカッション

- ①福島県立医科大学循環器内科 医師 佐藤崇匡
  - ・慢性心不全患者の治療の考え方と、症例の紹介
- ②福島県立医科大学附属病院看護部 慢性心不全看護認定看護師 東雲紀子
  - ・外来から訪問看護につないだ経緯の報告と患者がその人らしく生きていくための病棟看護師の役割
- ③けいあい訪問看護ステーション 看護師 角田友美
  - ・訪問看護の実際とか今後の課題

#### 第2部 交流会

認定看護師と専門看護師は8つのグループ（救急・感染・慢性・小児・精神・嚥下・がん・皮膚）に分かれ、参加者と交流を持った。また、帝人在宅医療株式会社とフクダライフテックの2社から、企業展示の協力をいただいた。

2019 年度

企画しましたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため延期としました。

## 医療職者のためのアピアランスケア講習会

アピアランスケアとは、疾患や治療に伴い生じた外見の問題に対し、医学的・技術的・心理社会的に支援する方法である。2017年のがん対策基本推進計画の中のがん患者の就労支援や社会的問題の取り組みの必要性が明記されています。しかし、現時点でアピアランスケアに関する知識や情報習得の機会は限られており、医療者の認識も高い状況にあります。

そこで今回、福島県立医科大学医療人育成支援センター看護学教育研修部門において、医療職者のためのアピアランスケア講習会を開催することとしました。内容については、疾患や治療による外見の変化に対するケアに関心のある医療職者を対象に、アピアランスケアの基本を学習し、具体的な方法を体験しながら習得できる講習会としました。

### セミナーの内容

#### 第1部 アピアランスケアについてミニレクチャー

- \* 三浦 浅子 氏（本学看護学部・がん看護専門看護師）

#### 第2部 体験型講習

- \* 箭内 明美 氏（株式会社アデランス医療事業推進部）  
スキンケアの実際 脱毛後の眉の書き方など

#### 第3部 振り返り

アピアランスケアとは、疾患や治療に伴い生じた外見の問題に対し、ケア対象者の「よりよい生活」を支えることです。この度、福島県立医科大学医療人育成支援センター看護学教育研修部門ではアピアランスケアの基本とその方法について講習会を開催します。

## 医療職者のための アピアランスケア講習会

患者さんへのケアで  
困っていることはありませんか？

- ・ 脱毛した時の眉の描き方
- ・ 変色・もろくなった爪の手入れ
- ・ 乾燥した肌の保湿の仕方



講師 三浦 浅子 氏（がん看護専門看護師）  
箭内 明美 氏（株式会社アデランス医療事業推進部）

日時 2020年 3月14日(土)  
13:30~16:00 (13:00より受付)

場所 福島県立医科大学看護学部(8号館)  
6階 601講義室

対象 アピアランスケアに関心のある医療職の方  
職種は問いません・学生も参加できます

参加費は無料です 事前申し込みをお願いします

\* 普段ご使用しているメイク道具をお持ちくださっても結構です。

#### <申し込み>

\* 下記または右の申し込みフォームから登録してください。

#### <問い合わせ>

福島県立医科大学看護学部看護学科 医療支援看護学部門  
担当：菅野久美 電話&Fax 024-547-1861  
Email kankumi@fmu.ac.jp



#### 4) 災害医療総合学習センター

---



## 災害医療総合学習センター

福島県立医科大学・医療人育成支援センター内に災害医療総合学習センターが設置されて早8年以上の月日が過ぎました。2018年度2019年度の当センターの歩みを振り返り、今後の災害に対応する総合学習の在り方はどうあるべきかを考える、よいきっかけとなれば幸いです。

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を受けて、福島県内の医療体制も危機的な状況となりました。そこからの地域医療再生に取り組むとともに、今後も発生が懸念される大災害を想定した災害医療・放射線被ばく医療に従事できる医療者の養成が急務となりました。そこで福島県立医科大学では、災害医療総合学習センターを設立し、2012年1月に文部科学省3次補正の国庫補助事業に採択され、同年から10年プロジェクトとして活動を開始いたしました。本センターは、災害の最前線で、災害医療・放射線被ばく医療の実践に対応されているエキスパートの方々や、災害医療に従事することを目指している医療関係者や学生の方々に、被災地ならではの総合的な学習を提供することを主な任務としてスタートいたしました。

その後2016年度から原子力規制委員会により原子力災害時の医療体制整備が進められ、中核人材育成研修などの全国的な統一された研修制度が準備され、本学でも高度被ばく医療支援センターを中心にそれら標準の研修にも取り組んでいます。文部科学省の予算が終了後は、財政的には厳しい状況が続いていますが、本センターではより特色を生かすように、2017年度からは長崎大学・広島大学と協力し、放射線健康リスク科学人材育成プログラムを放射線健康管理学講座とともに推進してまいりました。福島ならではの教育の確立と普及をめざし、学生だけでなく大学院生や医療関係者向けのセミナーまで幅広く開催してまいりました。幸いにセミナーの評価が高く、多くの方に参加申し込んでいただいています。定員の関係で全員に受講していただかず、たいへん申し訳なく思っています。またチェルノブイリ原発事故の被災地のベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学と本学との交流協定により、両大学の先生方の講演を大学院セミナーや災害医療セミナーの中で開催しました。さらに本学の医学部4学生をベラルーシへ留学することも支援してきました。

これまでのセンターの取り組みが震災復興の一助となり、研修やセミナーを受講された皆様が、原子力災害医療の急性期または復興期の担い手となりますことを、スタッフ一同、願っております。本センターの活動は今年が最後となる予定ですが、9年間を支えてくれた医療人育成支援センター事務局のスタッフと、熊谷敦史講師（現在、量研放医研）はじめ先生方、そして研修生を受け入れていただいた地域の皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。

2020年2月

災害医療総合学習センター長  
大津留 晶

2018年

- 6月8日 第30回福島災害医療セミナー 被ばく医療基礎コース（～10日）
- 6月21日 マウントサイナイ アイカーン医科大学受入（～24日）
- 7月20日 第31回福島災害医療セミナー 被ばく医療基礎コース（～22日）
- 8月6日 放射線災害医療サマーセミナー2018（～11日）
- 8月20日 平成30年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季長期コース（～22日）
- 9月21日 第32回福島災害医療セミナー 被ばく医療応用コース（～22日）
- 10月20日 第5回福島災害医療セミナー 県内従事者コース

2019年

- 2月5日 大学院セミナー
- 2月6日 第33回福島災害医療セミナー 上級コース（～8日）
  - 【第1部】 講義
  - 【第2部】 東京電力福島第一原子力発電所見学
- 2月16日 福島災害医療セミナー in 弘前（～17日）

2019年度

2019年

- 7月12日 第34回福島災害医療セミナー 被ばく医療基礎コース（～14日）  
8月5日 笹川財団サマーセミナー2019（～9日）※共催  
8月19日 令和元年度学生のための福島災害医療セミナー（22日）  
8月31日 福島災害医療セミナー in 弘前（～9月1日）  
9月6日 第35回福島災害医療セミナー 被ばく医療基礎コース（～8日）  
11月2日 第6回福島災害医療セミナー 県内従事者コース

2020年

- 2月4日 大学院セミナー  
2月5日 第36回福島災害医療セミナー 上級コース（～7日）  
【第1部】 講義  
【第2部】 東京電力福島第一原子力発電所見学

## 災害医療総合学習センター事業概要

災害医療総合学習センターは、震災及び原子力災害により被害を受けた福島県内医療体制の再生や放射線の影響等に係る教育、研修体制の充実、人材確保を目的に、文部科学省の2011年度「復興教育支援事業」大学等における地域復興のためのセンター的機能の整備（2011年度第3次補正予算）の採択を受け、福島県立医科大学医療人育成・支援センター内に10年プロジェクトとして設置され、2012年4月1日付で医師1名、看護師1名、事務職員3名の職員を配置し、2012年5月17日より本格的に活動開始した。医学部の各講座との協力のもと、特に放射線健康管理学講座のバックアップで、学生教育、医療者教育、地域支援の分野を軸として以下に述べる教育事業を展開してきた。教員スタッフは、放射線健康管理学講座からは大津留教授、緑川准教授、熊谷講師、大葉助教、安井助手、2018年度は医療人育成支援センターから千葉助手、事務スタッフは医療人育成支援センターの武藤主事、2018年度は佐藤、圓谷、2019年度は高井、渡辺が担当した。尚、大学の方針によりスタッフの大部分の異動となったこともあり、今後については未定である。

### 【学生教育】

- (1) 医学部学生教育（5年生対象、臨床実習4日間プログラムへの協力）
- (2) 医学部学生教育（3年生対象、講義への協力）
- (3) 他大学（国内外）からの学生を対象とする教育セミナー
- (4) e-ラーニング開発と供用（医学生、看護学生、附属病院看護師、各種セミナー参加者）
- (5) ベラルーシ共和国内の医科大学との協定に基づく教育（講師招聘、学生派遣協力）

福島県立医科大学の医学生（5年次）対象の災害医療関連教育プログラムを、臨床実習BSLとして2012年度より行っている。現在、放射線健康管理学講座と放射線災害医療学講座が担当している下記のようなBSL実習の一部を担当している。

BSL 1日目	BSL 2日目	BSL 3日目	BSL 4日目
<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> オリエンテーション</li> <li><input type="checkbox"/> 東日本大震災の概要のブロードマップ作成</li> <li><input type="checkbox"/> 放射線と健康</li> <li><input type="checkbox"/> 放射線測定実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 甲状腺疾患とスクリーニング</li> <li><input type="checkbox"/> WBC実習</li> <li><input type="checkbox"/> 健康相談実習</li> <li><input type="checkbox"/> 症例検討 まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文抄読</li> <li><input type="checkbox"/> ・発がん環境因子</li> <li>・県民健康調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 外傷患者初期診療に放射性物質汚染が加わった診療実習</li> <li><input type="checkbox"/> 放射線災害机上演習</li> <li><input type="checkbox"/> 急性放射線症候群</li> </ul>

「原子力災害医療、放射線と健康BSL」：放射線に関する基礎的知識・議論・技能体験・リスクコミュニケーション学の3日間と、「救急医学としての放射線災害医療BSL」：汚染傷病者救急対応の1日で、計4日の日程である。「救急医学としての放射線災害医療BSL」は救急医学講座のご協力により救急医学の臨床実習の枠の中に入れていただき実施している。具体的な内容は下記に示す。尚、独自に作成した放射線災害医療e-ラーニングのコンテンツを、事前学習としての教材に活用している。

### (1) 放射線と健康、及び測定実習 (BSL 1日目)

①オリエンテーション ②グループワークで震災後の経過とともに現在も直面している健康リスクについてのプロブレムマッピング演習。 ③実際に線量をはかり、個人の放射線リスクについて考える。 ④震災後のメンタルヘルスについて解説。



### (2) 放射線と健康に関する臨床医学と相談実習 (BSL 2日目)

①甲状腺がんスクリーニングと原子力災害後に行う調査としての甲状腺がんスクリーニングの課題のディスカッション、および被災者の意思決定支援に関するワークショップ。 ②ホールボディカウンタのメカニズムと内部被ばくの測定実習 ③シナリオを用いて住民に対する模擬健康リスクコミュニケーションの実習 ④放射線も含む様々な発がんに関連する環境因子や生活習慣因子についての論文抄読。



### (3) 放射線と健康に関する論文とまとめ (BSL 3日目)

①県民健康調査の結果の論文を抄読し、原子力災害後の健康に関するまとめのディスカッションを行う。②災害後によくみられる症状を主訴とした患者の症例検討。



### (4) 緊急被ばく医療 (BSL 4日目)

①午前中は外傷救急診療および緊急被ばく医療についてシミュレーションを実施。②被ばく線量評価の計算方法について。③避難所設営の机上演習。④高線量被ばくによる急性期の症状について解説。



それ以外の医学部教育については、チェルノブイリ原発事故後被災地のベラルーシ共和国の二大学（ベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学）と、2013年9月に教育に関する大学間の協力協定を締結に基づき、この2大学に2015年度から医学部4年生を基礎上級のカリキュラムの一環として毎年1~2名派遣した。派遣学生の事前学習・現地研修プログラムに関する指導と、現地大学との調整を長崎大学のベラルーシ事務所のスタッフに協力をえつつ行いつつ行ってきた。また帰国後の研究発表指導も行った。学生受け入れのベラルーシの2大学の教員の受け入れも行ってきた。

(ベラルーシからの招聘者)

2018年度： ミハイル・ゴリツェフ (ベラルーシ医科大学)  
アナスタシヤ・サチコフスカヤ (ゴメリ医科大学)

2019年度： ラリーサ・シェフチューク (ベラルーシ医科大学)  
エフゲニー・バラパーエフ (ゴメリ医科大学)

(ベラルーシ派遣学生)

2018年度： 及川孔、中島理沙子 (医学科4年)

2019年度： 石綿敬、永尾龍太 (医学科4年)

マウント・サイナイ医科大学から毎年2名の学生を当学に受け入れる時期に合わせて、マウント・サイナイ医科大学からの要請に基づき Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima を開催した。

笹川保健財団、長崎大学との共催で行っている放射線災害医療学生サマーセミナーへの協力を行った。笹川保健財団の喜多理事長のバックアップの元、2018年は8月6日～8月10日に、2019年は8月5日～8月9日の夏休み期間に全国の医療系学生に呼び掛けて、それぞれ5日間のセミナーを行った。プログラムには福島の実地研修や第2原発の見学などのフィールドワークが盛り込まれている。詳細については笹川保健財団のホームページを参照 ([https://www.shf.or.jp/other\\_activities/summerseminor](https://www.shf.or.jp/other_activities/summerseminor))。

### 【医療・保健従事者への教育】

医師・看護師等の医療・保健従事者を対象とする災害医療セミナー

医師・看護師・放射線技師等の医療者に対し、2012年の当センター設置以降開講してきた「福島災害医療セミナー」を目的別・段階別に「被ばく医療コース」、「上級コース」、「県内医療従事者コース」の3コースとして災害・被ばく医療そして原発事故後の福島の現実を段階的に学べるように実施してきた。2018年度2019年度合わせて8回のセミナーを開催し、2012年度から下記の表にあるような計42回のセミナーを主催した。

### セミナー実施状況

(1) 被ばく医療初級コース 計29回

第1～3回	「医療人育成・支援センター年報2010-2013年度」版参照		
第4～7回 第9～11回 第13～15回	「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照		
第17回 (基礎)	2016年7/22(金)～23(土)	第26回 (基礎)	2017年7/14(金)～15(土)
第18回 (基礎)	2016年9/2(金)～3(土)	第27回 (応用)	2017年8/4(金)～5(土)

第19回 (応用)	2016年9/30(金)～10/1 (土)	第28回 (応用)	2017年10/27(金) ～28(土)
第20回 (基礎)	2016年10/7(金)～8(土)	第30回 (基礎)	2018年6/8(金)～ 10日(日)
第21回 (基礎)	2016年11/11(金)～12(土)	第31回 (基礎)	2018年7/20(金)～ 22日(日)
第22回 (応用)	2016年11/20(日)～21(月)	第32回 (応用)	2018年9/21(金)～22 日(日)
第23回 (応用)	2016年12/11(日)～12(月)	第34回	2019年7/12(金)～14 日(日)
第25回 (基礎)	2017年6/9(金)～10(土)	第35回	2019年9/6(金)～8 日(日)

(2) 上級コース(※「被ばく医療コース」受講修了者対象) 計7回

第8回 第12回 第16回	「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照		
第24回	2017年1/23(月)～25 (水)	第29回	2018年2/1(木)～2/2 (金)
第33回	2019年2/6(水)～8(金)	第36回	2020年2/5(水)～2/7 (金)

(3) 県内医療従事者コース 計6回

第1～3回	「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照		
第4回	2017年9/16(土)	第5回	2018年10/20(土)
第6回	2019年11/2(土)		

## 2. 受講者数および講師、協力者数

(1) 被ばく医療コース

	受講者数					講師、協力者数(延)		
	医師	看護職	診療放射線技	その他※	合計	学内	学外	合計
第1～3回	13	8	6	3	30	14	21	35
第4～7回	17	14	11	4	46	36	22	58
第9～11回	20	20	15	5	60	30	7	37
第13～15回	14	27	20	10	71	26	6	32
第17回	7	14	7	5	33	8	1	9

第18回	5	11	7	5	28	7	1	8
第19回	2	6	3	2	13	4	1	5
第20回	4	14	3	3	24	7	1	8
第21回	5	7	5	2	19	7	1	8
第22回	1	5	2	4	12	4	1	5
第23回	3	6	3	3	15	4	1	5
第25回	7	12	10	4	33	10	1	11
第26回	6	16	7	7	36	8	1	9
第27回	5	1	1	4	11	7	0	7
第28回	8	7	4	0	19	5	0	5
第30回	10	6	13	6	35	8	1	9
第31回	6	13	10	3	32	8	4	12
第32回	5	8	3	5	21	5	0	5
第34回	9	10	13	7	39	11	2	13
第35回	4	13	13	9	39	11	2	13
合計	151	218	156	91	616	227	76	303

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(2) 上級コース

	受講者数					講師、協力者数 (延べ)		
	医師※1	看護職	診療放射線技師	その他※2	合計	学内	学外	合計
第8. 12. 16回	23	23	17	3	66	20	27	47
第24回	6	11	8	5	30	8	6	14
第29回	9	11	8	9	37	5	5	10
第33回	8	11	6	10	35	8	8	16
第36回	10	11	14	4	39	5	9	14
合計	56	67	53	31	207	92	55	147

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

### (3) 県内医療従事者コース

	受講者数					講師
	医師	看護職	診療放射線技師	その他※3	合計	学内
第1～3回	9	22	3	16	50	15
第4回	2	8	0	8	19	4
第5回	5	4	1	13	23	8
第6回	1	2	2	3	8	5
合計	17	36	6	40	99	32

※3 臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、鍼灸師、救急救命士、消防士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、事務職

上級コースではベラルーシの協定校から各1名の教官を招聘し、特別講演と討論を行っていた。ととも、当学関係者対象の大学院セミナーでも情報提供と討論を実施し、世界の原発事故の実相に触れる機会を提供している。

また、それらのセミナーとは別に、弘前大学、青森県診療放射線技師会との共催として、「福島災害医療セミナーin弘前」を、鹿児島大学との共催で「福島災害医療セミナーin鹿児島」を、それぞれ年1回、2018年度19年度で合計4回開講した。

いつもほとんどの受講者から、それぞれの講義と全体の感想と意見をいただいている。主催者としては、過分の高い評価をいただき、受講者の皆様と講師を引き受けていただいた先生方や住民の方々に感謝申し上げます。また建設的なご意見をいただくこともよくあり、次回のセミナーへの改善に繋げてきた。ほんのごく一部だが、この2年間でいただいた感想の中から抜粋して紹介する（抜粋のため記載のままではない）。

#### 第30回セミナーから

自分はDMATでもありますが、災害医療は早期だけでなくむしろそのあとの方が多くの課題に直面しているのがよく分かりました。(医師)

講義はもちろんワークショップがとても心に残りました。他の人の意見を聞いたのはとても刺激となりました。(放射線技師)

2日間の講義は一つ一つが丁寧に作られていて、私が知りたかったことがたくさん詰め込まれ

ていました。福島で生活してきて、震災以降いろいろなことを見たり聞いたりしましたが、今回のセミナーでそれらが一つの線で繋がったと感じました。(その他)

#### 第 31 回セミナーから

福島で生活していましたが、放射線の問題や原発事故・災害について学ぶのは初めてでした。当時のなんともいえない恐怖を自分の中に押し込めて何でもないふりをして過ごしていた日々を思い出しました。(看護師)

#### 第 33 回セミナーから

最初セミナーに来た時は、様々な疑問に正解が欲しくて聞く気持ちが強かったのですが、正解がない問題が講師の先生にもあり、それらを考えてゆくことの重要性を強く感じました。(医師)  
楽しみにしていた原発の視察はとても貴重な体験となりました。またチェルノブイリの話や甲状腺がんスクリーニングの話はとても考えさせる問題でした。(放射線技師)

#### 第 34 回セミナーから

私の父は福島県の出身で、子供の頃は夏休みに父の実家に何日も泊まりに行きました。川で素潜りをしたり、竹で水鉄砲を作ったり、その時見ていた風景を被災地視察で思い出しました。

(放射線技師)

とても充実した素晴らしいプログラムで、全国の多くの方に参加してもらいたいです。本研修への要望として、日本社会（特に東北）のジェンダーの問題と放射能の問題に触れてほしいと思いました。(その他)

#### 第 35 回セミナーから

原発事故から 8 年以上が経過し、最近では「放射線」に関する説明や意見交換の場が、災害拠点病院でもあまりなくなっていました。地域に何が必要とされているのかの連携した活動が重要と考えます。その意味でも被災地見学をはじめ貴重な経験をさせていただきました。(看護師)

#### 第 36 回セミナーから

「不安」に対するこころの動きを知ったうえで、看護職として意図的にかかわることが「放射線災害と看護」に繋がるのではないかと考えています。これからも考えてゆきたいです。(看護師)

甲状腺がんスクリーニングは親の気持ちと、過剰診断の害を説明して減らさなければいけない医療の立場の間に立ち、本当に難しいと思いました。(放射線技師)

### 【地域支援】

- (1) 地域住民への放射線と健康に関する講話（地域保健師等との連携事業）
- (2) 地域保健師等の放射線と健康に関する支援事業
- (3) よろず健康相談（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域を域内に含んだことのある 13 市町村の住民対象）
- (4) 産業医支援（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合：双葉消防を含む）。

## 5. 研究業績

---



〔原 著〕

Sato Y, Komuro Y, Lin L, Tang Z, Hu L, Kadowaki S, Ugawa Y, Yamada Y, Sakatani K. Differences in tissue oxygenation, perfusion and optical properties in brain areas affected by stroke: A time-resolved NIRS study. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 2018; 1072:63-67.

Otani K, Kikuchi SI, Nikaido T, Konno SI. Magnitude of dural tube compression does not show a predictive value for symptomatic lumbar spinal stenosis for 1-year follow-up: a prospective cohort study in the community. *Clinical Interventions in Aging*. 2018; 13:1739-1746.

Misaka S, Abe O, Sato H, Ono T, Shikama Y, Onoue S, Yabe H, Kimura J. Lack of pharmacokinetic interaction between fluvastatin and green tea in healthy volunteers. *European Journal of Clinical Pharmacology*. 2018; 74(5):601-609.

Abe O, Ono T, Sato H, Müller F, Ogata H, Miura I, Shikama Y, Yabe H, Onoue S, Fromm MF, Kimura J, Misaka S. Role of (-)-epigallocatechin gallate in the pharmacokinetic interaction between nadolol and green tea in healthy volunteers. *European Journal of Clinical Pharmacology*. 2018; 74(6):775-783.

Otani K, Iwabuchi M, Sato K, Konno S, Kikuchi S. Postoperative neck symptoms of posterior approach for cervical compressive myelopathy: Expansive open-door laminoplasty vs. segmental partial laminectomy. *Fukushima Journal of Medical Science*. 2018; 64(2):54-59.

Otoshi K, Kikuchi S, Sasaki N, Sekiguchi M, Otani K, Kamitani T, Fukuma S, Fukuhara S, Konno S. The Associated Risk Factors for Entrapment Neuropathy in the Upper Extremity: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study(LOHAS). *Health*. 2018; 10(6):823-837.

Abe M, Ohto H, Minakawa K, Kawabata K, Ono S, Takano N, Suzuki H, Watanabe M, Sugawara A, Kikuchi M, Miura S, Takeuchi-Baba C, Yasuda H, Nolle KE, Tamai Y, Kitazawa J, Ikeda K. Transfusion-related alloimmunization to red cell antigens among pediatric recipients. *International Journal of Blood Transfusion and Immunohematology*. 2018; 8:100040Z02MA2018.

Takano N, Yasuda H, Kikuchi M, Kawabata K, Takeuchi-Baba C, Ono S, Ono T, Minakawa K, Sugawara A, Miura S, Watanabe K, Abe M, Suzuki H, Watanabe M, Sasaki M, Ikeda K, Nolle KE, Ohto H. Shortened antibody screening interval has decreased the incidence of delayed hemolytic transfusion reactions. *International Journal of Blood Transfusion and Immunohematology*. 2018; 8:100042Z02NT2018.

Kameda T, Otani K, Tamura T, Konno S. Beauty parlor stroke syndrome due to a bone fragment from an osteophyte of the atlas: case report. *Journal of Neurosurgery. Spine*. 2018; 28(4):389-394.

Otani K, Kikuchi SI, Yabuki S, Onda A, Nikaido T, Watanabe K, Konno SI. Prospective one-year follow-up of lumbar spinal stenosis in a regional community. *Journal of Pain Research*. 2018; 11:455-464.

Kamitani T, Yamamoto Y, Fukuma S, Ikenoe T, Kimachi M, Shimizu S, Yamamoto S, Otani K, Sekiguchi M, Onishi Y, Takegami M, Ono R, Yamazaki S, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Association Between the Discrepancy in Self-Reported and Performance-Based Physical Functioning Levels and Risk of Future Falls Among Community-Dwelling Older Adults: The Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS). *Journal of the American Medical Directors Association*. 2018; 20(2):195-200.

Takada S, Yamamoto Y, Shimizu S, Kimachi M, Ikenoue T, Fukuma S, Onishi Y, Takegami M, Yamazaki S, Ono R, Sekiguchi M, Otani K, Kikuchi SI, Konno SI, Fukuhara S. Association Between Subjective Sleep Quality and Future Risk of Falls in Older People: Results From LOHAS. *Journals of Gerontology. Series A, Biological Sciences and Medical Sciences*. 2018; 73(9):1205-1211.

Niihata K, Fukuma S, Hiratsuka Y, Ono K, Yamada M, Sekiguchi M, Otani K, Kikuchi S, Konno S, Fukuhara S. Association between vision-specific quality of life and falls in community-dwelling older adults: LOHAS. *PLOS ONE*. 2018; 13(4):e0195806.

Horiuchi S, Tsuda A, Aoki S, Yoneda K, Sawaguchi Y. Coping as a mediator of the relationship between stress mindset and psychological stress response: a pilot study. *Psychology Research and Behavior Management*. 2018; 11:47-54.

Horiuchi S, Tsuda A, Yoneda K, Aoki S. Mediating effects of perceived stress on the relationship of positivity with negative and positive affect. *Psychology Research and Behavior Management*. 2018; 11:299-303.

Murakami M., Kumagai A., Ohtsuru A. Building risk communication capabilities among professionals: Seven essential characteristics of risk communication. *Radiat Protect Dosimetry* 2018; 182(1): 120-127.

Akaihat Mitsuko, Shikama Yayoi, Matsumoto Yoshiyuki, Ono Tomoyuki, Kimura Junko, Hosoya Mitsuki.. Glucocorticoids attenuate the sensitivity of glucocorticoid-resistant lymphoid cells to doxorubicin via reduction in OCTN2. *Journal of Cellular Biochemistry*. 2019; 459(1-2): 49-59.

Kobayashi H, Sekiguchi M, Yonemoto K, Kakuma T, Tominaga R, Kato K, Watanabe K, Nikaido T, Otani K, Yabuki S, Kikuchi SI, Konno SI, DISTO project working group.. Reference values of the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire in patients with lumbar spinal stenosis and characteristics of deterioration of QOL: Lumbar Spinal Stenosis Diagnosis Support Tool: DISTO project. *Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association*. 2019; 24(4): 584-589.

Kato T, Inose H, Ichimura S, Tokuhashi Y, Nakamura H, Hoshino M, Togawa D, Hirano T, Haro H, Ohba T, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Tateishi U, Tomita M, Takemasa R, Yuasa M, Hirai T, Yoshii T, Okawa A. Comparison of Rigid and Soft-Brace Treatments for Acute Osteoporotic Vertebral Compression Fracture: A Prospective, Randomized, Multicenter Study.. *Journal of clinical medicine*. 2019; 8(2): 198.

Kamitani T, Yamamoto Y, Fukuma S, Ikenoue T, Kimachi M, Shimizu S, Yamamoto S, Otani K, Sekiguchi M, Onishi Y, Takegami M, Ono R, Yamazaki S, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Association Between the Discrepancy in Self-Reported and Performance-Based Physical Functioning Levels and Risk of Future Falls Among Community-Dwelling Older Adults: The Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS).. *J Am Med Dir Assoc*. 2019; 20(2): 159-200.

Hakozaki M, Sekine T, Otani K, Konno S. Acute pseudogout lumbar discitis resembling acute pyelonephritis in an elderly woman.. *Intern Med J*. 2019; 49(8): 1048-1050.

Kimachi K, Kimachi M, Takegami M, Ono R, Yamazaki S, Goto Y, Onishi Y, Sekiguchi M, Otani K, Konno SI, Kikuchi SI, Fukuhara S, Yamamoto Y. Level of Low Back Pain-Related Disability Is Associated with Risk of Subsequent Falls in an Older Population: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS). *Pain Med*. 2019; 20(12): 2377-2384.

Murata S, Ono R, Omata J, Endo T, Otani K. Coexistence of Chronic Musculoskeletal Pain and Depressive Symptoms and Their Combined and Individual Effects on Onset of Disability in Older Adults: A Cohort Study.. *J Am Med Dir Assoc*. 2019; 20(10): 1263-1267.

Kamitani T, Yamamoto Y, Kurita N, Yamazaki S, Fukuma S, Otani K, Sekiguchi M, Onishi Y, Takegami M, Ono R, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Longitudinal Association Between Subjective Fatigue and Future Falls in Community-Dwelling Older Adults: The Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS). *J Aging Health*. 2019; 31(1): 67-84.

Tang Z., Chen Y., Liu S.H., Kobayashi T., Chen W. Continuous Cuffless Blood Pressure Estimation Based on Pulse Transit Time: A New Evaluation with Invasive BP Reference. 2019 IEEE 10th International Conference on Awareness Science and Technology, iCAST 2019 - Proceedings. 2019; 1-5.

Aoki S, Doi S, Horiuchi S, Takagaki K, Kawamura A, Umeno R, Fujita M, Kitagawa N, & Sakano Y. Mediating effect of environmental rewards on the relation between goal-directed behaviour and anhedonia. *Current Psychology*. 2019; <https://doi.org/10.1007/s12144>.

Murakami M, Kumagai A, Stojarov AN, Tsubokura M. Radiation is not a political tool. *Science* 2019; 366(6465): 581-582.

Midorikawa S., Murakami M., Ohtsuru A. Harm of overdiagnosis or extremely early diagnosis behind trends in pediatric thyroid cancer. *Cancer* 2019; 125(22): 4108-4109.

Midorikawa S, Ohtsuru A. Disaster-zone research: make participation voluntary. *Nature* 2020; 579(7798): 193.

二瓶正登, 荒井穂菜美, 前田 香, 青木俊太郎, 土屋垣内晶, 岩野 卓, 富岡奈津代, 岡村尚昌, 三原健吾, 城月健太郎, 堀内 聡, 坂野雄二. Fear of Negative Evaluation Scale 日本語短縮版の因子構造, 信頼性および 妥当性の再検討. *不安症研究*. 2018; 10(1):54-63.

色摩(亀岡)弥生, 安井清孝, 刑部有祐, 土屋垣内晶, 中島 大, 安田 恵, 諸井陽子, 坂本信雄, 大谷晃司. 福島県立医科大学の臨床実習改革元年(2016年)の現状報告 ~教員と学生のアンケートによる臨床実習の課題抽出~. *福島医学雑誌*. 2018; 68(1):31-45.

色摩(亀岡)弥生, 安井清孝, 坂本信雄, 土屋垣内晶, 諸井陽子, 刑部有祐, 中島 大, 安田 恵, 千葉靖子, 大谷晃司. 福島県立医科大学の卒業要件 OSCE の実施報告 ~福島医大スタイル確立までの2016年度・2017年度 advanced OSCE~. *福島医学雑誌*. 2018; 68(2):113-120.

坂本信雄, 小林 淳, 杉本浩一, 色摩(亀岡)弥生, 竹石恭知, 大谷晃司. 福島県立医科大学医学部における臨床実習の課題克服に向けての一提案 医学部5・6年生が指導した1年生の臨床検査実習についての検討. *福島医学雑誌*. 2018; 68(1):47-55.

青木俊太郎, 岩野 卓, 高垣耕企, 高野裕太, 坂野雄二. メタアナリシスを用いた行動活性化法における行動的要因の改善効果の検証. *臨床心理学*. 2018; 18(1):102-110.

荒井穂菜美, 青木俊太郎, 石川信一, 坂野雄二. 大学生のスピーチ不安に伴う不安のコントロール感の継時的変化の検討. *臨床心理学*. 2018; 18(5):613-618.

菅原 亜紀子, 諸井 陽子, 小林 元, 大谷 晃司, 石川 和信. 医学生の医学用語に対する認知と理解の習熟過程. *医学教育*. 2019; 50(6): 563-567.

松田尚樹, 浦田芳重, 北川昌伸, 青木昌彦, 大津留 晶, 他. 放射線健康リスク科学教育の現状と課題~全国実態調査の結果より~ *医学教育*. 2019; 50(6): 581-589.

大津留 晶, 緑川早苗, 熊谷敦史, 安井清孝, 大葉 隆, 他. 放射線健康リスク科学教育の医学教育における潮流と本学での取り組み 福島医学雑誌. 2019; 69(1): 85-91.

成瀬麻夕, 堀内聡, 青木俊太郎, 井上猛, 坂野雄二. 双極性障害患者の Perceived Criticism が 6 か月後の抑うつ症状および躁症状に与える影響. 精神医学. 2019; 61(4), 1277-1286.

入江智也, 河村麻果, 青木俊太郎, 横光健吾, 坂野雄二. 大学生の精神的健康に及ぼす集団アクセプタンス&コミットメント・セラピー (G-ACT) の効果 -非無作為化パイロット試験-. 認知行動療法研究. 2019; 45(1): 1-12.

青木俊太郎, 高垣耕企, 河村麻果, 北川信樹, 福原祐佳子, 藤田雅彦, 佐々木竜二, 坂野雄二. 行動活性化による抑うつ気分及び興味・喜びの喪失と行動的要因の改善の関連性の検討. 認知療法研究. 2019; 12(1): 36-45.

青木俊太郎, 岩野卓, 高垣耕企, 高野裕太, 坂野雄二. うつ病に対する行動活性化の作用機序に関する研究動向. 行動科学. 2019; 57(2): 1-8.

色摩(亀岡) 弥生, 刑部有祐, 大谷晃司. 医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための特別授業の報告: 飲酒と性暴力. 福島医学雑誌. 2019;69(1):19-30.

#### 〔総説等〕

大谷晃司. 【骨・関節疾患の診療の最前線 (I)】 歩くときの痛みと腰部脊柱管狭窄症の治療. 医学と薬学. 2018; 75(8):925-933.

大谷晃司. 【脊椎脊髄手術の安全性を高める予防と対策】 (第2章) 術前 手術患者に対する術前心理的評価法. 脊椎脊髄ジャーナル. 2018; 31(4):295-302.

大谷 晃司. 新専門医制度についてー総論ー. 福島県立医科大学医学部同窓会報. 2019; (48):43-48.

大谷 晃司. 福島県全体の臨床医学教育力アップに向けた取り組み. 福島医学雑誌. 2019; 69(1): 43-49.

色摩(亀岡) 弥生. 医学部高学年における TBL (Team-based Learning) の導入と アクティブラーニングについて. 福島医学雑誌. 2019; 69(1): 59-66.

#### 〔その他〕

亀岡(色摩) 弥生. シームレスな地域連携型医学教育について. 光が丘. 2018; (47):71-72.

色摩(亀岡) 弥生, 刑部有祐, 大谷晃司. 医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための特別授業の報告: 飲酒と性暴力. 福島医学雑誌. 201904; 69(1): 19-30.

#### 研究発表等

##### 〔特別講演〕

大谷晃司. 運動器疼痛治療の考え方-腰痛を中心に-. 第9回かがわ痛みと運動障害研究会; 201802; 高松.

坂本信雄. 循環器疾患の病態生理及び心電図. 福島県消防学校 特別講話. 201802; 福島.

大谷晃司. 骨粗鬆症治療に対する私見. 旭化成社内勉強会; 201809; 福島.

大谷晃司. 骨粗鬆症治療に対する私見. アステラス社内勉強会; 201810; 福島.

大谷晃司. 運動器疼痛治療の考え方-腰痛を中心に-. 疼痛治療を考える会 in 竹原; 201811; 竹原.

大谷 晃司. 高齢者運動器疼痛の治療-骨粗鬆症から慢性疼痛まで-. 第77回八事整形会; 201903; 名古屋.

大谷 晃司. 運動器難治性疼痛治療の考え方とその実際. 運動器疼痛治療 WEB セミナー2019; 201903;

大谷 晃司. 難治性運動器疼痛治療の実際: リエゾン診療を通じて学んだこと. 第17回埼玉整形外科トピック・リエゾンセミナー; 201910; 埼玉.

大谷 晃司. 非特異的腰痛への対応の試み. 日本カイロプラクティック科学学会第10回学術大会; 201911; 東京.

##### 〔招待講演〕

色摩弥生. 「大学教員にとっての研究 ～医学研究と教育研究の経験から～」. 福島医学会第476回学術研究集会; 201905; 福島.

大谷 晃司. 慢性腰痛の治療戦略 -TVの症例を再掲示する-. 第10回道南疼痛研究会学術講演会; 201906; 函館.

## 〔シンポジウム〕

山本竜也, 青木俊太郎(大会企画シンポジウム・話題提供). 抑うつ行動科学. 第34回日本行動科学学会ウィンターカンファレンス; 201803; 八幡平.

大谷晃司. 新専門医制度下の専門医研修の目指すところと今後の展望 医学部や卒後の臨床医学教育の目指すところと整形外科. 第91回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(2):S35.

矢吹省司, 関口美穂, 大谷晃司, 菊地臣一, 紺野慎一. 日整会プロジェクト研究が発展させた脊髄椎管狭窄症の population-based study. 第91回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S555.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 紺野慎一. 脊椎障害および最先端の conditioning プロのスポーツ選手における腰部椎間関節痛の診断と治療. 第44回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会; 201809; 徳島. 日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌. 38(4):464.

山本竜也(企画, 司会), 青木俊太郎, 太田滋春, 岩野 卓(話題提供), 遊佐安一郎(指定討論). 認知行動療法を「集団」で実施することはクライアントにどのような利益をもたらすか? 日本認知・行動療法学会第44回大会; 201810; 東京.

大谷晃司. 健康寿命延伸に向けて: 整形外科の立場からーロコモティブシンドロームー. 第72回日本臨床眼科学会; 201810; 東京.

大谷 晃司, 菊地 臣一, 二階堂 琢也, 矢吹 省司, 紺野 慎一. 一般住民における腰部椎管狭窄症と腰痛との関係 -南会津スタディより-. 第92回日本整形外科学会学術総会; 201905; 横浜.

諸井陽子, 色摩弥生. 開設10周年を迎えた福島県立医科大学スキルラボの利用拡大と運営の工夫. 第13回東北シミュレーション医学教育研究会; 201905; 山形.

諸井陽子, 青木俊太郎, 安井清孝, 坂本信雄, 安田恵, 末永博紀, マハムスタンヨン, 唐尊一, 色摩弥生, 大谷晃司. 医療コミュニケーション教育に貢献する模擬患者の新規養成の報告. 第14回東北シミュレーション医学教育研究会; 201912; 福島.

## 〔研究発表〕

Kobayashi G, Sugawara A, Moroi Y, Ishikawa K. Manual dexterity and career choice observed in a laparoscopic surgery simulation training for medical students. 15th Asia Pacific Medical Education Conference (APMEC); 201801; Singapore.

Kato K, Otani K, Sekiguchi M, Yabuki S, Nikaïdo T, Watanabe K, Kobayashi H, Tominaga R, Kikuchi S, Konno S. Associations among natural history, conservative treatment and health-related quality of life among patients with symptomatic lumbar spinal stenosis: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS). 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Kobayashi H, Otani K, Nikaïdo T, Watanabe K, Kato K, Tominaga R, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Population-based study of medical resource usage by patients with lumbar spinal stenosis. 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Nikaïdo T, Kikuchi S, Otani K, Igari T, Sekiguchi M, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Yabuki S, Konno S. Intermittent claudication due to low back pain in the community: the Minami Aizu Study. 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Otani K, Kikuchi S, Sekiguchi M, Nikaïdo T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Yabuki S, Konno S. Does lumbar spinal stenosis induce fall? A prospective one-year follow-up. 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Otani K, Kikuchi S, Nikaïdo T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Yabuki S, Konno S. Low back pain related disability and MRI findings in the elderly: a cross-sectional and prospective one-year follow-up in the community. 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Watanabe K, Otani K, Sekiguchi M, Nikaïdo T, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Spinal deformity and depression symptoms -locomotive syndrome and health outcomes in aizu cohort study (LOHAS). 46th Annual meeting of the International Society for the Study of the Lumbar Spine; 201805; Banff, Canada.

Takano Y, Aoki S, Kitagawa N, Kawamura A. Difference in sleep hygiene between major depressive disorder and bipolar disorder: Preliminary research. 9th Congress of Asian Sleep Research Society (ASRS); 201806; Sapporo.

Tsuji Y, Aoki S, Sakano Y. Classification of cognitive response patterns of family members of drug users. 19th Congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism; 201809; Kyoto.

Murata S, Ono R, Omata J, Endo T, Otani K. Coexistence of chronic musculoskeletal pain and depressive symptoms and their effects on the onset of disability in older adults. 17th IASP World Congress on Pain; 201809; Boston, USA.

Ono R, Murata S, Omata J, Endo T, Otani K. Impact of locomotive disorders on the correlation between depression and physical activity/inactivity in community-dwelling elderly. 7th International Society for Physical Activity and Health Congress; 201810; London, United Kingdom.

Ono R, Murata S, Omata J, Endo T, Otani K. Relationship between sedentary times and diabetes mellitus in community-dwelling elderly with locomotive disorders. 7th International Society for Physical Activity and Health Congress; 201810; London, United Kingdom.

Kanazawa J, Motoya R, Sekiguchi M, Hachiya M, Ishida M, Fujimoto M, Sato M, Harada H, Sakano Y, Hirano T. Impact of cognitive behavioral factors on depressive symptoms in recipients with undergoing living-related kidney transplantation. 52nd annual convention Association for Behavioral and Cognitive Therapies; 201811; Washington, DC, USA.

Takano Y, Tsuji Y, Aoki S, Sakano Y. Anxiety symptoms as mediators in the relationship between perfectionism and daily life. 52nd annual convention Association for Behavioral and Cognitive Therapies; 201811; Washington, DC, USA.

Midorikawa, M Murakami, K Tanigawa, M Abdel-Wahab, A Ohtsuru. Difficulty communicating with residents regarding thyroid cancer screening following a nuclear accident: knowledge obtained from our communication and educational experiences. IAEA International Symposium on Communicating Nuclear Radiological Emergencies to the Public; 201811; Vienna, Austria.

A Kumagai. Risk communication and medical/health professional's role in Fukushima. IAEA International Symposium on Communicating Nuclear Radiological Emergencies to the Public; 201811; Vienna, Austria.

Ono R, Murata S, Omata J, Endo T, Otani K. The impact of locomotive disorders on social frailty in community-dwelling elderly: a 1-year prospective cohort study. World Confederation for Physical Therapy Congress; 201905; Geneva, Suisse.

Kobayashi H, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Quantitative evaluation of motor function of the lower extremity using the foot tapping test: Part2. Five-year follow-up. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Nikaido T, Otani K, Sekiguchi M, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Characteristics of neuropathic pain due to lumbar spine disorders: Relationship with recognition of pain, psychiatric problems and HR-QoL. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Kato.K, Otoshi.K, Yabuki.S, Otani.K, Nikaido.T, Watanabe.K, Kobayashi.H, Kikuchi.S, Konno.S. Development and enlargement of ossification of the ligamentum flavum in the thoraco-lumbar spine in Asian professional baseball players: comparison with age- and sex-matched control subjects. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Nikaido.T, Otani.K, Sekiguchi.M, Igari.T, Watanabe.K, Kato.K, Kobayashi.H, Yabuki.S, Kikuchi.S, Konno.S. Relationship between degenerative changes in paraspinal muscles and lumbar spinal stenosis in the community. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Kato.K, Otoshi.K, Yabuki.S, Otani.K, Nikaido.T, Watanabe.K, Kobayash.H, Kikuchi.S, konno.S. Lumbar spine facet joint osteoarthritis in professional athletes. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Kato.K, Otoshi.K, Yabuki.S, Otani.K, Nikaido.T, Watanabe.K, Kobayashi.H, Kikuchi.S, Konno.S. Association between core stability and low back pain in high-school baseball players. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Watanabe.K, Otani.K, Nikaido.T, Kato.K, Kobayashi.H, Yabuki.S, Kikuchi.S, konno.S. Five-year results of lumbar spinal stenosis with degenerative spondylolisthesis treated with decompression alone. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Watanabe.K, Otani.K, Nikaido.T, Kato.K, Kobayashi.H, Yabuki.S, Kikuchi.S, Konno.S. Pre-operative evaluation by the Brief Scale for Psychiatric problems in Orthopaedic Patients (BS-POP) relates to poor surgical outcomes of lumbar decompression surgery. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Otani.K, Kikuchi.S, Nikaido.T, Konno.S. Does magnitude of dural tube compression induce fall? - A prospective one-year follow-up in the community - . 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Otani.K, Kikuchi.S, Nikaido.T, Konno.S. Does Dural Sac Cross-sectional Area (DCSA) predict the presence of subjective LSS Symptom for six-year follow-up?. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

Otani.K, Kikuchi.S, Nikaido.T, Yabuki.S, Konno.S. Cross-sectional and one-year follow-up study for the relationship between lumbar spinal stenosis and low back pain in the community. 46th International Society for the Study of the Lumbar Spine Annual Meeting; 201906; Kyoto.

A Ohtsuru, T Ohba, K Yasui, A Kumagai, S Midorikawa. What is expected in NA/39 project from the viewpoint of radiation health literacy education. IAEA Consultancy Meeting for NA9\_39 Project Topics: STS education support on return in the context of low-dose radiation; 201906; Fukushima.

Kazunobu Ishikawa, Gen Kobayashi, Hiroshi Igarashi, Akiko Sugawara, Toshiyuki Naka, Yukie Abe. Building a nationwide medical teachers' network engaging in simulation-based education. amee 2019; 201908; Vienna, Austria.

Midorikawa, M Murakami, A Ohtsuru. Toward the establishment of radiation health risk science: The effect of education on radiation risk perception among young people. 16th Intern Congress Radiat Res; 201908; Manchester, United Kingdom.

Toda, W., Matsumoto, J., Itagaki, S., Ohnishi, T., Ito, H., Ishii, S., Shiga, T., Matsuyamoto, T., Aoki, S., Miura, I & Yabe, H.. The relationship between white matter integrity and tendency of ADHD: a preliminary study. 32nd ECNP CONGRESS; 201909; Copenhagen, Denmark.

Ono R, Murata S, Uchida K, Omata J, Endo T, Otani K. The reciprocal relationship between locomotive disorders and social frailty in community-dwelling elderly: 2 years cohort study. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress; 201910; Taipei.

T Ohba, K Mabune, S Midorikawa, A Ohtsuru. The frontier of educations for radiological technologists in a nuclear accident - Current status of educations and points to be considered - The 62nd Ann Meeting Jpn Radiat Res Soc Symposium3: A new horizon of radiation health risk science education from the experience of nuclear disaster; 201910; Kyoto.

Midorikawa. Strategies for developing an education program: communication and decision-making aids in radiation health risk science. The 62nd Ann Meeting Jpn Radiat Res Soc Symposium3: A new horizon of radiation health risk science education from the experience of nuclear disaster; 201910; Kyoto.

富永亮司, 矢吹省司, 小林 洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 大谷晃司, 紺野慎一. 腰椎分離症に対する 0-arm と脊椎内視鏡を用いた最小侵襲分離部修復術 1 例報告. 第 28 回東北脊椎外科研究会; 201801; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 61(1):236.

陳内彩音, 河村麻果, 青木俊太郎, 藤田雅彦. 閉塞性睡眠時無呼吸の患者に対する肥満の集団認知行動療法実施の試み. 日本心身医学会北海道支部第 43 回例会; 201802; 札幌.

大谷晃司. Scapulohumeral Reflex of Shimizu (SHR) の疫学. 第 41 回福島脊椎脊髄疾患研究会; 201804; 郡山.

平井 亨, 関口美穂, 大谷晃司, 紺野慎一. 地域住民における頸髄圧迫と臨床症状との関係 — 自覚症状と錐体路徴候 —. 第 41 回福島脊椎脊髄疾患研究会; 201804; 郡山.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 関口美穂, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊柱矢状面アライメントと頸部愁訴との関連 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):230.

加藤欽志, 大谷晃司, 関口美穂, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 富永亮司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する保存治療は自然経過と比較して QOL を改善するか? Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):319.

富永亮司, 二階堂琢也, 小林 洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する棘突起縦割式切除術の有効性の検討 系統レビューとメタアナリシス. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):360.

小林 洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 富永亮司, 矢吹省司, 紺野慎一. 10 秒テストと握力を組み合わせた、新しい頸髄症スクリーニングツールの開発 南会津スタディ. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):490.

大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄は転倒の危険因子となるか? 縦断研究. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20180412-14; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):653.

二階堂琢也, 大谷晃司, 関口美穂, 猪狩貴弘, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部傍脊柱筋の退行性変化と神経性間欠跛行との関係 南会津スタディ. 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):654.

二階堂琢也, 大谷晃司, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 紺野慎一. 一般住民における背筋力と脊柱矢状面アライメントとの関連 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study(LOHAS). 第 47 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201804; 神戸. Journal of Spine Research. 9(3):787.

高野真澄, 大谷晃司. 福島県初期研修医に対するアンケートからみるエコーハンズオンセミナーの有用性. 一般社団法人日本心エコー学会第 29 回学術集会; 201804; 盛岡.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 一般住民における肩こりと頸部痛の差異 健康関連 QOL の検討. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(2):S223.

大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S1157.

小林 洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 握力を用いた頸部脊髄症のスクリーニングの有用性 南会津スタディ 年齢階層別・性別のカットオフ値の検討. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S723.

二階堂琢也, 大谷晃司, 関口美穂, 猪狩貴弘, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 一般住民における腰痛性間欠跛行に関連する因子の検討 南会津スタディ. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S829.

大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 自記式腰部脊柱管狭窄診断サポートツールは、腰部脊柱管狭窄の重症度を評価できるか(第 1 報) 地域住民における横断調査. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S832.

二階堂琢也, 大谷晃司, 関口美穂, 猪狩貴弘, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 富永亮司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 地域住民における傍脊柱筋の退行性変化と腰部脊柱管狭窄との関係 南会津スタディ. 第 91 回日本整形外科学会学術総会; 201805; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 92(3):S1098.

小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 石川和信. 専門診療科選択から医学生時期の臨床外科シミュレータ操作力を分析する. 第6回日本シミュレーション医療教育学会学術大会; 201806; 岐阜. プログラム・抄録集. 34.

高野真澄, 大谷晃司. 福島県初期研修医に対するアンケートからみるエコーハンズオンセミナーの有用性. 日本超音波医学会第91回学術集会; 201806; 神戸. 超音波医学. 45(Suppl):S776.

福田宏成, 遠藤達矢, 富永亮司, 岩渕真澄, 関口美穂, 大谷晃司, 白土 修, 紺野慎一. 地域住民における膝痛、腰痛、および転倒との関連性 LOHAS. 第30回日本運動器科学会; 201806; 宜野湾. 運動器リハビリテーション. 29(2):151.

村田峻輔, 小野 玲, 小俣純一, 遠藤達矢, 大谷晃司. 運動器慢性痛と抑うつ症状の組み合わせによる日常生活動作障害発症への影響. 第60回日本老年医学会学術集会; 201806; 京都. 日本老年医学会雑誌. 55(Suppl):137.

小野 玲, 村田峻輔, 小俣純一, 遠藤達矢, 大谷晃司. ロコモティブシンドロームを有した地域在住高齢者における座位時間と糖尿病の関係. 第60回日本老年医学会学術集会; 201806; 京都. 日本老年医学会雑誌. 55(Suppl):143.

平井 亨, 関口美穂, 大谷晃司, 紺野慎一. 地域住民における頸髄圧迫と臨床症状との関係 自覚症状と錐体路徴候. 第40回日本疼痛学会; 201806; 長崎. Pain Research. 33(2):126.

青木俊太郎, 高垣耕企, 河村麻果, 北川信樹, 坂野雄二. 行動活性化による抑うつ症状と不安症状の改善経路の検討 -ネットワークアナリシス-. 第15回日本うつ病学会総会; 201807; 東京.

成瀬麻夕, 青木俊太郎, 市来真彦, 井上 猛. 小児期の虐待体験が抑うつ症状に与える影響の笑い媒介効果. 第15回日本うつ病学会総会; 201807; 東京.

成瀬麻夕, 青木俊太郎, 井上 猛. 批判の認識が社会生活の機能障害を介して抑うつ症状に与える影響. 第15回日本うつ病学会総会; 201807; 東京.

神田正樹, 木下瑠菜, 楯 和馬, 遠藤知里, 垣野内景, 大谷晃司, 後藤あや, 挟間章博. 大学入学前の人体・健康教育に関する分析. 第50回日本医学教育学会; 201808; 東京. 医学教育. 49(Suppl):248.

鈴木祿貴, 大山伊吹, 小澤尚弥, 守屋伶香フローラ, 千葉菜々絵, 福地雄二, 坂本隆二, 遠藤伊栞, 岡村悠里, 山田祈乃里, 大谷晃司. 福島県立医科大における災害・放射線医学教育の変遷. 第50回日本医学教育学会; 201808; 東京. 医学教育. 49(Suppl):252.

田内雅士, 佐竹秀一, 大谷晃司. 外傷初期診療セミナーの参加学生の講義内容への理解度に関する検討. 第50回日本医学教育学会; 201808; 東京. 医学教育. 49(Suppl):261.

安井清孝, 小林智之, 色摩弥生. 地域実習における視聴覚教材の検討. 第50回医学教育学会; 201808; 東京. 医学教育. 49(Suppl):111.

菅原亜紀子, 諸井陽子, 小林 元, 大谷晃司, 石川和信. 医学用語によって異なる医学生の用語認知と説明能力の習熟パターン. 第50回日本医学教育学会大会; 201808; 東京. 医学教育. 49(Suppl.):225.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 沼崎広法, 紺野慎一. プロ野球選手における胸部黄色靭帯骨化症の特徴 年齢と性をマッチさせた対照例との比較. 第44回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会; 201809; 徳島. 日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌. 38(4):470.

青木俊太郎, 成瀬麻夕, 堀内 聡, 矢部博興. うつ病患者の治療期間と家族からの批判の関係性. 第72回東北精神神経学会総会; 201809; 山形.

上田広大, 北川信樹, 青木俊太郎. 抑うつ症状に対する集団行動活性化療法の試みと効果. 集団認知行動療法研究会第9回学術総会; 201810; 東京.

平井 亨, 関口美穂, 大谷晃司, 紺野慎一. 地域住民における頸髄圧迫と臨床症状との関係 錐体路徴候. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会; 201810; 奈良. 日本整形外科学会雑誌. 92(8):S1962.

青木俊太郎, 松本純弥, 大谷晃司, 戸田 亘, 矢部博興. 疼痛性障害に対する行動活性化療法の試み. 第9回福島運動器疼痛セミナー; 201810; 福島.

跡部 灯, 青木俊太郎, 関口真有, 本谷 亮. 大学生がもつ性同一性障害(GID)への知識, 当事者への印象と対応. 日本認知・行動療法学会第44回大会; 201810; 東京.

陳内彩音, 河村麻果, 青木俊太郎, 藤田雅彦. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する肥満解消の集団認知行動療法の試み-6か月後の体重維持の成果-. 日本認知・行動療法学会第44回大会; 201810; 東京.

高野裕太，辻 由依，青木俊太郎，坂野雄二. Clinical Perfectionism Questionnaire 日本語版の作成—因子構造，信頼性および妥当性の確認—. 日本認知・行動療法学会第 44 回大会；201810；東京.

辻 由依，青木俊太郎，坂野雄二. 薬物使用者の家族の認知的反応の検討—尺度作成と因子構造の確認—. 日本認知・行動療法学会第 44 回大会；201810；東京.

諸井陽子，色摩弥生. 臨床実習 72 週化に伴うスキルラボ利用の変化. 第 12 回東北シミュレーション医学医療教育研究会大会；201812；仙台. 抄録集. 10.

結城 拓也，渡邊 和之，大谷 晃司，小林 洋，加藤 欽志，二階堂 琢也，矢吹 省司，紺野 慎一. 腰椎砂時計腫術後 15 年で頸椎砂時計腫を発症した 1 例. 第 29 回東北脊椎外科研究会；201901；仙台.

草野 敬悟，渡邊 和之，小林 洋，加藤 欽志，二階堂 琢也，大谷 晃司，矢吹 省司，紺野 慎一. 幼児環軸関節亜脱臼の治療経験-1 例報告-. 第 29 回東北脊椎外科研究会；201901；仙台.

二階堂 琢也，大谷 晃司，渡邊 和之，加藤 欽志，小林 洋，矢吹 省司，紺野 慎一. 福島県における脊椎外科手術レジストリの現状. 第 29 回東北脊椎外科研究会；201901；仙台.

國島 麻実子，渡邊 和之，小林 洋，加藤 欽志，二階堂 琢也，大谷 晃司，矢吹 省司，紺野 慎一. 転移性髄内腫瘍の治療経験-1 例報告-. 第 29 回東北脊椎外科研究会；201901；仙台.

高野裕太，青木俊太郎，坂野雄二. Clinical Perfectionism が不安症状を強める過程—ネットワーク分析を用いた検討—. 第 11 回日本不安症学会大会；201902；岐阜.

青木俊太郎，土井理美，高垣耕企，河村麻果，北川信樹，矢部博興，坂野雄二. 気分障害患者の不安によって生じる生活機能障害—価値に向かう行動の媒介効果—. 第 11 回日本不安症学会大会；201902；岐阜.

加藤 欽志，大歳 憲一，矢吹 省司，大谷 晃司，二階堂 琢也，渡邊 和之，小林 洋，紺野 慎一. 野球選手における腰椎終末期分離の存在は競技生活に影響するか？. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会；201904；横浜.

小林 洋, 大谷 晃司, 二階堂 琢也, 渡邊 和之, 加藤 欽志, 矢吹 省司, 紺野 慎一. 足10秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における菓子運動機能の定量評価-第2報:術後5年フォローアップによる経時的変化の検討-. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

大谷 晃司, 二階堂 琢也, 菊地 臣一, 紺野 慎一. 地域住民における腰部脊柱管狭窄の実態-硬膜管の横断面積は10年後の腰部脊柱管狭窄症状の存在を予測できるか. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

大瀧 遥, 関口 美穂, 大谷 晃司, 紺野 慎一. MRIによる頸椎椎間板変性の各種評価法の比較. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

大谷 晃司, 二階堂 琢也, 菊地 臣一, 紺野 慎一. 腰椎部硬膜管面積と転倒との関係-縦断研究-. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

二階堂 琢也, 大谷 晃司, 関口 美穂, 猪狩 貴弘, 渡邊 和之, 加藤 欽志, 小林 洋, 矢吹 省司, 紺野 慎一. 地域住民における傍脊柱筋の脂肪変性と腰部脊柱管狭窄との関係-南会津スタディ-. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

渡邊 和之, 大歳 憲一, 二階堂 琢也, 加藤 欽志, 小林 洋, 大谷 晃司, 矢吹 省司, 菊地 臣一, 紺野 慎一. 学童期バスケットボール選手の腰痛-メディカルサポートは有用か-. 第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 201904; 横浜.

二階堂 琢也, 関口 美穂, 渡邊 和之, 加藤 欽志, 小林 洋, 大谷 晃司, 矢吹 省司, 紺野 慎一. 腰椎疾患による神経障害性疼痛の特徴-痛みの認知、心理的問題、QOLとの関係-. 第92回日本整形外科学会学術総会; 201905; 横浜.

小林 洋, 大谷 晃司, 加藤 欽志, 渡邊 和之, 二階堂 琢也, 矢吹 省司, 紺野 慎一. 10秒テストと握力を用いた頸髄症スクリーニングツールの開発-利き手と左右差を用いたスコアリングシステム-. 第92回日本整形外科学会学術総会; 201905; 横浜.

大瀧 遥, 関口 美穂, 大谷 晃司, 紺野 慎一. MRIによる頸椎椎間板変性の評価-各種評価法の比較-. 第92回日本整形外科学会学術総会; 201905; 横浜.

大谷 晃司, 菊地 臣一, 紺野 慎一. ロコモティブシンドロームの経年的変化. 第92回日本整形外科学会学術総会; 201905; 横浜.

森本 忠嗣，前田 和政，平田 寛人，寺島 嘉紀，宮腰 尚久，大谷 晃司，寒竹 司，中村 英一郎，信藤 真理，園畑 素樹，馬渡 正明. 感染性心内膜炎を合併した化膿性脊椎炎の特徴. 第 92 回日本整形外科学会学術総会；201905；横浜.

青木俊太郎，横倉俊也，上田由桂，菊地潤，志賀可奈子，大西真央，石山あかね，本谷亮，土屋垣内晶，矢部博興. 福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 認知行動療法 (CBT) 研究. 第 115 回日本精神神経学会学術総会；201906；新潟.

河野創一，菅野和子，浅野太志，青木俊太郎，藤原達雄，阿部和道，高橋敦史，義久精臣，三浦至，矢部博興. 福島県立医科大学神経精神医学講座の研究 光トポグラフィー (NIRS) 研究. 第 115 回日本精神神経学会学術総会；201906；新潟.

戸田亘，松本純弥，板垣俊太郎，大西隆，伊藤浩，石井士朗，志賀哲也，松本貴智，青木俊太郎，三浦至，矢部博興. 自閉スペクトラム症の傾向と白質線維束における関連解析の試み. 第 115 回日本精神神経学会学術総会；201906；新潟.

小野 玲，村田 峻輔，内田 一彰，小俣 純一，遠藤 達矢，大谷 晃司. 地域在住後期高齢者においてソーシャルフレイルと認知機能低下は腎機能低下と関連するか？. 第 31 回日本老年学会総会；201906；仙台.

小林 洋，大谷 晃司，二階堂 琢也，渡邊 和之，加藤 欽志，半田 隼一，矢吹 省司，紺野 慎一. 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する手術療法 - 平成における当科の治療法の変遷 -. 第 116 回東北整形災害外科学会；201906；盛岡.

石川 圭佑，半田 隼一，二階堂 琢也，渡邊 和之，笹島 功一，相沢 利武，大谷 晃司. 腰部脊柱管狭窄症における認知症が術後疼痛と機能に与える影響について. 第 116 回東北整形災害外科学会；201906；盛岡.

安井清孝，色摩弥生，坂本信雄，青木俊太郎，諸井陽子，末永博紀，唐尊一，千葉靖子，大谷晃司. 鑑別疾患想起能力に対する症候論講義と TBL 授業の比較. 第 51 回日本医学教育学会大会；201907；京都.

諸井陽子，色摩弥生，安井清孝，青木俊太郎，千葉靖子，坂本信雄，唐尊一，末永博紀，大谷晃司. 医学部におけるチーム基盤型学習 (TBL) の導入に関する全国調査. 第 51 回日本医学教育学会大会；201907；京都.

色摩弥生，青木俊太郎，坂本信雄，末永博紀，唐尊一，千葉靖子，諸井陽子，安井清孝，大谷晃司．早期臨床体験実習のバックヤード見学が学生に与える影響．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

新津 順也，大山 伊吹，鈴木 禄貴，岡村 悠里，秋本 愛美，江角 愛，川島 萌，桜井 睦美，鈴木 早也香，増田 千晴，加賀谷 豊，大谷 晃司．福島県立医科大学と東北大学医学科の比較－災害教育の変遷－．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

神田 正樹，木下 瑠菜，楯 和馬，小野 将寛，古矢 野々香，垣野内 景，大谷 晃司，挟間 章博．大学入学前の人体と健康教育に関する分析および教科書間の比較．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

青木俊太郎，色摩弥生，安井清孝，諸井陽子，坂本信雄，末永博紀，唐尊一，千葉靖子，大谷晃司．SP参加型医療面接実習での学生の自効力感に対するフィードバックの影響．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

坂本信雄，唐尊一，色摩弥生，大谷晃司．臨床実習へのモデル・コア・カリキュラムの活用と自己評価表の導入～国際認証受審に向けた本学の取り組み～．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

青木俊太郎，竹林由武，色摩弥生，大谷晃司．コミュニケーション講義が医学生のコミュニケーションを行う自信に与える影響．第51回日本医学教育学会大会；201907；京都．

陳内彩音，河村麻果，青木俊太郎，藤田雅彦．閉塞性睡眠時無呼吸患者の肥満に対する集団認知行動療法の長期予後の検討．第19回日本認知療法・認知行動療法学会；201908；岡山．

甲田宗良，成瀬麻夕（企画・話題提供）松本昇（話題提供）青木俊太郎（司会）中村亨（指定討論）．双極性障害の認知・行動病理のメカニズムとその治療 3 -ポジティブ感情の調整過程に焦点を当てて-．日本認知・行動療法学会第45回大会；201908；名古屋．

青木俊太郎（企画・司会）山本竜也，神原広平，金澤潤一郎（話題提供者）．抑うつのも多様性に認知行動療法をどのように活用するか？．日本認知・行動療法学会第45回大会；201908；名古屋．

加藤 欽志，大歳 憲一，矢吹 省司，大谷 晃司，二階堂 琢也，渡邊 和之，小林 洋，半田 隼一，紺野 慎一．野球選手における腰痛の診断と治療．第27回日本腰痛学会；201909；神戸．

加藤 欽志，矢吹 省司，大谷 晃司，二階堂 琢也，渡邊 和之，小林 洋，半田 隼一，紺野 慎一．椎間関節性腰痛の診断と治療．第 27 回日本腰痛学会；201909；神戸．

小林 洋，大谷 晃司，二階堂 琢也，渡邊 和之，加藤 欽志，半田 隼一，矢吹 省司，紺野 慎一．足 10 秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における下肢運動機能の定量評価－術後 5 年フォローアップによる経時的変化の検討－．第 27 回日本腰痛学会；201909；神戸．

大瀧 遥，大谷 晃司，関口 美穂，紺野 慎一．MRI による腰椎椎間板変性分類法と頸椎椎間板変性分類法の頸椎における比較．第 27 回日本腰痛学会；201909；神戸．

渡邊 和之，大歳 憲一，二階堂 琢也，加藤 欽志，小林 洋，半田 隼一，大谷 晃司，矢吹 省司，紺野 慎一．バスケットボールと腰痛－学童期バスケットボール選手における腰痛調査の結果から－．第 27 回日本腰痛学会；201909；神戸．

二階堂 琢也，矢吹 省司，大谷 晃司，関口 美穂，渡邊 和之，加藤 欽志，小林 洋，半田 隼一，紺野 慎一．慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ．第 27 回日本腰痛学会；201909；神戸．

河村麻果，入江智也，本谷亮，青木俊太郎，坂野雄二．CBT におけるアライアンス向上を促すためのセラピストの訓練要素に関する展望．日本認知・行動療法学会第 45 回大会；201909；名古屋．

青木俊太郎，戸田亘，大谷晃司，本谷亮，横倉俊也，松本純弥，志賀可奈子，七海隆之，板垣俊太郎，三浦至，矢部博興．疼痛性障害に対する集団行動活性化療法．第 10 回福島運動器疼痛セミナー；201909；福島．

青木俊太郎，成瀬麻夕，堀内聡，松本貴智，上田由桂，三浦至，矢部博興．うつ病患者の抑うつスキーマと家族からの批判の関係性．第 73 回東北精神神経学会総会；201910；秋田．

内田 一彰，村田 峻輔，遠藤 達矢，小俣 純一，大谷 晃司，小野 玲．地域在住高齢者における 4 年間のロコモティブシンドロームの縦断的变化．第 6 回日本サルコペニア・フレイル学会；201911；新潟市．

戸田亘，松本純弥，石井士朗，板垣俊太郎，大谷晃司，青木俊太郎，三浦至，志賀哲也，松本貴智，菅原茂耕，山國遼，箱崎元晴，渡邊宏剛，矢吹省司，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，小林洋，伊藤浩，紺野慎一，矢部博興．心因性が疑われる高齢の慢性疼痛患者における脳血流の変化．第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会；201911；福島．

高橋雄一，星野大，刑部有祐，吉田久美，松本貴智，青田美穂，今野嶺，藤井進也，青木俊太郎，菅野和子，各務竹康，森湧平，和田知紘，志賀哲也，疋田雅之，板垣俊太郎，三浦至，大井直往，福島哲仁，矢部博興． 統合失調症に対するリズム改善プログラムがミスマッチ陰性電位に及ぼす影響． 第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会； 201911； 福島．

青木俊太郎，戸田亘，菅野和子，大谷晃司，本谷亮，横倉俊也，松本純弥，板垣俊太郎，三浦至，矢部博興． 疼痛性障害に対する集団行動活性化の「痛み度」の変化に関する予備調査． 第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会； 201911； 福島．

矢吹省司，牛田亨宏（座長）松本純弥，二階堂琢也，青木俊太郎（シンポジスト）． 疼痛と神経科学． 第 49 回日本臨床神経生理学会学術大会； 201911； 福島．

青木 俊太郎，竹林由武 色摩弥生 大谷晃司． 医学生が非言語的コミュニケーションを自己理解するためのビデオフィードバックプログラム． 第 14 回東北シミュレーション医学医療教育研究会大会； 201912； 福島．